

令和5年度

(2023年度)

事業報告書

社会福祉法人 北星会

## 【年度統括】

宮津与謝地域においては、現役世代の減少と超高齢化が進むと同時に介護保険制度における軽度（要支援、要介護1）高齢者の増加が続いており、高齢者の単身世帯及び老夫婦世帯の増加が顕著になっております。そのような状況の中、北星会では地域包括ケアシステム的一端を担うことを基本に、施設サービスの充実と事業継続に取り組んできました。

令和5年度は、与謝の園移転・新築事業並びに天橋の郷原子力災害防御設備事業を完了し、将来に向けて安定した法人運営を継続するための基盤整備を行いました。

また、新型コロナが第5類へ移行されたことで様々な規制が緩和される中、北星会でも独自の感染予防策をもって適切に対応することで、施設・事業所での感染拡大を最小限に抑えることができ、法人全体の事業実績も徐々に回復に向かっております。

職員育成につきましては、かねてより取り組んできました「京都福祉人材育成認証制度」における上位認証が認められ、今後の更なる人材確保に役立てていきたいと考えております。

令和6年度は事業効率の拡大を更に推し進めるべく、事業・人事・財務等それぞれの分野で新たな取り組みを進めていきたいと考えております

## 【重点目標への取り組み】

### 令和5年度基本目標、重点項目への取り組みと進捗

基本方針	重点項目	年度目標	進捗
① 誰もが暮らしやすい地域づくりに貢献します。	ア. 与謝の園の移転新築	15名の6ユニット、90名の特養、短期入所を中心に、令和5年度中の開設に向けて計画をすすめます。	令和6年3月10日に竣工し令和6年4月1日にサービスを開始しました。
	イ. 天橋の郷の原子力災害対策工事	施設近隣（UPZ圏内）の要配慮者が安心・安全に避難できる施設となる事を主目的に、放射線防護対策工事を行います。	令和6年3月20日に工事を完了しました。
	ウ. 地域との連携強化（BCP）	これまで進めてきた地域との連携を継続することに加え、地域の避難施設としての役割を担うことにより、施設のBCP対策にもつなげます。	天橋の郷にて地元自治会と締結した災害時一時避難所の協定に基づき、住民参加による避難訓練を実施しました。

	エ. 地域包括ケアシステムへの参加と社会福祉法人としての事業継続（軽度者対策）	地域で開催される会議への職員派遣や研修会への職員参加を促すことに加え、地域に必要な事業を検討します。	地域ケア会議等の参加をはじめ、各種研修会における講師等の派遣を行いました。
		法人本部における事業実績、資金収支管理をすすめます。	毎月の収支実績表を拠点単位で作成し、翌月の施設長会議で報告することで情報共有を行いました
		栗田のびのび児童クラブの受託を継続し、働く両親を支えます。	利用児童は登録人数・延べ人数ともに前年度を上回ることができました。
		オレンジカフェを受託運営し、高齢者の引きこもりを防止するとともに認知症の方やそのご家族の暮らしを支えます。	新型コロナの影響を受け一部休止していた地域もありましたが、5類移行後は従来通りの活動ができました。
		配食サービスを受託運営し、高齢単身世帯や老夫婦世帯の暮らしを支えます。	利用者は登録人数・延べ人数ともに前年度を上回ることができました。
		法人の情報公表を積極的に行います。	広報誌「きらめき」の発刊を年2回に加えて臨時号を2回発刊しました。
	オ. SDGsの宣言目標の達成	法人が宣言しているSDGs 8つの目標達成をめざします。	提供サービス、職場環境、雇用、労務等を通じて目標達成に向けて取り組みました。
② 地域の福祉ニーズに目を向け、新たな福祉サービスの創造に努めます。	カ. 軽度者（要支援1・2、要介護1）を対象としたサービスの提供を検討	宮津、与謝地域においては、要介護度が軽度の方が増える傾向にあり、その方々が在宅生活を続けるために必要なサービスの提供を常に検討します。	配食サービス、買い物支援サービスなどの介護保険外のサービス提供に取り組みました。
		特別養護老人ホーム特別入所制度撤廃に向けての準備、検討を行います。	現在、要介護1.2からの入所申込、行政からの依頼共になく、今後にも必要に応じて検討を

			行うこととします。
		予防プラン作成の直接契約移行対策をすすめます。	市町等からの事業所指定要件を確認し、予防プラン契約の準備を進めます。
		複合サービス（小規模多機能一泊り）展開の検討。	訪問介護事業所の職員不足が続いており、通所介護からの訪問。といった形での運営が可能か、検討を継続します。
		通いの場運営の検討をおこないます。	おもちゃ図書館設置、地域交流ホール活用等、地域の方が通える仕組みづくりを継続検討します。
	キ. 他法人、保険者等との連携強化	行政とも協議を行いつつ、近隣法人との緩やかな連携を含め、連携推進法人等の検討をすすめます。	与謝野町においては、町内事業所連絡会への参加。宮津市においては社会福祉協議会に市内事業所連携の仲介役を担ってもらえるよう依頼しています。
		障害者福祉や保育事業を展開する法人との連携を検討します。	市町からの意見を参考に、必要となる事業の展開と法人連携を検討します。
		国のL I F E促進、電子申請・届出システムへの対応をすすめます。	事業間による介護保険ケアプランデータ連携システムの導入・活用を進めました。
	ク. 介護老人保健施設なぎさ苑の運営方法検討	多床室の部屋代負担対策	超強化型算定施設のため、室料負担額の変更はありませんでした。
		デイケアの報酬変更対策	令和6年6月に改定となりますが、通常規模のため大きな影響はありません。
③ 北星会の職員が感謝の念と謙虚な気持ちを持ち、誇りと喜びをもって仕事に取り組むこと	ケ. 職員全員が基本理念を理解して業務に取り組む	法人理念の理解を深めるとともに法人への所属意識を高めるため、法人設立記念日（職員総会）を継続して開催	令和5年11月25日に職員総会を開催し、法人理念を確認するとともに理事長による講

により、自己実現を果たせる職場環境をめざします。		すします。	話を行いました。
		サービス自主点検や利用者アンケートなどを行い、サービス改善につとめます。	各事業所によるアンケート調査（利用者及びご家族への満足度調査）を実施しました。
コ. 全職員を対象とした研修実施		Eラーニングを活用した職員研修の機会確保と共に、法人全体研修年度計画の充実を図ります。	職員毎に研修目標を立て、テーマに応じたEラーニング受講と振り返りに取り組みました。
		ケアマネ研修等のオンライン化への対応をすすめます。	Zoom等のWeb会議システムを利用して各種会議・研修へ積極的に参加しました。
サ. 介護ロボットやICT機器を活用した職場環境整備		介護ロボット導入により、パーソン・センタード・ケアを推進し、利用者の自立支援につなげるとともに、職員の負担の軽減をすすめます。	補助金を有効活用することで、睡眠状態を把握するベッドセンサーシステムの整備等介護ロボット・ICT機器の導入を進めました。
シ. タスクシフティング（業務細分化）の導入促進		業務の分化により、職員の負担軽減と未経験者の採用促進につなげます。	介護業務を補助する介護補助員の採用に努めることで、未経験者の採用と同時に介護職員の業務軽減に努めました。
ス. 職員の処遇向上		人事考課とキャリアパス制度の再構築につとめます。	新人事考課の実施に向けて準備をしましたが、実施には至らず次年度に持ち越すこととなりました。

## 法人本部 事業報告

### 【令和5年度 法人本部事業統括】

令和5年度は、令和4年7月に発表した「SDGs宣言書」を基本に、各項目の目標達成に向けた取組みを考え実施することで、地域貢献を行うとともに安定した事業運営と更なる職場環境の整備に努めてきました。

その中で11月にオープンした「おもちゃ図書館」は、これまで事業の対象となっていなかった「子育て世代」を対象とするもので、子育て中の親子を中心に想定を超える利用があったことは、今後の新たな地域交流の場となることと期待しています。

また、施設内研修の充実を目的に昨年度導入したオンデマンド研修システム(Eラーニング)を継続して活用することで、職員1人1人のテーマに合わせたきめ細かい研修を行うことができました。

更に人事・労務については、勤怠管理と労務管理の新システムをそれぞれ導入することで、事務負担の軽減とともに職員の各届出(申請)の簡略化を行いました。

令和6年度は、更なる業務効率化に努めるとともに、新しい人事考課を実施すべく具体的な内容の検討と導入に向けた準備を進めていきます。

### 【重点目標への取り組み】

#### 令和5年度 重点項目への取り組みと進捗

重点項目	取組と進捗
ア. 与謝の園の移転新築	令和5年1月13日着工、令和6年3月10日に完成。令和6年4月1日に長期75名、短期15名にてサービスを開始しました。
イ. 天橋の郷の原子力災害対策工事	施設近隣(UPZ圏内)の要配慮者が安全に避難できることを目的に工事を行い、令和6年3月20日に工事を完了しました。
ウ. 地域との連携強化	地域住民と合同による避難訓練の実施など地域の避難施設としての役割を確認するとともに、施設のBCP対策にもつなげました。
エ. 地域包括ケアシステムへの参加と社会福祉法人としての事業継続	地域で開催される会議への職員派遣、オレンジカフェ・配食サービスの受託、放課後児童クラブの受託など様々なサービスの提供により、社会福祉法人としての事業継続に努めました。

オ. SDGsの宣言目標の達成	8つのSDGs目標を法人で設定・公表するとともに、実施するサービスや職場環境・雇用・労務などを通じて目標達成に向けて取り組みました。
カ. 軽度者（要支援1・2、要介護1）を対象としたサービスの提供を検討	当地域でも軽度の方が増える中、在宅生活を続けるために必要なサービスの提供を検討し、配食サービス、買い物支援サービスなどの介護保険外のサービス提供に取り組みました。
キ. 他法人、保険者等との連携強化	行政とも協議を行いつつ、近隣法人との緩やかな連携を含め、連携推進法人等の検討するとともに、障害者福祉や保育事業を展開する法人との連携も検討しております。
ク. 介護老人保健施設なぎさ苑の運営方法検討	多床室の部屋代負担対策やデイケアの報酬変更対策を検討。現在のところ現状維持となっております。
ケ. 職員全員が基本理念を理解して業務に取り組む	法人理念の理解を深めるため、法人設立記念日および職員総会を開催。法人理念を確認するとともに理事長による講話を行いました。
コ. 全職員を対象とした研修実施	昨年度導入したEラーニングを活用することで、各職員の設定したテーマ毎の研修を空き時間を活用して実施することができました。
サ. 介護ロボットやICT機器を活用した職場環境整備	補助金を有効活用し睡眠状態を把握するベッドセンサーシステムの整備等介護ロボット・ICT機器の導入を進めました。
シ. タスクシフティング（業務細分化）の導入促進	介護業務を補助する介護補助員の採用に努めることで、未経験者の採用と同時に介護職員の業務軽減に努めました。
ス. 職員の処遇向上	人事考課とキャリアパス制度の再構築を目標に新しい人事考課の実施に向けて準備をしましたが、実施には至らず次年度に持ち越すこととなりました。

## ○ 総務課

令和5年度は人事・労務・給与の安定した業務遂行と、労務管理、勤怠管理等のシステムを導入し、申請決裁手続きの効率化を進めてきました。

まず、令和5年7月より勤怠管理（クロッシオン）を導入し、年休や時間外申請を職員個々のスマートフォンやパソコンから申請できる体制を整えました。申請された年休や時間外申請をシステム内で決裁し、申請決裁業務の効率化を進めました。システムの導入に当たりマニュアルを整備し対応しました。

また令和5年9月からは労務管理（スマートHR）の導入により、職員個々のスマ

ートフォンより給与明細、源泉徴収票の確認ができ、年末調整の書類作成や申請をスマートフォンからおこなえるシステムを導入しました。各拠点で相談説明会を開催し、年末調整等の大幅な業務削減と効率化を進めることができました。

最後に、各種調査や届出、補助金申請においても法人本部に極力集約を行い、事務効率化を進めました。

#### 1. 人事・採用・労務・給与関係

- ① 人事・労務・給与業務の効率化について現状を把握し、拠点事務負担の軽減等、今後の方向性を検討しました。
- ② 勤怠管理システム（クロノス）を運用し、年次有給休暇や時間外勤務、出退勤等の勤怠情報を集計し、給与計算処理の効率化をはかりました。また、年休・時間外の集計表を施設長会議にて提示し、各拠点の年休取得推進、時間外勤務の削減等の効果や状況を確認できるようにしました。
- ③ 勤怠管理システム（クロッシオン）の導入により、年次有給休暇や時間外勤務の申請を職員のスマートフォン等から可能とし、業務効率化と申請の迅速化を進めました。
- ④ 給与明細書・賞与明細書・源泉徴収票を、労務管理システム（スマートHR）の導入によりシステム内での確認ができるように対応しました。また、職員への通知を迅速に行いました。令和5年度より年末調整をスマートフォンから申請できるようにし、申請方法の大幅な簡略化を進めることができました。
- ⑤ 社会保険の電子申請を進め、事務手続きの集約化を進めました。
- ⑥ 就業規則や給与規程の改定に伴う、給与計算ソフトや勤怠管理システム設定の対応を行いました。

#### 2. 広報活動の充実

- ① 広報誌「きらめき」を年2回発刊と、直近の情報をお伝えできるよう、臨時号の発刊を2回行い、地域の方や求職者に法人の魅力が伝わるように工夫し、法人の取り組みについて広く知ってもらえるように努めました。
- ② 人材の獲得と採用のための広報活動（ホームページ、フェイスブック等のSNSを活用した求人情報）を事業化とともに進めました。
- ③ 北星会ホームページの見直しを進め、各拠点が情報発信を行えるよう、お知らせページや、ブログの充実に努めました。また、栗田のびのび児童クラブのページを開設し、情報の発信を積極的行いました。

#### 3. 規則規程関係の整備

- ① 職員が安心して業務を行える環境整備のため、給与規程、就業規則及び各種管理規程の整備を行い、職員への周知を行いました。
- ② 各拠点へ変更内容の周知を行い、規則綴りの更新管理を行いました。

#### 4. 効率的な補助金請求や事務管理

コロナ関係の給付金を含め補助金等の手続きなど、拠点と協力し進めました。

## 5. きょうと福祉人材育成認証制度への申請

きょうと福祉人材育成認証制度の上位認証の申請を令和4年度に続き行いました。申請書類準備を進め上位認証を受けることができ、今後上位認証法人としての組織体制、キャリアアップ、福利厚生等を提案推進していきます。

## ○ 財務課

令和5年度は、電子帳簿保存法及びインボイス制度の制度適用開始に合わせて、研修開催と適切な会計処理を実施しました。

また、今年度より未収及び未払金を当月計上し、各拠点の収支・財務状況について、法人本部がリアルタイムで把握し、施設長会議で定期的に報告、法人本部で全拠点の状況を共有できるよう体制を整えました。

与謝の園移転・新築事業は、建築完了に合わせて作成した具体的な資金調達のスケジュールに沿って、補助金、借入金、自己資金の調整等を行いました。なお、社会福祉充実残額の推移を確認するとともに、建設後に保有する資産を踏まえた財務状況の把握に努めました。

### 1. 会計処理業務等の見直し

- ①令和4年度決算の精査及び令和5年度補正予算の試算、並びに令和6年度予算を作成しました。
- ②本部と各拠点が連携した業務集約化に向けて、作成した会計処理方法に係る経理事務マニュアルを実践しました。
- ③令和5年度に適用された電子帳簿保存法及びインボイス制度の会計処理に係る研修を実施しました。

### 2. 経営分析

- ①法人全体の資産・負債・純資産額を把握し、社会福祉充実算残額の計算と共に、法人の経営状況の把握に努めました。
- ②各拠点の運営と財務の状況把握、課題分析を行い、施設長会議へ情報を提供しました。

### 3. 情報開示

- ①法人ホームページ及び財務諸表等電子開示システムを通じて、令和4年度決算の状況を開示しました。
- ②財務諸表等電子開示システムを通じて、令和4年度社会福祉充実残額および社会福祉充実計画を開示しました。

### 4. 新築事業に係る資金管理

- ①収入スケジュールに基づいた確実な資金確保と支払業務を実施しました。
- ②処分財産及び取得した建物・設備・備品の迅速な資産計上を支援しました。

## ○ 事業課

### 1. 北星会における公益的な活動

公益的な取り組みとして、高齢者だけでなく地域で生活する方の課題解決や交流機会提供の機会を提供する為に11月より「おもちゃ図書館」を天橋園地域交流ホールに設置いたしました。令和5年度は述べ107組の親子が来園され、居住地としては、宮津市だけでなく京丹後市や舞鶴からの来園もありました。3月には宮津市社会福祉協議会と連携し、ボランティア育成の実践編ということで、バルーンアート、ハンドマッサージのイベントを開催いたしました。コロナの状況も落ち着いてきていますので、引き続き様々な活動を継続していきたいと思っています。

### 2. 与謝の園の建替え事業

令和5年2月より工事が着工し、約1年間かけて工事が完了いたしました。最新の設備と機器を使用する事でご利用者にとっても暮らしやすい住環境を提供でき、働く職員にとっても働きやすい職場環境を作ることができました。今後の運用に関しては、行政、各関係機関と連携しながら新しい施設の形を提供していきたいと思っています。

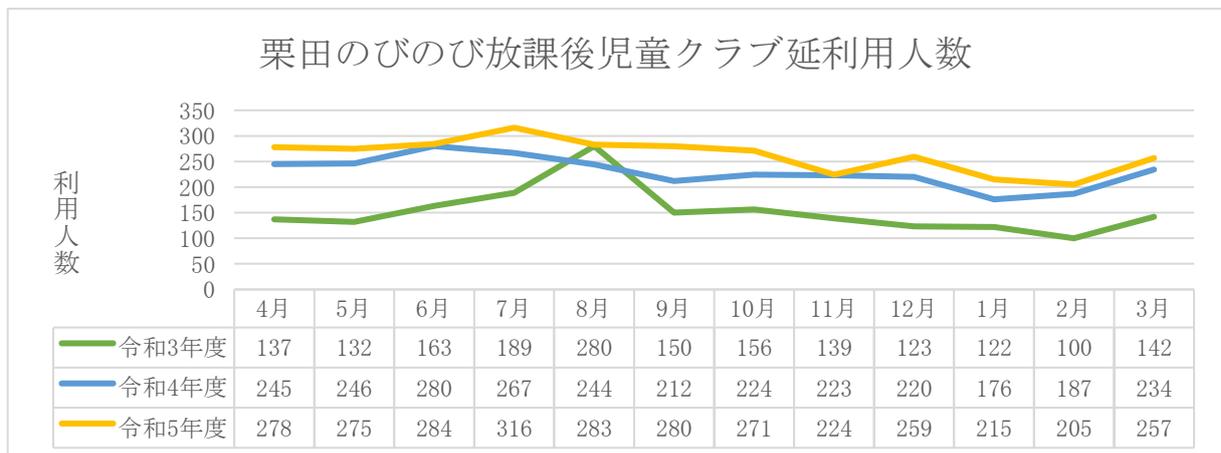
### 3. 栗田小学校放課後児童クラブ事業

令和5年度の栗田のびのび放課後児童クラブでは、利用児童数は令和4年度と比べて延べ人数で389人増加となりました。令和5年3月31日の登録者は、21名となります。

学年内訳

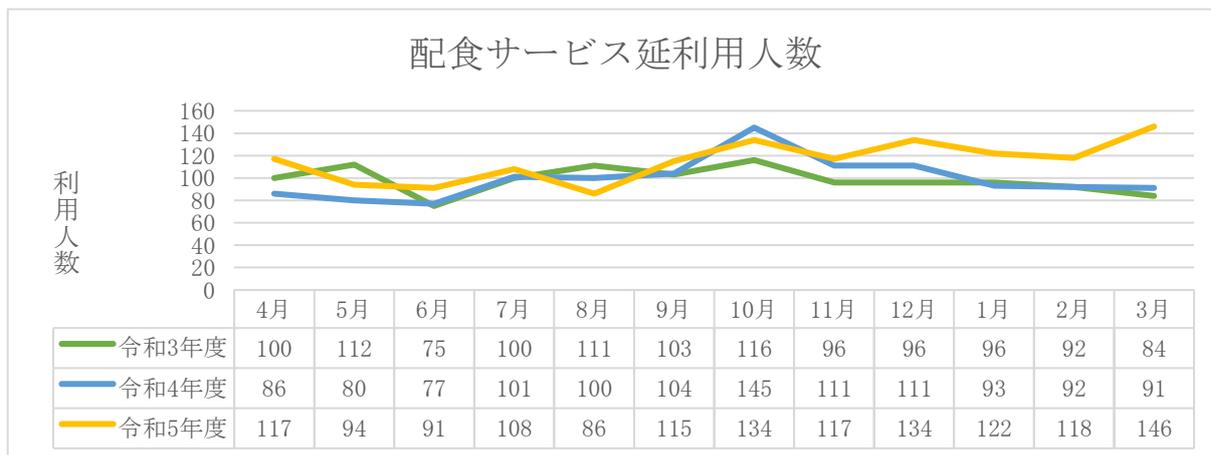
通年 1年生4名 2年生5名 3年生5名 4年3名

長期休みのみ 1年生1名 2年生0名 3年生1名 4年生2名



### 4. 配食サービス事業

令和5年度の宮津市配食サービス事業は、令和4年度と比べて、191食増加しました。令和5年3月31日時点の登録者は、栗田地区8名、由良地区10名の合計18名となります。登録者数は前年度と比べて3人増えました。配食サービス以外にもデイサービス利用の方の持ち帰り弁当の実施も行っており、合わせて、栗田、由良地区高齢者の食を支えて行きたいと思っています。



## 5. 北星会法人研修事業

令和5年度北星会のキャリアパス制度について検討を行ないました。今まで運用していた人事考課制度を見直し、給与規定に沿った形で準備しております。令和6年度より運用を開始する予定としております。令和4年度より導入したeラーニングによる研修についても各拠点の苑内研修やホームヘルパーの研修、法定研修などに活用されています。

## 6. 職員採用活動

令和5年度の北星会職員の採用活動については、与謝の園の職員を中心にリクルートチームを作り、就職ナビサイトの活用によるインターンシップの受入れ、大学からの社会福祉実習受入れ、就職説明会の参加、就職フェアの参加などを行いました。新卒採用の実績は以下の通りです。

### ○新卒職員採用実績

職 種	計 画	実 績
介護職（無資格）	2名	0名
介護職（有資格）	2名	0名
相談員	2名	1名
リハビリ職員	1名	0名
看護師	2名	0名

### ○中途職員採用実績

職種	対応人数	見学	採用
介護職 (臨時職員含む)	36名	12名	7名
看護師	2名	1名	1名
調理	8名	1名	3名
リハビリ	3名	3名	3名
歯科衛生士	1名	1名	1名
児童クラブ支援員	3名	2名	1名
清掃	2名	0名	0名
相談員	2名	1名	1名
調理員	1名	1名	0名

※中途職員採用に関しては、就職フェアの参加、ハローワークへの求人活動を行いました。

## 令和5年度 社会福祉法人北星会

# 総合在宅支援 天橋園 事業報告書

### 【年度統括】

令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行され様々な規制が緩和される中、依然感染者はご利用者・職員共に散見され、そのたびに感染対策を強化するなど厳しい事業運営を強いられてきました。

その様な中でも、対面での面会再開をはじめ、各種実習生の受入、認知症オレンジカフェの再開、一部ボランティアの受入等、少しずつ地域との繋がりも戻りつつあり、今後に向けて地域活動への明るい兆しが感じられる年度となりました。

事業実績につきましては、訪問・通所サービスを中心に利用率低迷の課題解決策として、営業日の見直し（天橋園通所）、土日・休日のサービス提供体制の強化（訪問介護）、事業所から遠方に在住のご利用者の積極的な受入（天橋園通所・ハウゼ天橋・訪問介護）などの対策を行ってきましたが、利用率低下に歯止めがかからずこれまでになかった非常に厳しい事業実績となり、今後更なる事業運営の見直しが必要な状況となっております。

事業所別では、通所サービスの利用率低下が著しく入院・施設入所による利用休止や複数回利用の減少、訪問介護ではサービス提供時間数は前年度より増加したものの、身体介護の提供時間が減少したことで収入総額が減少する結果となりました。グループホームは入院等により稼働率は僅かに減少しましたが収入においては増加、居宅介護支援はプラン作成数・収入ともに増加しております。

各事業所の取組みとしましては、令和4年度に導入されたオンデマンド配信の研修システムを効率よく活用することで、各人が計画した研修内容をピンポイントで受講するとともに、各委員会のテーマごとの研修受講を実施することができました。また昨年度に引き続き、各委員会でのマニュアルの見直し及び再整備をするとともに、認知症サポーター養成講座等、地域での認知症理解向上の取組にも努めました。

今年度このような厳しい結果になった事を非常事態と受け止め、解決すべき課題を再度整理した上で職員全員が一丸となって取り組んでいきたいと考えます。

### 【年度目標に対する成果】

中長期目標	今年度目標	成果
1. すべての世代が共に支え合いながら暮らすことができる「地域共生社会」の実現に向けての支援	① 施設の設備や資源を幅広く提供し、地域住民との繋がりを深めます	災害時における福祉避難所の指定のほか、令和5年度は地域の砂防ダム整備に関する要望書を地元自治会と連名で京都府に提出、地域住民との連携に努めました。

	② 認知症ケアに対する理解をより多くの人々に広めます	認知症オレンジカフェ（宮津市上宮津地区）や認知症サポーターキャラバンメイトでの出張講座（宮津小学校）などを通じて認知症ケアに対する理解を広める活動を行いました。
2. 求められる地域ニーズの追求と良質で安全・安心なサービスの提供	① 調査・アンケート等を実施し、地域ニーズの把握に努めます	満足度調査を実施することで、利用者ニーズの把握を行いました。具体的な対策の立案には至っておらず今後の課題となっております。
	② 職員教育・研修を充実させ、さらなるサービス向上を目指します	オンデマンド配信の研修システムを活用し、職員個々の課題に沿った研修内容にすることでより効果的な職員教育を実施することができました。
3. 利用者と地域住民、職員が共に楽しめる施設づくり	① 常に情報を発信すると同時に地域情報の収集にも努めます	SNS を活用して事業所情報を発信するとともに、地域密着型サービスにおける運営推進会議において様々な意見を収集しました。
	② ウィズコロナの考えのもと、新しい形の地域交流を実践します	地元自治会開催の作品展へご利用者が作成された作品の出展や、お祭りや幼稚園の園児による訪問など、可能な限りの活動を行うことができました。
4. 働き甲斐を感じられる職場環境づくりと将来を見据えた人材育成	① 社会や地域・事業所に対する貢献を感じられるよう育成します	職員が施設責任者と面談を行うことで、経営者・職員がお互いに思いを把握し、目指すべき施設の在り方を考えました。
	② 個別計画に基づいた研修を実施し、職員それぞれのスキルアップに努めます	各職員が個別の目標を立て、計画に基づいた研修（オンデマンド研修）を受講することで、個々のスキルアップに努めました。
5. 新たな事業展開と求められる経営基盤の強化	① 求められるニーズの中、公益的なサービスの展開を進めます	介護保険外のサービス事業所を訪問するなど地域ニーズの把握を行いました。新たな事業展開にまでは至っておらず、今後の課題となっております。
	② サービスの安定供給ができるよう更なる人員強化に取り組みます	パート職員・登録型ヘルパーの求人等、人員強化に努めましたが、訪問介護サービスなど事業所によっては引き続き人員確保が必要な状態となっております。

## 【部門別事業報告】

### 1. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム天橋の家）

令和5年度においては、新型コロナウイルスの施設内感染もあり、利用者だけでなく職員も感染することで通常業務が困難な時期もありましたが、感染予防対策の成果もあり、最小限の感染に留めることができました。

利用稼働率については98.8%と、昨年度同様に安定した数値ではありますが、転倒や体調不良による入院者は3名あり、特養入所による退居者2名、看取り介護実施も1名と例年に比べ空床が目立つ年となりました。

地域密着型事業所としての取り組みとしては、昼食・夕食の配食時を利用し、ご利用者様と共に公用車に乗り、「地域安全パトロール」の看板を掲げ、安全啓発活動を実施してまいりました。

令和6年度は引き続き感染予防対策を徹底し、ご家族や地域との関わりを増やすことで、今まで以上に事業所へ足を向けていただけるよう、積極的な取り組みを展開してまいります。また、ご利用者の機能低下や認知症の進行が予防出来るような取り組みにも力を入れ、安全に生活していただけるよう努めてまいります。

#### ①入居利用者の状況

##### (ア) 稼働率（入居定員：18名）

区分 年度	営業日数	延入居者数	平均入居者数/日	稼働率
4年度	365日	6,544人	17.9人	99.6%
5年度	366日	6,510人	17.8人	98.8%

##### (イ) 契約数

区分 年度	新規入居者数	待機者数
4年度	3人	15人
5年度	4人	19人

##### (ウ) 地区別 新規入居者数の状況

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
4年度	3人	0人	0人	0人
5年度	4人	0人	0人	0人

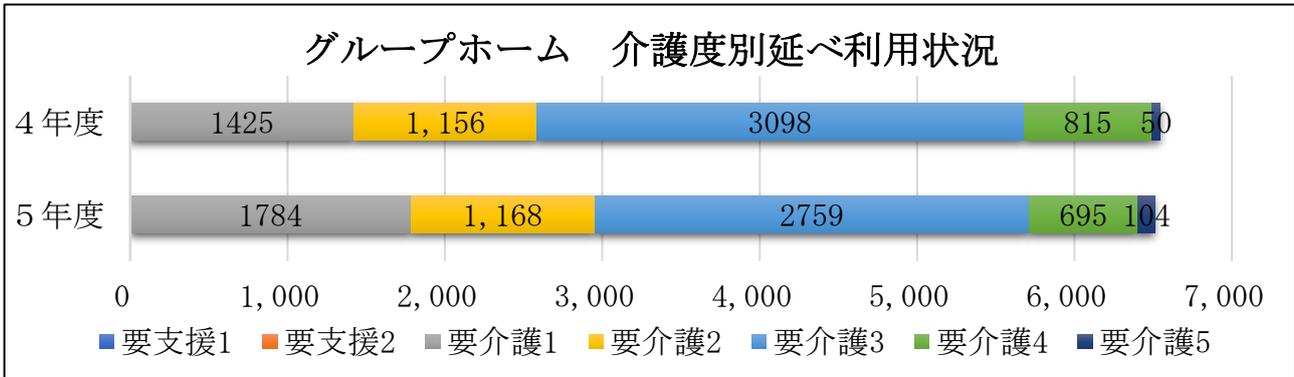
##### (エ) 要介護度別 入居者の状況（各年度 3月現在）

（単位：人）

介護度 性別 年度	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
4年度	0	4	0	2	2	7	0	2	0	1	2	16
5年度	0	6	0	3	1	6	0	2	0	0	1	17
平均要介	4年度		2.7				5年度		2.3			

(オ) 要介護度別 (延入居者数の状況)

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4年度	1,425人	1,156人	3,098人	815人	50人	6,544人
5年度	1,784人	1,168人	2,759人	695人	104人	6,510人



2. 通所介護 (天橋園通所介護事業所)

令和5年度の実績としまして、昨年度より利用者数が減少する対策として、5月より営業日を週6日から週5日に変更し週間利用者数の拡大を図りましたが、新規利用者の定着に繋がりにくいことや利用者の入院の長期化・施設への入所等も重なり、利用率は昨年に比べ大きく下回る結果となりました。

事業については令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が第2類から第5類に引き下げられ、引き続き感染予防に努め、ご利用者・ご家族にもご協力いただいたおかげで事業所内での流行も最小限に防ぐことができました。

職員の研修についても事業所内において感染症、リスクマネジメント、高齢者虐待に関する研修をオンデマンド研修で行い職員各々の知識向上に努めました。

令和6年度は、ご利用者に「楽しい」「また行きたい」と思って頂けるようなデイサービスを目指し、利用者数が増えるようチーム一丸となって頑張っていきたいと思っております。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率 (要介護者及び要支援者)

区分 年度	利用定員/日	営業日数	延利用者数	利用率	平均介護度
4年度	25人	309日	5,785人	74.9%	1.80
5年度	25人	271日	4,596人	67.8%	1.86

※令和4年度は新型コロナ感染症により営業を3日休止

※令和5年6月1日より土曜日の営業を休止。

(イ) 要介護度別利用者数の状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	小計
4年度	2,047人	1,865人	638人	292人	257人	5,099人
5年度	1,352人	1,747人	461人	348人	144人	4,052人

(ウ) 要介護度別利用者数の状況 介護予防

介護度 年度	要支援1	要支援2	小計
4年度	230人	456人	686人
5年度	260人	284人	544人

②加算算定の状況 (通所介護)

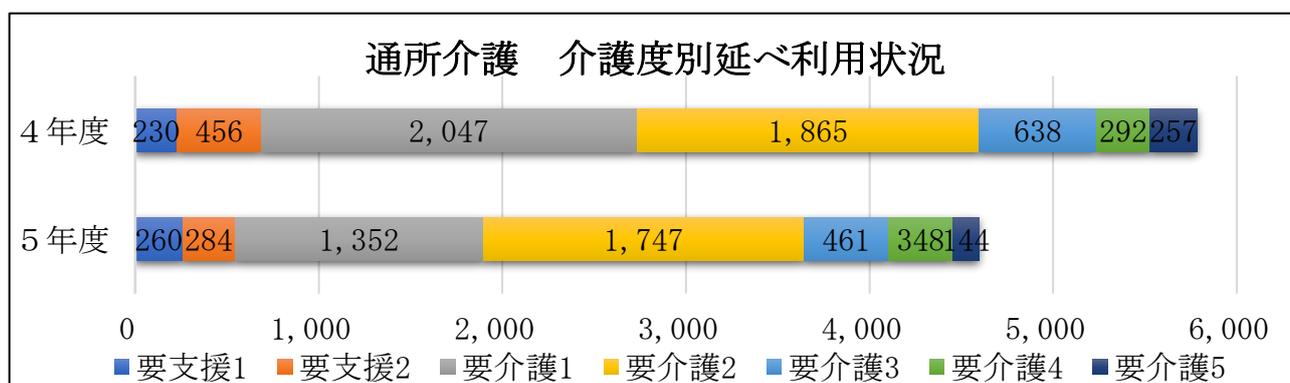
(単位：回)

加算項目 年度	機能訓練 Iイ	機能訓練 Iロ	入浴 I	体制 I	科学	処遇改善 I	特定 処遇 I	ベース アップ
4年度	3,109	1,956	4,842	5,099	711	650	711	339
5年度	1,792	1,973	3,821	4,052	597	597	597	597

加算算定の状況 (介護予防)

(単位：回)

加算項目 年度	運動器	処遇改善	特定処遇	ベースアップ	科学	体制 I 1	体制 I 2
4年度	134	134	134	64	134	59	
5年度	118	118	118	118	118	62	56



3. 認知症対応型通所介護 (ハウゼ天橋通所介護事業所)

認知症高齢者に対する地域のニーズに少しでも応えられるように、ご利用者の認知症状の緩和とご家族の介護負担の軽減に努めました。

ご利用者に対して『買い物支援サービス』や『屋外活動支援サービス』の実施、また利用時間を融通することでそれぞれの家庭の事情に対応した結果、ハウゼ天橋の利用を継続いただきました。

令和5年度の利用実績は、昨年2月に発生したコロナのクラスターを引きずり、4月に入っても体調不良を理由とする利用中止者が続出しました。5月に新規ご利用者が増え少し持ち直したようにみえましたが、新規ご利用者の体調面(持病含む)・認知面・金銭面・ご家族の理解・介護力等が影響し、複数回利用にほとんど結びつきませんでした。又、長く利用された方の入所・入院・死去も重なり、年間の1日平均利用率は9.4人で平均10人を上回った月は5月だけと散々なものに終わりました。

本年度からは事業地域を宮津市全域に広げ、以前のように重度の方をターゲットにするのではなく、中・軽度の認知症の方を中心とした事業活動に取り組んでいき、認知症の方が地域で共生できるようご本人・ご家族を支援していきます。

①利用実績

(ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用者数	利用率	平均介護度
4年度	12人	254日	2,601人	85.3%	2.74
5年度	12人	257日	2,415人	78.3%	2.57

※令和4年度は新型コロナウイルス感染症により営業を5日休止

(イ) 要介護度別延べ利用者数の状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4年度	628人	490人	700人	494人	289人	2,601人
5年度	548人	665人	591人	494人	117人	2,415人

(ウ) 要介護度別延べ利用者数の状況 介護予防

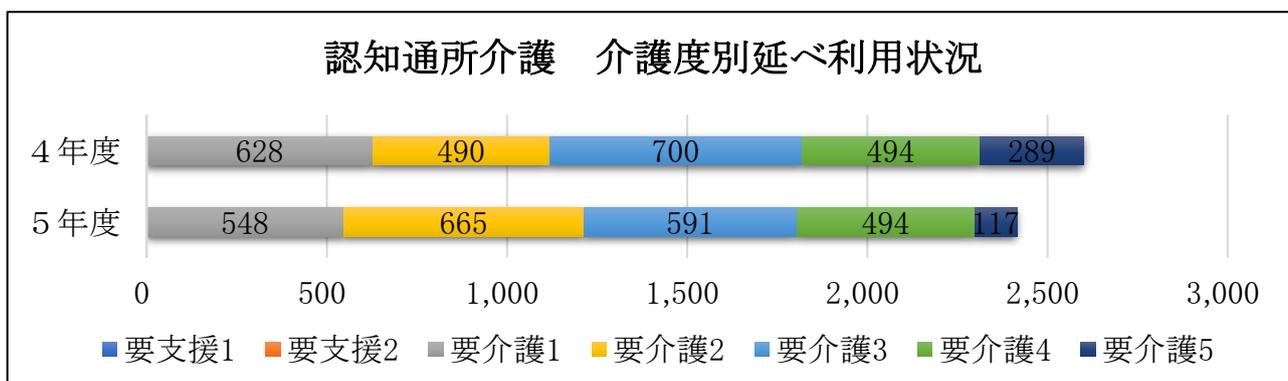
介護度 年度	要支援1	要支援2
4年度	0人	0人
5年度	0人	0人

②加算算定件数の状況

(単位：回数)

加算項目 年度	入浴	科学的介護推進	口腔機能向上Ⅱ	若年性認知症	体制Ⅰ 1	処遇改善	特定処遇	個別機能訓練Ⅰ
4年度	2,287	281	41	87	2,601	281	281	52
5年度	2,036	270	24	31	2,415	270	270	18
加算項目 年度	ADLⅠ	ベースアップ	ADLⅡ					
4年度	256	138	—					
5年度	—	270	270					

※ADLⅠ（ADL維持加算Ⅰ）は令和5年5月よりADLⅡ（ADL維持加算Ⅱ）へ。



#### 4. 訪問介護（天橋訪問介護事業所）

令和5年度の実績につきましては、施設への入所利用者の増加もあり昨年度よりも訪問人数が減少した利用率となりました。傾向としては身体介護が減少し生活援助が全体数を占めていることで、収入的にも昨年より下回る結果となりました。

事業内容としては常勤職員・非常勤職員共に連携を図り、遠方地域への訪問も公共交通機関を使用し訪問するなど工夫し、新規の訪問依頼にも迅速に対応することができました。

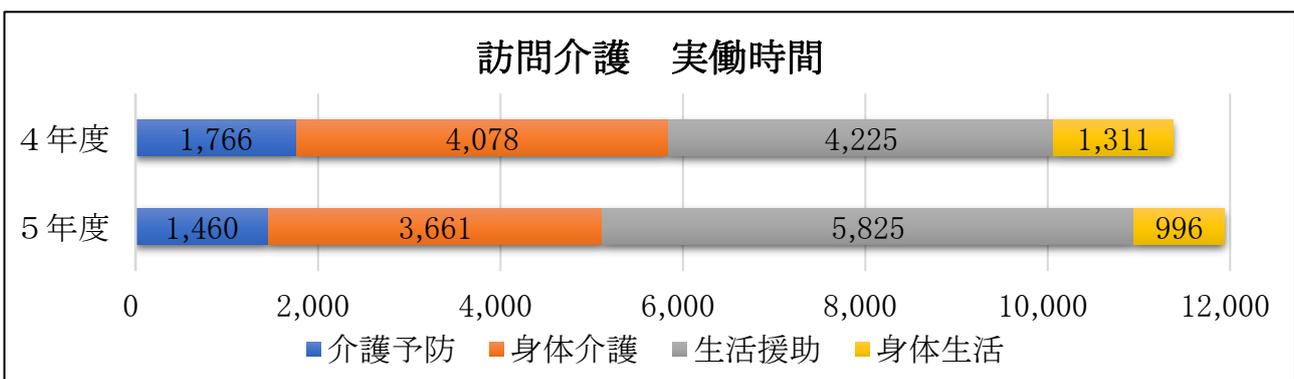
また昨年度から導入された非常勤ヘルパー専用のスマートフォンも定着し、スムーズに情報の共有や確認が徹底できるようになりました。

月一回の定例会では、感染症対策を徹底しながらオンデマンド配信の研修システムを使用するなど、各々の介護技術のレベルアップや職員間の連携を図ることに努めました。

令和6年度はサービス提供責任者が1名少なくなり、また土日訪問の対応できるヘルパーの不足、非常勤ヘルパーの高齢化と課題は多くありますが、ニーズに応えられるよう事業所一丸となり努力したいと思っております。

#### ①介護度別利用者数の状況及び実働時間

	年度	介護予防サービス		介護サービス					障害者支援	合計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
契約人数(人)	4年度	12	23	47	45	20	33	19	0	199
	5年度	10	21	30	42	20	20	13	0	156
介護予防(h)	4年度	1,766時間 00分								15%
	5年度	1,460時間 00分								12%
身体介護(h)	4年度	4,078時間 00分								38%
	5年度	3,661時間 00分								31%
生活援助(h)	4年度	4,225時間 00分								37%
	5年度	5,825時間 00分								49%
身体生活(h)	4年度	1,311時間 00分								12%
	5年度	996時間 00分								8%
合計	4年度	11,380時間 00分								100%
	5年度	11,942時間 00分								100%



## 5. 天橋園居宅介護支援事業所

今年度も年度途中で人事異動があり、在宅の介護支援専門員としては未経験ではありましたが6名体制を維持し、介護や支援の必要なご利用者やご家族が望まれる生活が継続できるように、主治医をはじめ包括支援センターや病院、施設、在宅サービス事業所など、関係機関と連携を密にしながら支援してきました。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、事業所の感染症対策の緩和により、事業所内へ入ることができ、利用中の様子を直接目にすることができたり、気持ちや思いをお聞きしたり、事業所との情報共有がその場でできたサービス事業所や、引き続き面会の自粛をされている病院や入所施設では、病院や施設からの様子報告のみになったため、常に情報を得ながら特に退院退所時などは適切なサービス利用が提供できるように、事業所内での情報共有と理解、確認を徹底しました。

ケアプラン作成や給付管理の実績につきましては、要介護から要支援認定となった利用者も引き続き担当し、包括支援センターと連携し新規利用者も積極的に受ける一方で、身体状態悪化による入院や死亡、施設入所希望等により担当を外れるご利用者も多く管理延件数の大きな増加とはなりませんでした。

事業といたしましては、満足度アンケートを実施し、話しやすく相談しやすいなど多くの回答をいただきました。またサービス事業所や介護保険外のサービス利用についてのご意見や要望もあり事業所や行政にも報告させていただきました。ご希望に添えるよう今後も努めていきます。

令和6年度は3名が介護支援専門員としての更新研修を受ける予定です。6名それぞれの目的や目標を持ち、研修や地域ケア会議、介護支援専門員研究会に参加し、専門職としての資質向上を図り、迅速で丁寧な相談を行います。ご利用者やご家族との信頼関係を築きながら、その人らしい生活ができるように支援する事業所となるよう努力してまいります。

### (ア) 内容別相談件数

(単位：件)

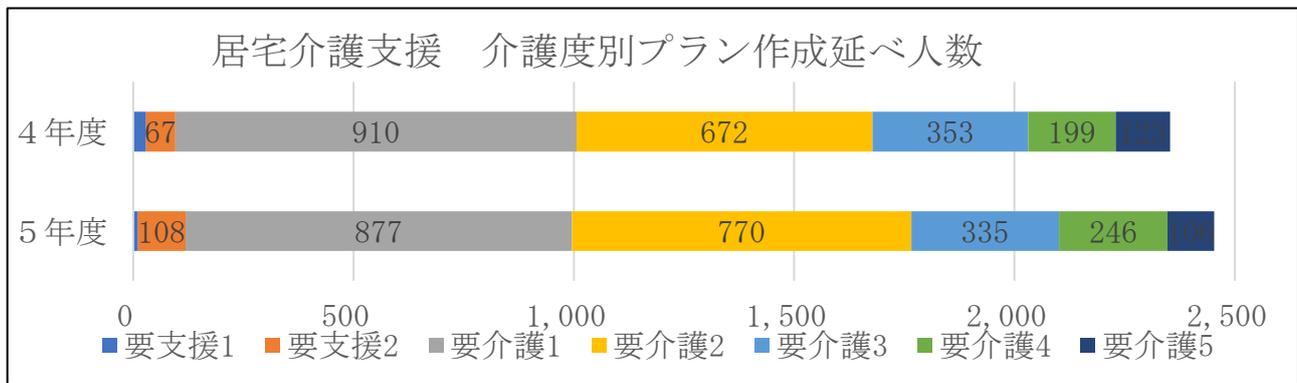
内容		介護保険その他 福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待	その他	合計
4年度	実数	271	23	4	35	333
	延数	19,136	132	24	1,618	20,910
5年度	実数	298	25	8	21	352
	延数	22,691	137	24	1,317	24,169

### (イ) ケアプラン作成管理件数

	作成管理延人数	作成管理実件数
4年度	2,353人	271件
5年度	2,453人	284件

### (ウ) 介護度別プラン作成延べ人数

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4年度	29人	67人	910人	672人	353人	199人	123人	2,353人
5年度	11人	108人	877人	770人	335人	246人	106人	2,453人



## 6. 事務

各事業所の毎月の収支状況の把握に努めました。

法人本部との連携により、法人全体での按分方法の統一、会計科目の統一により事務処理を効率良くスムーズに遂行し、また消耗物品及びオムツの法人一括発注をすることで、より単価が安く良質な品物を購入することができ、業務軽減及び経費節約にも努めました。

### 【おむつ等販売】

年度 \ 項目	販売数 (パック)
4年度	1,344
5年度	1,335

### 【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9月13日	61人	年1回
腰痛健診	9月13日・2月9日	40人・40人	半年に1回
深夜業務従事者健診	2月9日	11人	年1回
ストレスチェック	9月	45人	年1回

### 【職員研修参加状況】

#### ①施設内研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
メンタルヘルスケア	19名	京都産業保健総合支援センターメンタルヘルス講座～ストレス解消について
ハラスメント	19名	様々なハラスメントのに関する研修
人権擁護・虐待防止	18名	人権擁護・虐待防止に関する研修
食中毒の防止蔓延防止研修会	19名	食中毒の基礎知識と蔓延予防に関する研修
感染症予防対策研修会 (法人)	3名	適切な感染症予防対策の理解
プライバシー保護 (サクラボ)	22名	プライバシー保護の取組みに関する研修
B C P (サクラボ)	22名	B C P (業務継続計画) に関する研修
緊急時の対応 (サクラボ)	21名	緊急時の対応に関する研修
認知症ケア (サクラボ)	21名	認知症及び認知症ケアに関する研修 (基礎)
接遇研修 (サクラボ)	19名	正しい接遇を理解する
倫理と法令遵守 (サクラボ)	19名	倫理及び法令遵守に関する研修
介護予防 (サクラボ)	5名	介護予防に関する研修
着脱の介助方法 (サクラボ)	4名	着脱の介助方法に関する研修

精神ケア（サクラボ）	4名	精神障害に関する研修
事故発生又は再発防止（サクラボ）	1名	事故発生原因や再発防止を学ぶ
ターミナルケア	1名	看取り介護研修
感染症・食中毒予防（サクラボ）	1名	感染症・食中毒蔓延予防に関する研修

## ②施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
キャラバンメイト養成研修	3名	認知症サポーター養成講座運営方法等
介護ロボット福祉機器展	6名	最新福祉機器の展示会
ゲートキーパー養成研修	1名	悩みを抱える人への適切な対応を学ぶ
宮津市介護支援専門員研究会	15名	市内事業所職員の事例検討および情報交換
宮津市地域ケア会議	8名	地域課題の現状と情報交換
安全運転管理者講習会	1名	施設の安全運転管理
福祉即戦力人材育成科フォローアップ研修	2名	福祉即戦力人材育成研修受講者のその後の就労状況について。情報交換など
福祉の職場の魅力発信実践力向上研修（実践報告会）	1名	福祉現場の魅力を学生に知ってもらう
医療と介護の連携推進研修会	2名	在宅療養者への対応

## 【地域事業・総合事業】

事業名	参加者数
宮津小学校認知症サポーター養成講座 12月20日	7

## 【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名	月	学校・事業所名
8	京都暁星高等学校		

## 【ボランティア活動状況】

ボランティア名	活動内容	回数/年	延参加数
アメンボ	朗読・紙芝居	7回	20名

## 【各種会議開催状況】

会議名	開催回数/年
職員会議	2回
業務運営会議	12回
認知症委員会	12回
虐待及び苦情対策委員会	12回
安全衛生・感染症委員会	12回
ヘルパー例会	12回
運営推進会議	6回

## 令和5年度 社会福祉法人北星会

# 与謝の園 事業報告書

### 【年度統括】

新与謝の園は、令和6年3月24日に入居者の引っ越しを完了し、4月1日に長期75名、短期入所15名、通所介護事業所定員30名、訪問介護事業所、訪問入浴介護事業所、居宅介護支援事業所で正式に開設いたしました。

移転新築総事業費	2, 101, 116, 407円
補助金	422, 827, 500円
自己資金	950, 288, 907円
借入金	728, 000, 000円

新たな施設は、職員も居室等の配置や内装、外装の協議に参加し、多くの意見を取り入れることができました。

導入したICT機器（眠りスキャン、カメラ、インカム等）をしっかりと活用することに加え、生産性向上委員会を設置し、業務改善と生産性向上に努めてまいります。

また、施設敷地内に災害バルクを設置いただきましたので、与謝野町、近隣地域とも相談しつつ、災害時の避難施設としての役割を担えるよう努めてまいります。

旧与謝の園の解体につきましては、令和6年度計画として進めてまいります。

今年度、入院による退去は2名ありましたが、病院等へ搬送しての死亡は0名、施設看取りは19名でした。

今年度は、相談員を中心に稼働率を上げることを意識しました。また、施設移転に伴う定員変更への対応も、令和5年度中に長期入居者が短期入所のベッドを利用する届を行うことでベッドを開けることなくご利用いただくことができました。結果、前年度より高い稼働率となりましたが、これは施設内において多職種連携が進んだ結果である。と考えます。

令和6年度は、ユニット運営により、さらなる稼働率上昇を目指してまいります。

### 【年度目標に対する成果】

重点項目	中長期目標	今年度目標	実績
1 ご利用者の尊厳を守り自立した生活の実現に努めます。	1. 利用者の安全と安心を守りサービスの質の維持向上に努め利用者満足度アップに繋がります。	今年度は従来型多床室のケアからユニット型ケアへの大きな転換期となります。従来型特養の介護を続けながら年度末の開園に向けてユニットケアについて学び「入所者一人ひとりの個性や生活リズムに応じた暮らし」の実現をサポートします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設建て替え委員会を設置。その分科会でユニットケアの基本である個別ケアの見直しを行い、その内容を新しい施設作りに反映させました。</li> <li>食事は入居者個々に合わせた提供へ見直しを行った。</li> <li>入居者の24hシート作成に取り組みました。</li> </ul>

	2. 住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるよう支援します。	介護、看護、専門職等多職種連携して利用者本人の意思と権利を最大限に尊重し、安らかな終末期にふさわしい介護を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービスの質の向上の為、各種委員主催の施設内研修や施設外研修に参加するよう努めました。</li> <li>「看取り」についての理解を深め、職員間の意識の統一を図りました。</li> <li>最後に自宅へ戻りたいと希望のあった入居者の一時帰宅を実現しました。</li> </ul>
	3. 新型コロナウイルス感染症等の感染拡大防止に努め必要なサービスを継続する体制づくりに努めます	新型コロナウイルス感染症が感染症法の取り扱いが変わっても、新型コロナウイルスの感染力が低下したわけではないことを踏まえつつ必要となる感染対策を準備し、コロナ禍によって中止となった行事、外出、家族との面会、ボランティアの受け入れなど、新たな体制で提供します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度内2度の新型コロナクラスターを経験、その経験を日常の感染対策に反映させました。</li> <li>利用者・家族のとの連携では、随時体調の変化を報告。その際に意向を確認し希望に添えるよう努力しました。</li> </ul>
		職員等が、感染症の重症化リスクが高い高齢者等に対して介護保険サービスを安全かつ継続的に提供するため、さらには職員自身の健康を守るため、感染対策の知識を習得し着実な感染対策を実践できるよう取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナの実地研修や園内研修を行い、知識と技術の向上に努めました。</li> <li>職員一人一人が自己管理を行い、感染対策に対しご利用者やご家族の理解を得つつ、サービス提供を行いました。</li> </ul>
2 笑顔と思いやりの心で居心地の良い施設づくりに努めます。	1. 職員が生き生きとやりがいをもって働ける職場づくりを目指します。	ICT、介護ロボット等の導入により、業務の省力化、介護現場の負担軽減に努め介護イメージの改善や人材確保、定着を進めます。また導入に伴う職員の理解を深めるための教育の時間、導入による業務再構築の課題に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員5名がユニットリーダー研修を受講。</li> <li>新施設の建築計画に職員の意見を反映。</li> <li>全室に眠りスキャンと見守りカメラを設置。</li> <li>インカムを導入。</li> <li>最新型の浴槽を導入。</li> </ul>
	2. 新しい事業展開と安定した経営基盤の確立を目指します。	各種加算の算定など収入を確保し、稼働率の目標達成、利用者増加に向けた取り組みを強化します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ADL維持加算の算定開始。</li> <li>管理栄養士2人体勢となり、栄養マネジメント強化加算を算定。</li> <li>園で死去された方の6割で看取り加算を算定。</li> </ul>
		新たな共生サービスの導入の可能性を調査し、地域福祉の環境の整備や活性化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、サービス提供向け、必要となる、サービス提供管理者資格取得から開始します。</li> </ul>
3 地域のすべての方の福祉に貢献出来る施設づくりに努めます。	1. 与謝の園が地域の資源として機能し地域の信頼を得られ、その核となることを目指します。	地域および家族などとの交流を深め、地域福祉活動を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の居宅介護支援事業所や認知症カフェにて与謝の園利用の営業活動を行った。</li> <li>ご家族向けの移転説明会や個別相談を行いました。</li> </ul>
		現在実施している桑飼シルクカフェをより充実するため、独居、社会とのかかわりが薄れている方に対して、認知症カフェの訪問活動を進め利用者の掘り起こしに務める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>シルクカフェに多くの職種、職員が参加し、地域関係者との交流機会を確保しました。</li> </ul>
		新与謝の園の交流ホールの活用として、子育てに悩みを抱える親の交流場所、子どもと一緒に楽しむ誰でも気軽に立ち寄れるカフェづくりに努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域サロンでの利用は既に始めていただいております。今年度、つばきこども園との交流会も計画しており、子育て世代も気がるに利用できる仕組みを検討します。</li> </ul>

【部門別事業報告】

1 特別養護老人ホーム

①入居利用者の状況

(ア) 稼働率（入居定員：80名） ※令和6年3月末入所定員：80名

年度	区分	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
4年度		365日	27,617人	1,583床	75.6人	94.5%
5年度		366日	28,509人	771床	77.9人	97.3%

(イ) 入退所状況（3月31日時点）

年度	区分	新規入居者	待機者	退所者 合計	施設内死亡 (施設看取り)	施設外死亡	施設移転	帰宅
4年度		30人	78人	29人	26人 (10人)	3人	0人	0人
5年度		20人	84人	21人	19人 (12人)	0人	2人	0人

(ウ) 地区別 入居状況（3月31日時点）

年度	地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合計
4年度		0人	78人	0人	0人	78人
5年度		0人	76人	0人	1人	77人

(エ) 年齢・性別 入居状況（3月31日時点）

(単位：人)

区分	年齢 性別		60～64		65～69		70～79		80～89		90～99		100以上		合計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	
4年度	0	0	0	1	2	1	2	16	5	39	0	12	9	69	78			
5年度	0	0	0	1	2	3	3	12	5	40	0	11	10	67	77			
平均年齢	4年度		男性		88		女性		93		合計		92					
	5年度		男性		88		女性		93		合計		92					

(オ) 入居期間別 入居状況（3月31日時点）

(単位：人)

区分	期間		6か月未満		6か月以上 1年未満		1年以上 3年未満		3年以上 10年未満		10年以上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
4年度	4	12	0	9	3	21	2	23	0	4	9	69	78		
5年度	3	9	0	6	5	27	2	23	0	2	10	67	77		
平均入居期間	4年度		3年0か月												
	5年度		2年7か月												

(カ) 入居期間別 延べ入居状況（特養）

(単位：人)

年度	期間 性別		6か月未満		6か月以上1年未満		1年以上3年未満	
	男	女	男	女	男	女	男	女
令和4年度	4	17	0	10	4	28		
令和5年度	3	12	1	9	5	29		

期間 性別 年度	3年以上10年未満		10年以上		計		合 計
	男	女	男	女	男	女	
令和4年度	4	35	0	5	12	95	107
令和5年度	4	30	0	5	13	85	98

(キ) 介護度別 入居状況 (3月31日時点)

(単位：人)

介護度 性別 区分	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
令和4年度	0	0	0	0	3	18	4	33	2	18	9	69
令和5年度	0	0	0	0	5	16	4	31	1	20	10	67
平均要介護度	令和4年度				3.98							
	令和5年度				4.00							

(ク) 介護度別 延入居状況

介護度 区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
4年度	0人	0人	6,011人	13,380人	8,226人	27,617人
5年度	0人	0人	7,922人	12,784人	7,803人	28,509人

②加算算定の状況

加算項目 (単位)	個別機能訓練 加算Ⅰ(12)	個別機能訓練 加算Ⅱ(20)	看護体制加算 Ⅰ(4)	看護体制加算 Ⅱ(8)	認知症専門ケ ア加算Ⅰ(3)	サービス提供体 制加算Ⅰ(22)
算定延回数(回)	0	0	28,509	28,509	20,755	28,509
加算収入額(円)	0	0	1,140,360	2,280,720	622,650	6,271,980

加算項目	安全対策体制 加算(20)	退所前訪問相 談援助加算 (460)	退所時相談援 助加算(400)	退所前連携加 算(500)	看取り介護加 算Ⅰ(72)	看取り介護加 算Ⅱ(144)
算定延回数(回)	20	0	0	0	65	161
加算収入額(円)	4,000	0	0	0	46,800	231,840

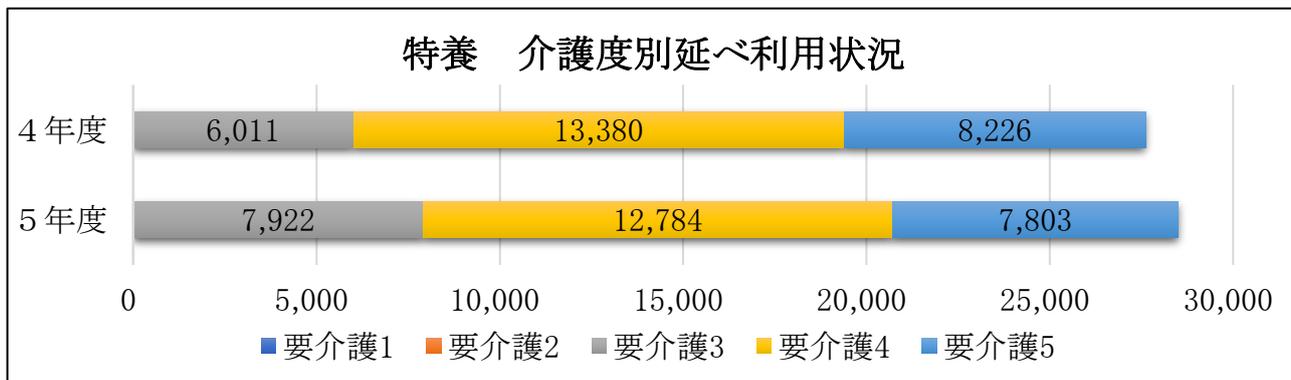
加算項目 (単位)	看取り介護加 算Ⅲ(680)	看取り介護加 算Ⅳ(1280)	外泊時費用 (246)	経口維持加算 Ⅰ(400)	経口維持加算 Ⅱ(100)	ADL維持等加 算Ⅱ(60)
算定延回数(回)	21	12	109	0	0	478
加算収入額(円)	142,800	153,600	268,140	0	0	286,800
加算項目 (単位)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅱ (13)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅰ (3)	排泄支援加算 Ⅰ(10)	排泄支援加算 Ⅳ(100)	科学的推進体 制加算Ⅰ (40)	初期加算 (30)
算定延回数(回)	932	28	960	0	958	643
加算収入額(円)	143,030	840	96,000	0	383,200	192,900

加算項目 (単位)	夜勤職員配置 加算Ⅰ(13)	栄養マネジメ ント強化加算 (11)	療養食加算 (6)
算定延回数(回)	28,509	18,947	13,128
加算収入額(円)	3,706,170	2,084,170	787,680

加算項目 (単位)	介護職員処遇 改善加算 I	介護職員等特定 処遇改善加算	ベースアップ 等支援加算	加算収入額合計
算定延回数(回)				49,212,490
加算収入額(円)	20,005,200	6,507,200	3,856,410	

### ③その他の収入

項目 年度	貴重品管理料	その他の収入合計
5年度	224,000	224,000



## 2 介護部

- ①建て替えを前に、従来型特養からユニット型特養に移行するために、職員の意識を高めること、ユニットケアの基本である個別ケア、ケアの見直しに向けて取り組みました。その中で、1ユニット15名をどのように実践するのか、個別ケア、入居者の望む生活の実現（寄り添える介護）をどのように取り組むのかなどの検討を何度も行いました。不安とユニットケアのイメージが持てない中、ユニット型特養を見学し、個別ケアの実践、ユニットでの動き方等を実際に見ることができました。ユニットリーダー研修も数名参加し、その研修の報告より、ユニットケアにおいて「24時間シート」の必要性について学び、令和5年度は、入居者の24時間シート作成に向けて取り組みました。実際に作成したことのない職員ばかりの為、ユニットリーダー研修で学んだことを基に作成に当たりました。24時間シート作成にあたり改めて入居者のことを知る良い機会となり、入居者の思い・訴え等を聞き、より信頼関係が築けたと感じます。
- ②個別ケアの実現のために従来のケアの見直しを行い、ユニットケアに向け、朝食の提供方法を調理と共に検討し、提供方法を従来の提供方法から個人に合わせた時間の提供方法へ見直しを行いました。また、排泄ケアにおいては、時間やパットの見直し、陰部洗浄の研修、尿路感染を避けるために、水分摂取量のUPに取り組みました。
- ③サービスの質の向上の為、各種委員会活動、部会活動をはじめ、委員会主催の施設内研修、外部への施設外研修に参加し、引き続き認知症等の専門的知識の向上に努めました。また、個々の、専門性を上げるために、モニタリングの実施、ライフの入力・見直しなどに取り組み、入居者のアセスメント・観察力の向上に努めました。
- ④感染症対策について新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ拡大防止等努めましたが、園内での新型コロナウイルス感染が再度発症しました。対策として昨年の2度のクラスターの経験が生かされ最小限に抑えることが出来ましたが、感染症により、入居者の日々の過ご

し方が、変化したのは確かだと思います。当たり前であった過ごし方が、感染症拡大防止により、制限、縮小せざるを得なくなり寂しく思います。入居者の日々の生活が、当たり前の生活を送ることができるように、検討していきます。

- ⑤看取りケアに力を入れるために、「看取り」についての理解を深めること、職員間の意識の統一を図ることに努め、引き続きユニット内で、その人らしい看取りケアの充実を図りました。今年度は入居者19名の看取りを行いました。新型コロナについて第5類へ移行した為、看取り対応の入居者については面会制限を設けず、いつでも面会が出来るようになりました。またなかには最後に自宅へ戻りたいと希望のあった入居者に対し、一時的ではありますが戻っていただくことが出来ました。引き続き、看取りケアについて入居者、家族の思いに寄り添っていけるよう努めます。
- ⑥ご家族との繋がりを大切にするため、面会や年賀状、暑中お見舞いを通して、入居中の様子を伝えることに努めました。また、今年度より、ご家族も参加できる行事の取り組みも検討し、ともに楽しむことができました。

### 3 看護部

令和5年5月より、コロナは5類に移行し、全国的にも感染予防対策はゆるめられてきましたが、園では引き続き予防対策に力を入れてきました。そのような中、今年度も2回、コロナの発生がありました。しかし拡大することなく収束に至りました。

感染予防対策については、利用者・職員ともにコロナワクチンの接種を行い、疑わしい症状の時は受診をするなど、感染しない、持ち込まないよう努めました。またコロナの実地研修や園内研修を行い、知識と技術の向上に努めました。

昨年度の経験から、ただ隔離をするのではなく、「利用者同士の接触を避ける」ということに重点を置き、接触しないのであれば居室から出てホールや廊下で過ごし、精神的ストレスの緩和に努め、寝たままにしないことで下肢筋力の低下や認知症の進行を最小限に抑えることができました。また、人数の制限はありましたが入浴も行い、口腔ケアもほぼ普段通りを行うことで、誤嚥性肺炎や尿路感染症、褥瘡が発生することなく経過しました。職員も以前に比べ、落ち着いて行動できていたと思います。

利用者・家族の意向に添った医療の提供については、入所時の担当者会議で確認したり、体調の変化は、まめに連絡を入れ、その際に意向を確認したりすることで、可能な限り希望に添えるよう努力しました。

地域に向けては、毎年、シルクカフェにて感染症対策についての情報を伝えていましたが、今年度は業務の都合で参加できず、資料の配布だけで終わりました。来年度はぜひ参加したいと思います。

そして今年度の最大の取り組みとして、建て替えがあげられますが、様々な準備を行い、大きなトラブルなく、利用者も体調を崩されることなく無事に移転できました。

建て替えに伴い診療所が廃止されることで、嘱託医との連携の仕方が大きく変わるため、何度も嘱託医と話し合ったり、関係する薬局とも調整したり、天橋の郷にもアドバイスをもらったりと準備を重ねました。今後もよりスムーズに医療が提供できるように改善していきたいと思います。

次年度も引き続き、利用者・家族が安心して生活できるよう、医療の面から支援していきます。

## ①診療状況

### (ア) 与謝の園

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
4年度	実数	107	0	0	0	0	0	0	0
	延数	3,291	0	0	0	0	0	0	0
5年度	実数	100	0	0	0	0	0	0	0
	延数	3,675	0	0	0	0	0	0	0

### (イ) 他の医療機関 通院

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
4年度	実数	23	14	3	2	3	12	4	4
	延数	31	33	10	5	10	37	13	5
5年度	実数	20	14	3	7	1	17	4	0
	延数	30	44	6	15	1	39	11	0

### (ウ) 他の医療機関 入院

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
4年度	実数	13	1	0	0	0	0	0	0
	延数	227	15	0	0	0	0	0	0
5年度	実数	10	4	0	0	0	0	1	0
	延数	141	129	0	0	0	0	88	0

## ②健康診断等の実施状況（実施日時）

年度	対象人数	胸部集団検診	検尿検査	血液検査	歯科健診
4年度	80	令和4年10月24日	令和5年2月1日	令和4年6月13日	なし
				令和4年12月26日	
5年度	80	令和5年10月23日	令和6年2月1日	令和5年6月23日	なし
				令和6年1月10日	

## 4 相談室

令和5年4月より稼働率の向上による経営の安定を目標に、施設入所の調整方法の見直しを行い、空床発生から短期間での入所に繋げ、前年度より高い稼働率になりました。しかし、施設新築移転準備のため3月より入所受入を停止した影響もあり、年間の目標稼働率を達成することはできませんでした。

加算については、今年度からADL維持加算の算定ができるようになりました。また、施設内看取りに対しても各職種と連携し、入居者とそのご家族が安心して最期を迎えていただけるよう取り組みを行い、園で死去された方の約6割の方に加算を算定することができました。

入所待機者については、要介護3の方の占める割合が多く、近隣地域の特養入所が進んでいる影響もあり、介護度の高い方ほど待機者数は減っています。

入居者家族に対しては、感染症予防対策を講じたうえで、施設内行事（与謝の園まつりや敬老会等）への参加や対面面会の再開等による来園機会を設け、その際に相談員から積極的にご家族と話をする機会を作るようにし、ご家族との信頼関係構築に努めました。また、与謝の園だよりを毎月作成し入居者の施設内生活の様子をご家族にお伝えすることで、

ご家族の皆様にはとても好評いただいております。

その他、今年度は通常の相談室業務と並行して、施設の新築移転準備の業務を行いました。中でも、従来型からユニット型への変更に合わせて利用料金が高くなるため、ご家族には移転説明会や個別相談を通じて丁寧な説明を行い、スムーズな施設移転に繋げることができました。また、相談室主導によりケアカルテの移転準備や移転スケジュール作成等を行い、大きなトラブルなく新施設への移転を行うことができました。

(ア) 相談件数

区分 年度	入所相談	在園者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合計
4年度	78件	288件	30件	0件	0件	396件
5年度	84件	225件	20件	2件	0件	331件

(イ) 待機者数(地区別)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合計
4年度	16人	57人	3人	2人	78人
5年度	11人	48人	3人	6人	68人

(ウ) 待機者数(介護度別)

介護度 年度	要介護3	要介護4	要介護5	区変中	その他	合計
4年度	30人	24人	18人	6人	0人	78人
5年度	32人	23人	8人	3人	2人	68人

(エ) 退去状況 (特養)

退去先		自宅・家族宅	看取りによる死亡	医療機関で死去	その他(入院)等	合計
4年度	人数	0人	26人	3人	0人	29人
	比率	0%	90%	10%	0%	100%
5年度	人数	0人	19人	0人	2人	21人
	比率	0%	90.4%	0%	9.6%	100%

5 給食部門

新型コロナウイルス感染の影響で外出の機会がほとんどない中で四季を感じられる食事、生活の中での楽しみなるような食事の提供に努めました。が、建て替えの準備のため時間を費やすこととなり新しい取り組みは難しい1年でした。

食材全般の物価高騰で食材料費の増額が余儀なくされましたが、栄養補助食品を半消化態栄養剤に変える、食材のロスを減らす工夫し支出を抑える努力をしました。

建て替えについては、職員皆で協力し知恵を出し合い移転前後の詳細なスケジュールを作成することでスムーズに進めることができました。

「栄養ケア」に基づき、糖尿食・減塩食など特別食の提供や、利用者一人一人の状態や体調・嗜好に応じた個別的な食事提供にも引き続き力を注いできました。通所介護・短期入所者においても、健康状態や嗜好などに応じた個別対応をはじめ、ご利用者が楽しく食事ができ、なお且つ栄養改善が図れるよう努めました。

管理栄養士2人体勢となり、栄養マネジメント強化加算を算定するためにケアカルテの

カスタマイズを行い準備し算定することができました。それに伴い、新たにミールラウンドの入力の業務が始まりました。

「安心・安全な食事提供」を前提に、施設内や厨房内の衛生管理・職員の体調管理を徹底し、食中毒や感染症などの発生予防に努めました。

①提供実績

(ア) 延食数 (単位：食)

区分 年度	特養	短期入所	通所
4年度	27,266	6,519	5,843
5年度	28,420	6,727	6,210

(イ) 栄養基準 (1日あたり)

項目 区分	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミンA ( $\mu$ gRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)
基準	1300~ 1500	60	600	30	10	550	0.8	1.0	80
4年度	1417	54.6	467	42.5	7.9	674	0.61	1.34	67
5年度	1477	58.1	493	43.5	6.5	754	0.62	1.15	71

(ウ) 食品群別摂取量 (1人1日当たり食糧構成) (単位：g)

群類 区分	1群		2群					3群				4群			
	牛乳乳製品	卵類	魚介類	獣鳥肉類	豆類	大豆製品	味噌類	堅果類	緑黄色野菜	淡色野菜	果実類	芋類	海藻類	米	麦
基準	180	50	60	40	40	10	1	100	150	80	100	7	120	70	7
今年度平均	206	33	60	43	53	—	0.7	87	167	71	37	3.0	118	92	6.8

\*味噌は豆類・大豆製品に含みます。

6 与謝の園短期入所生活介護事業所

令和5年5月に新型コロナウイルスが第5類に分類されて以降、感染源の持ち込みに留意しながら利用受け入れを行いました。12月末から1月初めにかけて、短期入所利用者内に新型コロナウイルスの陽性者が複数出ました。早期に感染拡大防止対策を行い、営業停止までには至らなかったものの、通常営業(受け入れ再開)に至るまで10日間程度を要しました。

地域の居宅介護支援事業所や認知症カフェにて与謝の園利用に対する営業活動や与謝の園居宅介護支援事業の協力を得て、新規契約者数は大きく増加しました。

稼働率については、目標稼働率を達成することができませんでした。これは、長い期間当園の短期入所をご利用いただいているご利用者の特養への入所、在宅での家庭内感染疑いによる利用キャンセル又は利用回数の減少、地域の要支援・要介護高齢者の減少等が稼働率低下に影響したと考えます。

平均要介護度は前年度より上がり、個々のご利用者の利用期間も増加しました。

## ①利用者の状況

### (ア) 稼働率（定員：10名）

年度	区分	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
4年度		291日	2,618人	9.0人	90.0%
5年度		362日	2,684人	7.4人	74.1%

※令和4年度コロナ感染症により74日営業を休止する。

令和4年7月11日～7月18日、7月23日～7月24日、7月31日～9月4日、令和5年1月9日～2月5日

※令和5年度移転のため4日間営業を休止（令和6年3月22日～3月25日）。

令和5年12月25日に短期利用者から新型コロナ発症があり、令和6年1月5日まで、新規受け入れ停止し感染症対策を実施。

### (イ) 契約数

年度	区分	新規入所者
4年度		19人
5年度		31人

### (ウ) 地区別 入所状況

年度	地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
4年度		2人	57人	0人	0人
5年度		0人	64人	0人	1人

### (エ) 介護度別 入所状況

（単位：人）

介護度 性別	要支援1		要支援2		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
4年度	1	0	1	2	4	8	4	16	5	13	1	8	4	3	20	50
5年度	0	1	1	2	5	5	3	15	6	15	1	9	4	3	20	50
平均 要介護度	4年度				2.57				要支援1・2含む							
	5年度				2.65				要支援1・2含む							

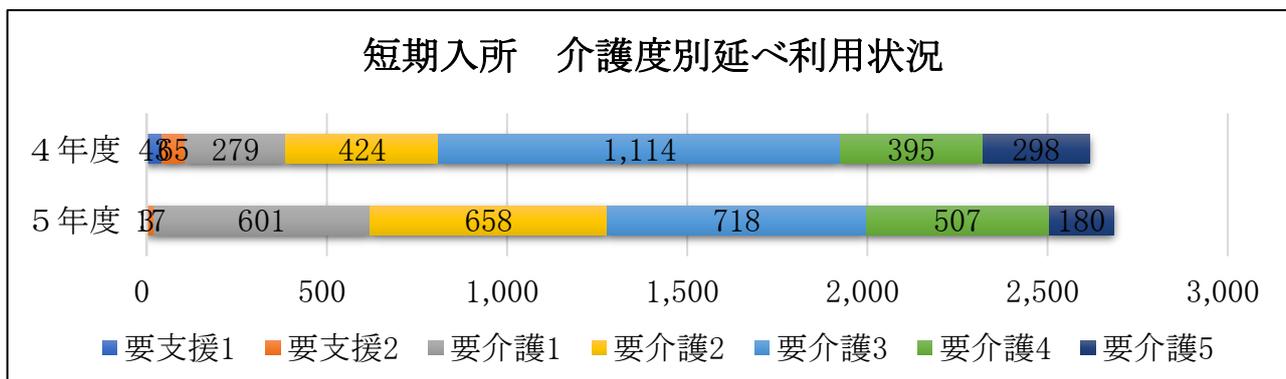
### (オ) 介護度別 延入所状況

介護度 年度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4年度	43人	65人	279人	424人	1,114人	395人	298人	2,618人
5年度	3人	17人	601人	658人	718人	507人	180人	2,684人

## ②加算算定の状況

年度	加算項目 金額	機能訓練体制 加算(12)	サービス提供制 強化加算Ⅱ(18)	サービス提供体制 強化加算Ⅰ(22)	夜勤職員配置 加算Ⅰ(13)	在宅中重度者受 入加算4(425)	送迎加算 (184)
	算定回数(回)	0	0	2678	2658	2	838
	金額(円)	0	0	589160	345540	8500	1541920
加算項目 回数 金額		緊急短期入所 受入加算(90)	処遇改善 加算Ⅰ (8.3%)	特定処遇 改善加算Ⅰ (2.7%)	ベースアップ 等支援加算 (1.6%)	地域外送迎	長期利用者 提供減算
	算定回数(回)	87	360	360	360	0	0
	金額(円)	78300	1,787,810	581,570	344,640	0	0

回数 金額	加算項目	加算収入額 合計
算定回数(回)		
金額(円)		5,277,440



## 7 与謝の園通所介護事業所

令和5年5月、新型コロナウイルス感染症が5類となり、世間では徐々に行動制限も緩和され、マスク着用もされない方が増える中、職員一人一人が自己管理を行い、ご利用者・ご家族からも理解を得ながら、感染対策を行いサービスの提供を行うことができました。ご利用者のニーズやご家族の意向を可能な限り尊重し、感染者・濃厚接触者とともに、利用期間を調整し、利用受け入れを行うことができました。また、各居宅介護支援事業所等との連携のもと、ご利用者からの要望などを取り入れた満足度の高いサービスの提供に努めました。

令和5年度は、与謝の園建替えもあり、多くの業務改善に取り組み、今まで以上に、利用者の自立支援・利用者の能力の維持を考えることができました。新しい施設・設備でのサービス提供へもスムーズに移行することができました。「介護予防・日常生活支援総合事業」の受け入れも多く行い、稼働率としては前年を上回ることができました。

令和5年度 要介護利用者の延べ人数は減りましたが、要支援利用者の延べ人数が大幅に増え、年間延べ利用人数（前年実績比：367名増の6,210名）・1日平均利用率（84%）と、令和4年度実績を上回る結果となりました。

前年度には行えなかった外出レクへの取り組みでは、買い物ツアーや移動販売・丹後大国への遠足など行い、利用者も職員も楽しむことができました。

### ①利用実績

(ア) 述べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
4年度	24人	303日	5,843人	80.3%	2.0
5年度	24人	308日	6,210人	84.0%	1.8

※令和4年度新型コロナウイルス感染症の為、8日営業を休止。

※令和5年度移転の為、2日営業を休止

(イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4年度	1,336人	1,947人	1,429人	260人	115人	5,087人
5年度	1,554人	1,963人	1,052人	334人	150人	5,053人

(ウ) 介護度別利用状況（介護予防）

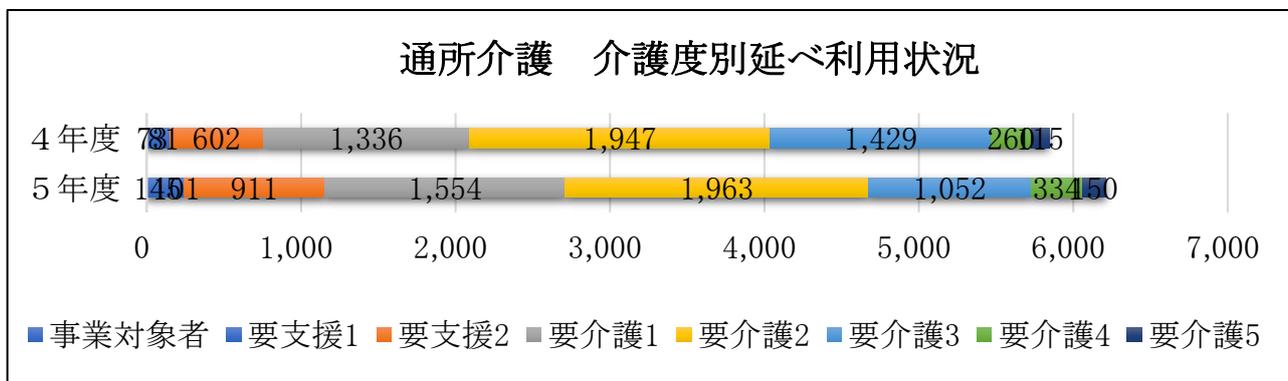
介護度 年度	要支援1	要支援2	事業対象者	合計
4年度	81人	602人	73人	756人
5年度	101人	911人	145人	1,157人

②加算算定の状況

(単位：回)

加算項目		入浴加算	送迎減算	提供体制	処遇改善	特定処遇改善	ベースアップ加算	科学的介護推進体制加算
4年度	要介護	4,227	171	5,087	705	705	336	705
	要支援1			48	129	129	70	129
	要支援2			81				
5年度	要介護	4,258	1,293	5,053	669	669	669	669
	要支援1			63	185	185	185	184
	要支援2			121				

※令和5年度レジオネラ菌の為、11/23～12/3 8日間入浴停止



8 与謝の園訪問介護事業所

住み慣れた地域や家庭で『その人らしい生活』が継続できるよう、ご利用者の残存能力を引き出し、生活に活かせるよう見守りや声かけを心掛け、自立支援に向けた訪問介護サービスの提供に努めました。

今年度は、職員が5名（前年比1名減）でスタートしたこと、利用回数の多いご利用者を中心に、入院（レスパイト含む）や施設入所された影響もあり、実働時間数の合計から訪問件数は減少しました。しかし、年度途中から、訪問介護員5名から6名となったことで新規利用者の受け入れや訪問回数を増やせるようになり、ご利用者個々のニーズに応じて柔軟に対応できるようになりました。

次年度も引き続き自立支援を念頭に、一日でも長く、住み慣れた自宅で安心して生活が続けられるよう支援していきます。

①介護度別利用状況及び実働時間数

《与謝の園訪問介護》

	年度	介護予防サービス		介護サービス					障害者支援	合計
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5		
契約人数 (人)	4年度	5	8	10	20	7	3	9		62
	5年度	3	9	9	18	9	7	6		61
介護予防 (h)	4年度	731時間 05分								20%
	5年度	679時間 15分								20%
身体介護 (h)	4年度	1,602時間 35分								43%
	5年度	1,677時間 05分								50%
生活援助 (h)	4年度	1,048時間 25分								28%
	5年度	822時間 30分								25%
身体生活 (h)	4年度	312時間 35分								9%
	5年度	153時間 40分								5%
合計	4年度	3,694時間 40分								100%
	5年度	3,332時間 30分								100%



9 与謝の園訪問入浴

令和5年度は台風による営業停止や利用キャンセル等により実施日数が少なく、契約者数も前年度より8名減りましたが、延利用数が増加したことにより増収増益となりました。契約者数の減少については、入院や死去に伴う契約終了や新規での利用者の減少が影響していると考えます。

延べ利用者数の増加については、以下の取り組みを行った結果、契約者1人当たりのご利用回数が増え、中には「最期に入浴させてもらえて本当に良かったです」といった感謝の言葉を伝えていただきました。

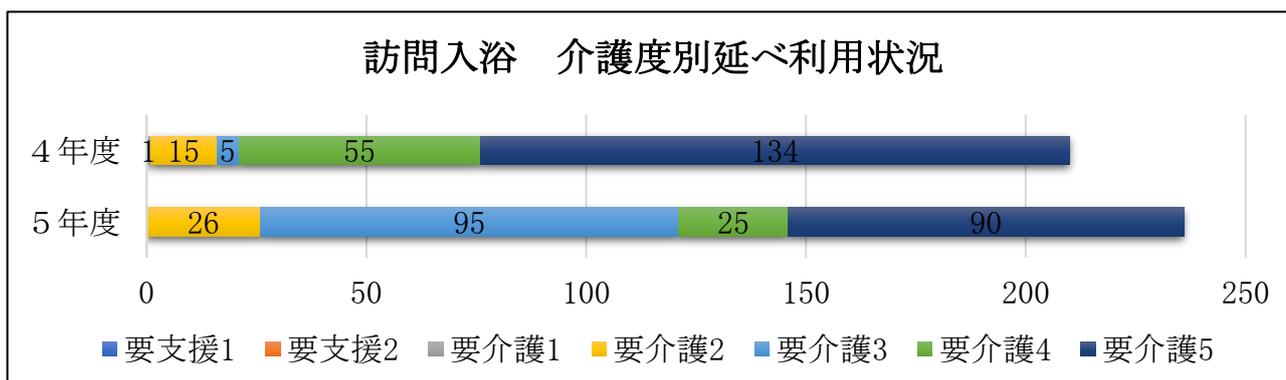
- ・ご利用者や家族の思いに寄り添い、希望に添った入浴サービスを心掛けたこと。
- ・医療的処置（在宅酸素・胃瘻・尿バルーン・IVH・褥瘡処置など）を有するご利用者や癌末期などのターミナル期のご利用者も積極的に受け入れ、自宅で安心して入浴できることを実感していただいた。
- ・感染症対策として、使い捨てエプロン・ロング手袋を使用し、利用者に触れる備品や器具等はサービスの提供毎に洗浄・消毒の実施。
- ・書面開催も含め毎月研修会を開催し、サービスの質の向上に努めたこと。

- ・入浴車のメンテナンス・稼働毎の点検や管理を実施。
- ・各事業所との連携を密に情報交換を行い、訪問入浴の希望やその日の体調に応じて、迅速かつ柔軟な訪問入浴サービスを提供した。
- ・入浴用手すりボードや浴槽内滑り止めマットを使用するなど、利用者個々の残存機能を活かした入浴方法を検討し、入浴サービスを提供した。

### ①利用状況

年度	区分	契約者数	営業日数	延利用数	平均稼働率	平均介護度
4年度		20人	104日	210人	2.0	3.7
5年度		12人	102日	236人	2.3	3.8

	区分	介護予防サービス		介護サービス					合計
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
介護度別利用者数	4年度	0	0	1	5	3	1	10	20
	5年度	0	0	0	1	3	4	4	12
介護度別延べ利用者数	4年度	0	0	1	15	5	55	134	210
	5年度	0	0	0	26	95	25	90	236



### 10 与謝の園 居宅介護支援事業所

令和4年度下期は5人体制でしたが、令和5年度は再び4人体制となりました。与謝野町全体として、利用者の状態や介護者の状況の変化にともない在宅生活が困難になり、入院や施設入所に至るケースが多く、在宅の利用者が減って、新規の依頼が少ない傾向にあります。福祉課や地域包括支援センターに働きかけて新規利用者の獲得に努め、認定調査の実施や介護予防プランの委託を増やすよう努力しましたが、相談件数、ケアプラン作成管理件数ともに減少しました。

新型コロナウイルス感染症については、感染症分類が5類に変わっても、感染拡大防止のための基本的な行動を取り、利用者の健康状態を把握し、地域や近隣の発生状況を確認して情報収集を行うなど、状況に応じて適切な対応を心がけました。

地域との連携においては、地域ケア会議やケアマネ連絡会、各種研修等に積極的に参加し、地域包括支援センターや医療福祉の関係機関と顔の見える関係作りを心がけました。また、シルクカフェに積極的に参加し、地域の皆さんと交流して、楽しいひとときを過ごすことができました。

次年度も引き続き、与謝野町地域の高齢者やその介護者が、住み慣れた地域や家庭で安心して生活が継続できるよう、迅速で丁寧な支援を行っていききたいと思います。

(ア) 内容別相談件数

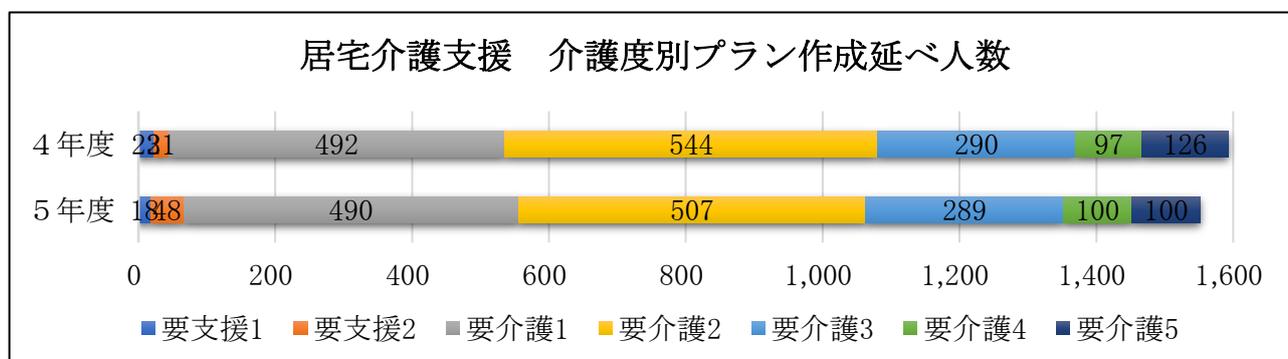
年度		内容	介護保険その他福祉サービス	権利擁護(成年後見)	高齢者虐待	その他	合計
4年度	実数		236件	3件	2件	42件	283件
	延数		12,509件	11件	8件	86件	12,614件
5年度	実数		178件	1件	2件	22件	203件
	延数		12,336件	15件	3件	22件	12,358件

(イ) ケアプラン作成管理件数

	作成管理延人数	作成管理実件数
4年度	1,593人	193件
5年度	1,552人	178件

(ウ) 介護度別プラン作成延べ人数

年度	介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4年度		23人	21人	492人	544人	290人	97人	126人	1,593人
5年度		18人	48人	490人	507人	289人	100人	100人	1,552人



1 1 事務

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9月4日	87人	年1回
腰痛健診	9月4日、2月19日	79人 63人	年2回
深夜業務従事者健診	2月	34人	年1回
ストレスチェック	9月	73人	年1回

## 【職員研修参加状況】

### ① 施設内研修

研修・会議名	研修内容
身体拘束ゼロ委員会	身体拘束はなぜ駄目なのか/動画
身体拘束ゼロ ・高齢者虐待防止委員会	介護現場での虐待の現状を知る
感染症対策委員会	食中毒予防について/動画
感染症対策委員会 新型コロナ実地研修	感染専門サポートチーム/書面
安全衛生委員会主催	災害避難訓練前研修
安全衛生委員会主催	職員腰痛予防
リスクマネジメント委員会	リスクマネジメントの考え方
リスクマネジメント委員会	プライバシーの基礎知識の確認/動画
認知症ケア委員会	認知症の人の生活障害・心理・行動の特徴について/動画
認知症ケア委員会	不適切ケアとは何か/動画
研修委員会	ハラスメント研修/動画
褥瘡対策委員会	ポジショニングの基本を理解する
訪問入浴介護事業所研修会 (研修計画に基づき年間 12 回開催)	接遇マナー、事例検討、冬場の入浴の寒さ対策、感染症について等 (新型コロナウイルス感染のため書面研修含)
訪問介護事業所研修会 (研修計画に基づき年間 12 回開催)	接遇マナー、事例検討、認知症、食中毒、感染症について等 (新型コロナウイルス感染のため書面研修含)

### ② 施設外研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
天橋の郷見学	20	ユニットケア見学
キャリアアップ研修 (初任者)	2	
バリアフリー展	5	ベッド・浴槽・見守り機器等見学
青嵐荘見学	5	浴槽見学 (アラエル)
感染症研修	2	
ユニットリーダー研修 実地研修	2	グレイスガイルまいる
認知症実務者研修	2	
看護職・介護職リハビリテーション 研修会	3	
虐待防止リーダー研修会	1	Zoom
オレンジロードつなげ隊合同研修	2	Zoom
医療と介護の連携推進研修会	2	丹後保健所主催
施設看取り介護導入研修	2	Zoom
介護支援専門員実務経験者更新研修	1	Zoom
主任介護支援専門員更新研修	1	Zoom
府老協デｲｰﾋﾞｽ職員研修会	1	
安全運転管理者講習会	1	みやづ歴史の館

【地域事業・総合事業】

事業名	参加者数
山田小学校認知症サポーター養成講座 12月14日	9
桑飼シルクカフェ 20回開催	271

【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名	実習内容	受入人数
8	京都暁星高等学校	デイサービス 8月2日～8月4日	1
8	舞鶴YMCA国際福祉専門学校	7月28日～8月10日	1
2	武庫川女子大	ソーシャルワーク実習 2月7日	6

【ボランティア活動状況】

ボランティア名	活動内容	回数/年	延参加数
かるかも会	補修（衣服の繕い）	2回	8
車椅子清掃ボラ	車椅子の清掃	1回	9
はしだて清掃一人一坪大作戦			4

【委員会及び会議】

会議名	開催回数/年
職員会議	2回/年
主任会議	12回/年
リスクマネジメント委員会	12回/年
建替え委員会	45回/年
看取りケア委員会	4回/年
サービス向上委員会/排泄部会	2回/年
研修委員会	3回/年
サービス自己評価委員会	5回/年
感染症対策員会	3回/年
身体拘束ゼロ委員会	3回/年
褥瘡対策委員会	2回/年
医療的ケア委員会	4回/年
認知症ケア委員会	4回/年
部署間連絡会議	5回/年
入所検討会議	11回/年
安全衛生委員会	10回/年
新型コロナ対策会議	29回/年
IT会議	9回/年
ショート調整会議	11回/年

# 令和5年度 社会福祉法人北星会

## 天橋の郷 事業報告書

### 【 総括 】

令和5年度においても、法人理念及び施設理念を基に、天橋の郷に働く職員一人ひとりが各々の役割と使命を認識するとともに、職員同士が連携し、充実したサービス提供ができるよう取り組んでまいりました。

特に多職種連携の推進により、特養においては従来の誤嚥性肺炎予防、骨折事故予防に加え、令和5年度は尿路感染症予防に積極的に取り組んだことにより、年間の延べ入院日数を昨年度より3割以上減少させることができ、稼働率も年度目標を上回る99.2%を達成することができました。

短期、デイサービス等在宅サービスにおいては終末期の方のレスパイトケアの積極的な受け入れを始め、対応困難なご利用者や緊急のサービス受け入れ等、地域包括ケアの推進に事業所として役割を果たすとともに、レクリエーションの内容も趣向を凝らし充実させたことで、ご利用者に非常に満足していただけるサービスを提供することができました。

安心安全な施設づくりにおいては、高浜原子力発電所での事故を想定した放射能除去装置を備えた原子力災害対策施設整備を行い、施設を放射能汚染からのシェルターとし、併せてご利用者と地域の要配慮者合わせて200名が施設内で1週間生活できる水、食料及び資機材を備えました。

新年の能登半島地震での被害に鑑み、災害時に孤立リスクが高い本施設について、必要な設備整備を行うことができ、今後、地域の方と合同の避難訓練を行いながら有事に備えることとします。

建築から20年近くが経過し、傷みが出てきている施設及び設備について、原子力工事に併せて工事区域内の軒天改修等損傷個所の修繕を行いました。今後も必要な箇所、設備について計画的に修繕、更新を行ってまいります。

経営面では、拠点全体の介護保険事業収入が初めて6億円を超え、約6億1千万円に達しましたが、人件費等費用面が嵩み当期資金収支差額が特養、短期でマイナスになるなど、厳しい結果となりました。

今後予想される施設の改修費用及び設備の更新費用を見込むとともに、更に経常的な経費の削減に向け、拠点全体で計画的に取り組んでまいります。

長期目標	今年度目標	取組状況
1 安心安全な施設づくり	1 安心安全な施設づくり	①原子力災害対策施設整備工事及び食料等の備蓄を行うとともに、原子力災害が発生した場合の避難計画を策定した。工事に併せ、工事エリアの軒天改修等、建物の一部改修を行った。 内容：大型空気清浄機の整備、施設の気密性の向上、1週間分の水、食料、必要資機材の備蓄。 総事業費：378,973,138円（全額国庫補助） ②火災訓練時に地震発生を想定した訓練を行った。 ③職員全体会の場において自然災害及び新型コロナウイルス感染症業務継続計画の説明及び研修を行った。 ④ご利用者及び職員に新型コロナウイルス感染症の罹患者が発生した

		が、適切な対応により大きなクラスターになることなく終息させることができた。
2 地域が必要とするサービスの提供	2 サービスのブラッシュアップ	①特養ご利用者の入院原因の多くを占める尿路感染を予防するため、計画的な水分摂取及び清潔保持に取り組んだ。又、引き続き多職種による誤嚥性肺炎予防、骨折予防に取り組んだ。これらにより年間の延べ入院日数は前年度の 181 日から大きく減少し、116 日となり、稼働率向上に繋がった。 ②ノーリフティングケア推進チームを中心に、スライディングボードやリフトを使用したノーリフティングケアを進めることにより、ご利用者と職員の負担軽減を行った。 ③認知症介護に関する研修を積極的に受講し（認知症介護基礎研修…1名、認知症介護実践者研…4名、認知症介護リーダー研修…3名）、これらの職員と認知症ケア委員会の取組により認知症ケアの質的向上が図られた。 ④障害のある方を対象に、短期入所において、共生型サービスの提供を開始した。
3 安定的な経営	3 働きやすい魅力ある職場づくり	①各種 ICT 機器（センサーベッド、インカム、見守りカメラ）を活用し、業務の効率化と職員負担の軽減を行った。併せて職員配置を見直すことにより、特養を中心に時間外勤務を前年度より延べ 2,000 時間減少させることができた。 ②職員には半年ごとに拠点目標を踏まえた個々の目標を半年ごとに設定させ、半年に 1 度の人事考課において、目標に対する取り組み状況等を把握し、評価に繋げた。 ③全職員は年 1 回、副主任以上は年に 3 回のヒアリングを行った。必要に応じ、年間を通して各主任が所属職員ヒアリングを実施した。 ④季節に応じた行事やレクリエーションを積極的に行うとともに、SNS 等で情報発信を行った。これにより地元以外に在住する職員の入職に繋げることができた。
	4 地域とともにある拠点づくり	①持ち帰り弁当及び土日の配食弁当事業に引き続き取り組んだ。 ②令和 4 年度に地元獅子・矢原自治会と締結した災害時一時避難所の協定に基づき、9 月に住民の皆さんの参加の下避難訓練を実施した。 ③新型コロナ対策を行いながら、栗田地区において年間を通じてオレンジカフェを実施した。また、地域と顔の見える関係の構築に向け、地域の一斉清掃活動に参加した。 ④地域の幼稚園、小・中・高校と交流を行った。栗田小学校では、認知症サポーター養成と併せ、福祉教育の場としてデイサービスご利用者と 2 度交流会を行った。又、義務教育教員免許取得のための介護体験について、地元出身の 3 名の大学生の受入を行った。

## 【 部門別事業報告 】

### 1. 特別養護老人ホーム

#### ①入居利用者の状況

(ア) 稼働率（入居定員： 70 名）

年度 \ 区分	営業日数	延入居数	空きベッド数	平均入居数/日	稼働率
4 年度	365 日	25,253 人	297 床	69.2 人	98.8%
5 年度	366 日	25,424 人	196 床	69.5 人	99.2%

(イ) 入退所状況（3月31日時点）

年度 \ 区分	新規入居者	待機者	退所者 合計	施設内死亡 (施設看取り)	施設外死亡	施設移転	帰宅
4 年度	21 人	96 人	21 人	18 人 (15 人)	3 人	0 人	0 人
5 年度	20 人	80 人	20 人	20 人 ( 17 人)	0 人	0 人	0 人

## (ウ) 地区別 入居状況

年度	地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
4年度		67人	3人	0人	0人
5年度		69人	1人	0人	0人

## (エ) 年齢・性別 入居状況

(単位：人)

区分	60～64		65～69		70～79		80～89		90～99		100以上		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
4年度	0	0	0	0	0	6	3	22	4	33	0	2	7	63
5年度	0	0	0	0	0	4	2	21	5	33	0	5	7	63
平均年齢	4年度		男性		92.0歳		女性		89.4歳		合計		89.6歳	
	5年度		男性		90.4歳		女性		90.1歳		合計		90.2歳	

## (オ) 入居期間別 入居状況

(単位：人)

区分	6か月未満		6か月以上1年未満		1年以上3年未満		3年以上10年未満		10年以上		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
4年度	3	12	0	2	3	24	2	19	0	5	10	60	70
5年度	0	6	3	10	3	28	1	17	0	2	7	63	70
平均入居期間	4年度				3年 4か月								
	5年度				2年 10か月								

## (カ) 入居期間別 延入居状況 (特養)

年度	6か月未満		6か月以上1年未満		1年以上3年未満		合計
	男	女	男	女	男	女	
4年度	5人	13人	1人	3人	4人	30人	91人
5年度	0人	8人	3人	12人	5人	31人	
年度	3年以上10年未満		10年以上		計		合計
	男	女	男	女	男	女	
4年度	2人	28人	0人	5人	12人	79人	90人
5年度	1人	25人	0人	5人	9人	81人	

## (キ) 介護度別 入居状況

(単位：人)

区分	要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
4年度	0	1	0	0	1	17	4	27	2	18	7	63		
5年度	0	0	0	0	2	14	4	29	1	20	7	63		
平均要介護度	4年度				4.0				5年度				4.1	

## (ク) 介護度別 延入居状況

区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4年度	31人	0人	6,607人	11,315人	7,300人	25,253人
5年度	102人	0人	6,070人	12,207人	7,045人	25,424人

②加算算定の状況

加算項目 (単位)	個別機能訓練 加算Ⅰ(12)	個別機能訓練 加算Ⅱ(20)	看護体制 加算Ⅰ(4)	夜勤職員配置 加算Ⅱ(18)	ADL維持等加 算Ⅱ(60)	認知症専門 ケア加算Ⅰ (3)
算定延回数(回)	25,363	858	25,393	25,393	71	14,060
加算収入額(円)	3,043,560	171,600	1,015,720	4,570,740	42,600	421,800

加算項目 (単位)	日常生活継続 支援加算 (46)	安全対策体制 加算(20)	看取り介護 加算Ⅰ(72)	看取り介護 加算Ⅱ(144)	看取り介護加 算Ⅲ(680)	看取り介護加 算Ⅳ(1280)
算定延回数(回)	25,393	20	116	297	34	17
加算収入額(円)	11,680,780	4,000	83,520	427,680	231,200	217,600

加算項目 (単位)	外泊時費用 (246)	経口維持 加算Ⅰ(400)	経口維持 加算Ⅱ(100)	栄養マネジメ ント強化加算 (11)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅱ (13)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅰ(3)
算定延回数(回)	80	432	432	19,076	758	28
加算収入額(円)	196,800	1,728,000	432,000	2,098,360	98,540	840

加算項目 (単位)	排泄支援加算 Ⅰ(10)	科学的推進体 制加算Ⅱ (50)	初期加算 (30)	介護職員処遇 改善加算Ⅰ	介護職員等 特定処遇改善 加算	ベースアップ 等支援加算
算定延回数(回)	747	856	565			
加算収入額(円)	74,700	428,000	169,500	20,435,230	6,647,760	3,939,540

加算項目 (単位)	加算収入額合計
算定延回数(回)	
加算収入額(円)	58,160,070

① その他の収入

項目 年度	貴重品管理料	居住費調整額	湯灌料	その他の収入合計
5年度	465,000円	52,524円	300,000円	817,524円



## 2. 介護部門

令和5年5月より新型コロナが5類に移行し、感染予防対策もメリハリをつけながら行う事で、入居者の生活も少しずつ以前のように戻りつつあります。職員も感染予防に取り組む中、施設内での感染拡大等は見られず年度末を迎えることができました。

今年度は服薬事故0を目指してきましたが、長期と短期で服薬関連の事故が44件と多発し、そのほとんどがヒューマンエラーによるものでした。また、眠りスキャン・インカム・eyeカメラ等を使用し事故の防止にも取り組んできましたが長期・短期で骨折事故が10件起きてしまいました。職員間の連携強化とICT機器の活用方法を更に検討しながら来年度も服薬事故・骨折事故の防止に取り組めます。

余暇活動については、サークル活動委員会を発足させ、入居者の声を反映させた活動に取り組んできました。日々の活動や毎月のサークル活動に加え、桜まつり・青空食堂・麵処さと・敬老会・ドライブ等の行事も活発に行うことができました。今後も入居者のニーズに寄り添った企画を立て日々の楽しみや生きがいとなるような取り組みを行っていきます。

- ・茜ユニット：① 平均介護度が4.6と入居者のほとんどが重度の方ですが、8月には夏祭りを催し、迫力ある花火の映像を、プロジェクターを通して観ていただき夏祭りの気分を味わっていただきました。また、入居者の誕生会、翠ユニットとの合同行事等入居者に合わせた楽しみを提供することができました。
  - ② 今年度は4名の入居者の看取りケアを行いました。入居者の尊厳を大切にしながら家族と多職種が連携し、入居者が望まれるケアを丁寧に行い、それぞれの家族からも感謝の言葉をいただくことができました。
  - ③ 接遇強化の取り組みについては異動により大きく職員の入れ替えがあり、チームとしての連携がスムーズにいかないこともありました。後半には結束力もつき接遇においてもしっかり取り組みました。
  - ④ 入居者の情報を共有しリスクについて事前に把握したうえで、安全な対応を行う事で骨折事故を防止することができました。
  - ⑤ 全身状態が低下されている入居者については摂取しやすい形態や好まれる味などを探り、試行錯誤をしながら水分強化に努めました。
- ・和ユニット：① 尿路感染症の予防として水分摂取強化に努めてきました。水分摂取が少ない方には味や飲みやすい形態を工夫しながら提供し、摂取量を増加させることができました。
  - ② 看取り期の方を中心に入居者の状態変化時に職員一人ひとりが意見を出し合い、毎日の引継ぎやグループLINEなどで頻繁に情報共有を行うことによりその方に応じた適切な対応を行いました。しかし、認知症の方をはじめ入居者の不安を和らげるという点では、接遇面で課題がありました。今後は、職員の接遇強化を図り、入居者に安心感をいだいて生活いただけるよう努めます。
  - ③ ノーリフティングケアに取り組み、フレックスボードを使用する事で内

出血事故が減り、入居者にとっても職員にとっても安心安全な介助ができました。現在は自立度の高い方が多く、フレックスボードが必要な方はおられません。今後も入居者の状態に応じてトランスファーボードやスライディングシートを積極的に使用していきます。

- ④ 今年度は服薬事故が8件発生しましたが、いずれもヒューマンエラーによる服薬事故であったため、再度服薬方法を確認し、出勤者同士が声掛けを行いながら事故防止に努めます。
- ⑤ 誕生日企画や、和・梓合同の行事食企画を実施しました。1月からは歌や体操などのレクリエーションを週1回のペースで行いました。今後も、入居者に楽しみをもっといただけるよう、行事企画・レクリエーション活動を行っていきます。

・梓ユニット：① 行事企画については毎月実施することはできませんでしたが、入居者の思いを汲み取り、楽しんでいただける企画や行事食企画を実施することができました。

- ② 認知症対応としてユマニチュードの手法を用いて対応しました。認知症状の強い方についてはユマニチュードの効果を得られず夜間不眠の対応に職員が疲弊してしまう結果となりました。今後は対応を再検討し、入居者の安心に繋がるケアを行っていきます。
- ③ ノーリフティングケアを行うことで、利用者・職員共に負担の少ない安全安心な移乗介助ができました。
- ④ 入居者一人ひとりの1日の水分提供の時間と水分量を表に書き出し、見える化することにより、統一したケアと水分提供量アップに繋がり、尿路感染症を予防することができました。
- ⑤ 骨折事故0を目標としていましたが、今年度は7件の骨折事故を起こす結果となりました。転倒リスクが極めて高く、認知症による危険行動も頻回に見られることから、家族を交えたカンファレンスを持ち、見守り機器やインカムなどのICTについても重点的に活用し再発防止に取り組みました。今後も再発防止策をユニット職員で共有し、引き続き骨折0に取り組みます。

・翠ユニット：① 入居者に安心して生活していただけるように入浴介助・排泄介助・食事形態等について入居者の声を聴き、できる限り希望に沿った丁寧な対応を意識しながら行うことができました。

- ② 看取りケアに移行しても、お元気な頃と同様に思いを尊重し、その方に合わせたケアができるよう、職員間・他部署と情報を共有しながら対応し、最期までその方らしく過ごしていただくことができました。
- ③ 天気の良いシーズンには屋外を散歩し景色を楽しんだり、ユニット内では体操やレクリエーション等を定期的に行い、日々を楽しんでいただくことができました。
- ④ 眠りスキャンやセンサー等を活用しながら転倒事故の予防に努め、事故

が起きた際にはその都度対応方法を検討し再発防止に努めました。また、転倒のリスクの高い方がおられる中で、転倒されても大きな事故にならないように衝撃吸収マットを使用するなどしていたため、転倒事故は起きたものの骨折に至る事はありませんでした。

- ⑤ 尿路感染予防の水分摂取の取り組みにおいては、起床時や 10 時にも水分補給を行うことで、安定して水分摂取量の確保ができました。居室で飲まれる方についても摂取量を把握できるようその都度記録に残すことも定着してきました。

- ・ 泉ユニット：
  - ① 毎月の合同行事では紅ユニットと協力して洋食や中華料理、お彼岸のおはぎやぼたもち作りなどの行事食、夏祭り、ハロウィン、クリスマス会、節分の豆まきなどの季節に合った行事や設えをし、入居者に季節感を感じていただき、楽しんでいただくことができました。
  - ② 入居者にあった個別のケアについて、毎月のユニット会議の他職員間で話し合い、ケアの更新と共有ができました。状態変化のある入居者については各専門職と相談し、連携を取りながら支援ができました。
  - ③ 服薬事故 0 件を目標にしていますが、服薬忘れ・下剤の服薬間違い・期限切れの点眼薬を使用するといった事故がありました。服薬事故が起きた時には原因を検証し情報を共有しながら再発防止策の徹底に努めました。
  - ④ 尿路感染予防の取り組みとして水分摂取強化を実施してきました。その中でも、1 日に摂取する水分量の表を作り目安を把握することで、各職員が意識して実施することができました。しかし、水分摂取が苦手な方もおられる中で、無理強いすることなく摂取していただくための検討が今後の課題です。

- ・ 紅ユニット：
  - ① 毎月泉ユニットと合同で行事を企画・開催し、入居者にいつもと違う雰囲気や楽しみをもっていただくことができました。日常の会話の中で興味や趣向を聴き観察し、多職種と協力し皆の意見を出し合いながら準備し、全員が楽しめる行事ができました。
  - ② PC、ノート、LINE による情報共有においては、要点を簡潔にまとめ、職員間の引継ぎ連携を強化することにより、統一したケアをすることができました。
  - ③ 時間を決めて水分摂取や排泄を促すことにより、適切な排泄介助ができました。水分の取りにくい入居者に強い言い方をすることがあったため、今後気持ち良く飲んでいただけるような工夫をします。
  - ④ 入居者の行動・趣向に合わせてホールの設えを変え、季節感と安心感のある雰囲気作りができました。ホールを歩き回られる入居者やそれを良く思われない入居者など対応が難しい面もありますが、居心地の良い設えを考えて行きます。

- ・ 暁ユニット：① 入居者と積極的にコミュニケーションをとりながら、希望や思いに沿った企画などを計画・実施することができました。またユニット会議はもちろん、ラインやノートを活用し対応方法やケアの仕方を統一できるように努めました。
- ② 認知症への理解を深め、声掛けの仕方などをユニット内で共有し対応しました。不穏状態になられた時も他部署とも連携をとり、職員が落ち着いて同様の対応をすることで、不安が解消し落ち着いて過ごしていただくことができました。
- ③ 尿路感染症予防のため水分摂取を促し、水分摂取量を増加させることができました。しかし、尿路感染症で入院された入居者がおられたため、今後陰部の清潔保持や排泄の声掛け等も強化していきます。また服薬事故に関しては、今年度に飲みこぼし事故が 1 件あったため、服薬手順や服薬方法をしっかりと検討し、0 件になるように努めていきます。
- ④ 今年度は内出血事故が 11 件ありました。その都度、ベッドに緩衝材を巻くなど介助方法を見直してきましたが、今後は事故を起こさない対策を検討していきます。

### 3. 看護部門

入居者にとって安定した日々を送れるように医務内、多職種との連携をこまめにとり、情報共有に心がけました。入居者の健康状態を把握することで囑託医への報告・相談・往診、また採血や受診など速やかに判断し、できる限りの早期対応を行いました。しかし同じ入居者が再度、受診や入院になるといったケースが多くあり、今後の課題となりました。

看取りの方に対しても看取り導入後から最期を迎えられるまで短い方もおられましたが感染対応中でも家族への情報提供や家族の面会を継続し、チーム全体で、統一したケアを提供することができ、その人らしい最期を迎えていただけました。また特養なりに認知症の方も多量中、意思決定支援についても想いを叶えるといった部分から前向きに取り組み始めることができました。

今年度はインフルエンザやコロナの発生もありましたが、これまでの経験を活かし、情報共有や連携をしっかりと行うことで早期対応にてクラスター発生とならずに終息できました。引き続き感染予防に努め、気を引き締めて対応します。

医務内でも感染時期に罹患者があり業務が多忙な時もありました。多職種の協力を得ながら日常に戻れ、継続したケアを提供することができました。また笑顔で働くことができるためにも常日頃から多職種との関係性を大切にし、活気ある職場でありたいと考えます。

#### ① 診療状況（天橋の郷）

##### （ア）天橋の郷

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
4 年度	実数	91	15	0	10	0	9	0	0
	延数	957	17	0	25	0	65	0	0
5 年度	実数	90	0	0	22	0	10	0	0
	延数	878	0	0	146	0	99	0	0

(イ) 他の医療機関 通院

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
4年度	実数	1	16	1	0	1	0	0	0
	延数	1	37	6	0	2	0	0	0
5年度	実数	13	14	2	0	0	0	1	3
	延数	17	45	6	0	0	0	1	3

(ウ) 他の医療機関 入院

科目		内科系	外科系	眼科系	歯科系	泌尿器系	皮膚科	精神系	その他
年度									
4年度	実数	6	0	0	0	1	0	0	0
	延数	8	0	0	0	2	0	0	0
5年度	実数	7	2	0	0	1	0	0	0
	延数	9	2	0	0	1	0	0	0

②健康診断等の実施状況

	対象人数	胸部集団検診
4年度	69人	令和4年10月25日
5年度	69人	令和5年10月24日

4. 支援室

地域の高齢者数が減少し、入居者の獲得も徐々に容易でなくなる状況にあるなか、関係機関との連携によりしっかりと入居者を確保することができました。

本年度は排泄委員会が中心となり、尿路感染症を予防する取り組みを行ったことで、昨年度6件100日間あった尿路感染症による入院が今年度は1件6日間と激減しました。その成果もあり、入院による空床が令和4年度の181床から116床と減少し、また、新規入居者の受け入れを短期間で行うことで、死亡による空床も令和4年度の116床から80床といずれも減少させることができ、稼働率は目標値の98.9%を上回る99.2%となりました。

一方で骨折事故は7件発生し、うち2件は入院となり、昨年度の入院0件から増加しました。今後は転倒による骨折事故を予防するために、入居者の心身の状態を今まで以上にしっかりとアセスメントし、状態に応じた環境の整備を行います。

入居者の生活がより豊かなものになるようサークル活動委員会を中心に、青空食堂・麵処さと・季節ごとのドライブ等の行事を実施し、入居者に楽しみを提供することができました。

これらの取組に参加された様子や日常の生活を、毎月のおたよりに写真と文書でお伝えすることで、多くのご家族から感謝のことばをいただいています。コロナ禍での面会制限により始めた取り組みですが、面会再開後も継続しており、家族との信頼関係づくりに大いにプラスとなっています。

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられた中、感染症対策を継続しながら地域の児童生徒との交流を行うことができました。地域の幼稚園からは来所時にかわいらしい歌声の披露があり、中学生や高校生からは花や壁掛けなど生活を潤すプレゼントをいただき、入居者からは喜びの声が聞かれました。

(ア) 相談件数

区分 年度	入所相談	在苑者相談	面接(本人)	退所相談	その他	合 計
4年度	84件	0件	21件	0件	0件	105件
5年度	73件	0件	20件	0件	0件	93件

(イ) 待機者数 (地区別)

地域 年度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合 計
4年度	29人	49人	2人	2人	82人
5年度	43人	27人	3人	4人	77人

(ウ) 待機者数 (介護度別)

介護度 年度	要支援・他	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計
4年度	0人	0人	4人	57人	13人	8人	82人
5年度	1人	0人	4人	34人	23人	15人	77人

(エ) 退去状況 (特養)

退去先		自宅・家族宅	医療機関(入院)	看取りによる死亡	その他	合 計
4年度	人数	0件	3件	18件	0件	21件
	比率	0%	14.2%	85.8%	0%	100%
5年度	人数	0件	0件	20件	0件	20件
	比率	0%	0%	100%	0%	100%

## 5. 給食部門

令和5年度は、昨年同様新型コロナウイルスの感染対応もある中、ご利用者に少しでも季節を感じていただくために、地元の新鮮な食材を使用し趣向を凝らしたメニューにより、楽しくておいしい料理を提供することを部署全員で取り組みました。又他部署と連携しコロナ禍でもできる行事を工夫しながら実施し、ご利用者のお誕生日には楽しみとなる料理の提供に努めました。

提供数も増加し、好評を頂いている天橋の郷デイサービスとはまなす苑の平日持ち帰り弁当の提供や配食サービスは、お弁当を丁寧に作り安否確認を兼ねてお届けすることができました。

青空食堂にて災害時用ガスコンロと炊飯器を利用し筍御飯と肉じゃがの提供も実施しました。

新任職員の育成面ではプリセプター制度を導入し、効果的な指導体制がとれるようにしました。令和6年度も新任職員受け入れがありますので継続していきます。

環境面では、労災事故もありましたが、設備の美化に努めると同時に古くなっている厨房機器の入れ替えも実施しました。次年度以降も作業効率向上の為にも計画的な入替を検討していきたいと考えます。

①提供実績

(ア) 延食数

区分 年度	特養	短期入所	通所
4年度	25,218食	6,321食	11,231食
5年度	25,342食	6,338食	11,877食

(イ) 栄養基準（1日あたり）

区分 項目	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミンA (μgRE)	ビタミンB1 (mg)	ビタミンB2 (mg)	ビタミンC (mg)
基準	1,400	50	550	30	6	560	1	1	100
4年度	1,432	56	470	40	5.0	440	0.7	0.8	71
5年度	1,439	57	467	40	4.9	433	0.7	0.8	71

(ウ) 食品群別摂取量（1人1日当たり食糧構成）

（単位：g）

区分 群類	1群		2群					3群				4群			
	牛乳乳製品	卵類	魚介類	獣鳥肉類	豆類	大豆製品	味噌類	堅果類	緑黄色野菜	淡色野菜	果実類	芋類	海藻類	米	麦
基準	250	20	70	50	50		1	80	150	50	40	5	180		3
今年度平均	275	16	70	51	39		1	79	149	53	38	3	164		2

6. 天橋の郷短期入所生活介護事業所

今年度はご利用者の新型コロナ感染はほとんどなかったものの、多くの職員が感染し、勤務の変更などで職員に負担がかかることもあったため、職員の健康管理や感染対策もこれまで以上に行い、感染予防に努めました。

終末期の方の受入れやレスパイト目的の利用者の受入れも積極的に行いました。特に終末期の方はギリギリまでご利用いただくことでご家族の負担も軽減し、自宅で穏やかに最後を迎えられることができ、ご家族にも感謝をしていただきました。

一方で年間通して安定した稼働率を確保することができませんでした。特に9月から12月は長い日数を利用のご利用者の長期入所、入院などが相次ぎ、この時期に低下した稼働率を戻すことができませんでした。しかし緊急の受入れを行ったことにより、冬場に入ってから稼働率も安定するようになりました。

他施設で受け入れができなかった方や対応の難しい方の受入れも積極的に行いました。当初は対応に苦慮していた方も、穏やかに過ごしていただける環境作りを心掛け、継続して利用していただくことにより徐々に落ちついて過ごしていただけるようになりました。

今年度は共生型サービスの登録を行い、障害のある若年層に向けてサービスを開始しました。実際にご利用者の受け入れには未だ至っていませんが、これまで繋がりのなかった障害福祉サービスの事業所から連絡を受け、情報の共有を図ることで、障害のある方の受入れへの準備を行うことができました。またこのサービスを提供することで、

現在利用されている方の障害や疾病などへの知識を広げることにも繋がると考えています。今後は実際のサービス提供に向け、環境作りやスキルアップに努めます。

・介護部 昴、虹ユニット

- ① 認知症ケアにおいて職員のスキルや対応方法にムラがあり、利用者個々にあった適切な対応ができませんでした。職員の対応を統一し、標準化することで適切なケアに繋がられるよう次年度に取り組みます。
- ② 接遇面の強化に取り組みましたが、職員の配慮が欠け利用者から不快な気持ちになったとのクレームが3件ありました。今後、同じことを繰り返さないように普段から接遇面を意識して業務にあたります。
- ③ 服薬事故ゼロを目標としていましたが、誤薬・服薬忘れ・時間指定薬忘れ・飲みこぼしなど服薬事故を9件起こしてしまいました。服薬管理マニュアルを徹底し、職員間で密に連携を図り再発防止に努めていきます。
- ④ 感染症の発生時にはマニュアルに沿った対応ができました。普段から感染予防と体調管理に努めます。
- ⑤ 施設での利用者の様子を家族にわかり易く伝えることはできましたが、在宅での悩みなどの相談を受けることはなかったため、気軽に相談していただける関係性が構築できるように検討していきます。
- ⑥ ユニット間の連携が円滑に行えないことがありました。職員同士思いやりを持った行動がとれるように努めます。
- ⑦ ノーリフティングケアの研修を全員が受講し実践できていたため、利用者と職員の身体的負担軽減に繋がりました。
- ⑧ 四季の設えや季節にあった月1回の行事、レクレーションを実施しました。次年度もご利用者の希望に沿ったよりクオリティの高い楽しみを提供していきます。

①利用者の状況

(ア) 稼働率 (定員：20名)

年度 \ 区分	営業日数	延入居数	平均入居数/日	稼働率
4年度	365日	6,409人	17.6人	87.8%
5年度	366日	6,384人	17.4人	87.2%

(イ) 契約数

年度 \ 区分	新規入所者
4年度	47人
5年度	46人

(ウ) 地区別 入所状況

年度 \ 地域	宮津市	与謝野町	福知山市
4年度	124人	1人	1人
5年度	129人	2人	1人

(エ) 介護度別 入所状況

年度	介護度 性別		要介護1		要介護2		要介護3		要介護4		要介護5		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
4年度	8	9	6	23	4	25	8	25	4	9	30	91		
5年度	12	12	9	23	5	24	9	20	5	9	41	89		
平均要介護度	4年度				2.78				5年度				2.88	

(オ) 介護度別 入所状況 (予防)

年度	要支援度 性別		要支援1		要支援2		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
4年度	0	2	2	1	2	3		
5年度	0	0	1	1	1	1		

(カ) 介護度別 延入所状況

年度	介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4年度		65人	49人	949人	1,835人	1,533人	1,447人	531人
5年度		0人	23人	1,337人	1,370人	1,283人	1,435人	936人

②加算算定の状況

年度	加算項目	機能訓練体制 加算(12)	サービス提供制 強化加算Ⅱ(18)	サービス提供体制 強化加算Ⅰ(22)	夜勤職員配置 加算Ⅱ(18)	在宅中重度者受 入加算4(425)	送迎加算 (184)
算定回数(回)		6,350	0	6,350	6,350	8	2,268
金 額(円)		762,000	0	1,397,000	1,143,000	34,000	4,173,120
年度	加算項目	緊急短期入所 受入加算(90)	処遇改善 加算Ⅰ	特定処遇 改善加算Ⅰ	ベースアップ 等支援加算	地域外送迎	長期利用者 提供減算
算定回数(回)		7				112	1
金 額(円)		6,300	4,986,260	1,621,420	961,270	28,000	-300
年度	加算項目	加算収入額 合計					
算定回数(回)							
金 額(円)		15,112,070					

短期入所 介護度別延べ利用状況



7. 天橋の郷通所介護事業所

ご利用者の在宅生活がより良く継続できるよう、自立支援と機能維持に重点を置いたケアに努めました。ご利用者の住環境や生活スタイルを踏まえ、その方にあったケアの方法

を多職種で協議し、状態に合わせたケアの提供を行うことでご利用者やご家族に安心してご利用いただけました。居宅介護支援事業所や地域包括支援センターと密に連携し、迅速な状態把握・情報共有により状態の変化に柔軟に対応したケアの提供を行うことができました。

グループ活動では、京都式選べるデイサービスに継続して取り組み、毎日3～5グループの活動をご利用者の要望を聴きながら提供しました。園芸活動に関しては、原子力災害対策工事の影響があり、当初計画していた取り組みが実践できなかったため、次年度は野菜や花の苗をご利用者と共に選ぶなど生育と収穫を楽しんでもらえるよう活動内容に反映させていきます。行事企画など余暇活動については感染症予防を図りながら、毎月2回の企画を実施しました。ご利用者が例年楽しみにされている企画を継続しつつ、プロジェクターを用いた上映会など新たな企画にも取り組むことができ、内容的にも充実したものが提供できました。

感染症対応では、新型コロナ感染症の5類移行後も感染症予防の徹底を図り、新型コロナ感染症だけでなく様々な感染症に対する予防対策を講じました。ご利用者や職員の新型コロナの罹患がありましたが、迅速に初期対応を行うことで感染拡大を防止し、影響を最小限にとどめることができました。

認知症状の強い方に対して、日々の関わりの中で良かった対応やうまくいかなかった対応を職員間で共有し、意見交換を行い職員間の認識の共有に努めました。対応が難しい方も、その方だけでなく他のご利用者にも心地良く過ごしていただける対応を職員皆で考え、継続して対応することでご利用者に快適に過ごしていただくだけでなく、職員個々の認知症に対する理解や対応力の向上にも繋がりました。

年間通して、新規利用者の獲得や増回希望者の受け入れなど柔軟に対応を行い、稼働率の向上を図りました。その結果昨年度より3%近く上昇したものの目標には到達できませんでした。到達できなかった要因をしっかりと分析し、改善を図り稼働率向上につなげていきます。

## ①利用実績

### (ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
4年度	35人	254日	7,174人	80.7%	1.5
5年度	35人	256日	7,482人	83.5%	1.6

※令和4年度は新型コロナ感染症により営業を5日休止

※令和5年度は台風により営業を1日休止

### (イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4年度	2,497人	2,115人	463人	306人	110人	5,491人
5年度	2,446人	2,256人	517人	403人	176人	5,798人

(ウ) 介護度別利用状況 (介護予防)

介護度 年度	要支援 1	要支援 2	合 計
4 年度	503 人	1,180 人	1,683 人
5 年度	554 人	1,130 人	1,684 人

②加算算定の状況

(ア) 通所介護

加算項目 回数 金額	個別機能訓練 加算 I 1 (56)	個別機能訓練 加算 I 2 (85)	個別機能訓練 加算 II (20)	認知症加算 (60)	入浴介助 加算 I (40)	口腔機能向上加 算 II (介護) (160)
算定回数(回)	348	3,842	757	1,203	4,972	1,117
加算収入額(円)	194,880	3,265,700	151,400	721,800	1,988,800	2,000,000

加算項目 回数 金額	ADL 維持等 加算 I (30)	ADL 維持等 加算 II (60)	科学的介護推進体制 加算 (介護) (40)	送迎減算 (-47)	サービス提供 体制加算 II (18)
算定回数(回)	62	804	866	90	5,779
加算収入額(円)	18,600	482,400	346,400	-42,300	1,040,220

加算項目 回数 金額	感染症災害 3%加算	処遇改善加算 I (介護) (59/1000)	特定処遇改善 加算 I (介護) (12/1000)	ベースアップ 等支援加算 (11/1000)
算定回数(回)	408	866	866	866
加算収入額(円)	91,810	3,192,550	649,210	595,120

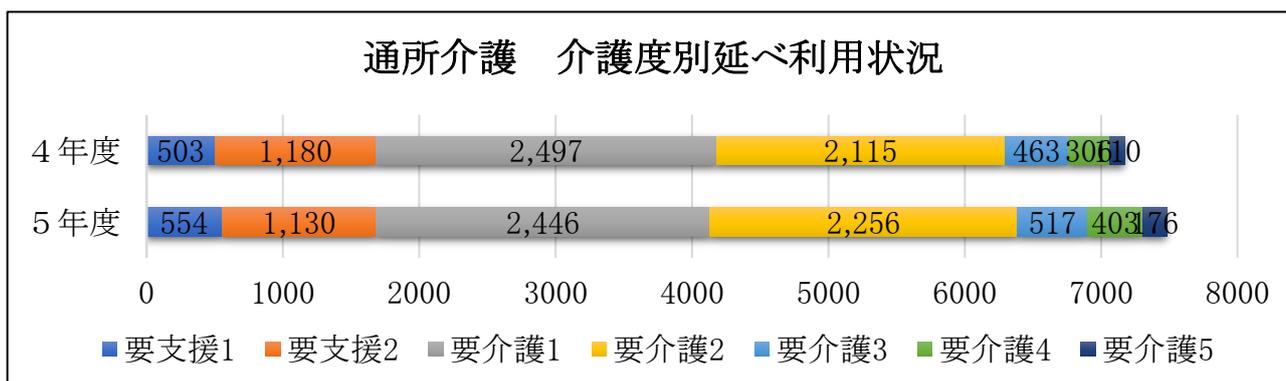
通所介護 合計加算収入額	14,696,590 円
--------------	--------------

(イ) 予防通所

加算項目 回数 金額	運動機能向 上加算 (225)	サービス提供 体制加算 II 1 (72)	サービス提供 体制加算 II 2 (144)	複数サービス 実施加算 I 2 (480)
算定回数(回)	134	138	163	150
加算収入額(円)	301,500	99,360	234,720	720,000

加算項目 回数 金額	処遇改善加算 I (59/1000)	特定処遇改善 加算 I (12/1000)	ベースアップ 等支援加算 (11/1000)	科学的介護推進体 制加算 (40)	口腔機能向上加 算 II (160)
算定回数(回)	301	301	301	301	43
加算収入額(円)	547,480	111,070	102,060	120,400	68,800

予防通所介護 合計加算収入額	2,305,390 円
----------------	-------------



## 8. Re-style 通所介護事業所

令和5年度は普段の活動内容を見直し、利用者人数の変化や職員の休みがあっても質の高い体操メニューや活動内容を提供できる体制作りに取り組みました。

ストレッチや全身体操、道具を使ったエクササイズ、脳トレを取り入れた体操等、バラエティに富んだ運動をまんべんなく行っていただけるプログラムを提供しました。3か月に1度の体力測定も個別で実施することによりご利用者のモチベーションアップにつなげることができました。

外出企画も積極的に取り組み、屋外でのポールウォーキングやスポーツだけでなく、住み慣れた地元での懐かしい記憶をたどり心身の活性化を図りました。天橋立観光船に乗船した外出企画では、ご自分が昔乗船した思い出を話されたり、まだ自分もこのような外出ができるという自信につなげていただくことができました。

職員が役割分担し、話し合いながらこのような各活動を実施することで、職員の経験と成長にもつながりました。来年度も反省点を振り返りながら活動に活かしていきます。

経営面においては、現在利用中の方々から複数回の利用希望があり柔軟に受け入れ対応しましたが、新規利用希望者は昨年度の半数にとどまり、稼働率は前年度より低下し厳しい数字になりました。加えて事業所評価加算が算定できず減収となりました。

前述の充実した活動、お楽しみレクの企画を継続しながら、今年度から導入した運動処方AIアプリカルファの活用で効果的なマシントレーニングをアピールし、新規利用者の獲得に努めます。また休まれる方が多くなる曜日はそれを見越した計画を立て稼働率を改善していきます。

来年度も引き続き様々なご利用者の身体の状態や能力に応じた活動を実施し、いきいきとした暮らしにつながる居場所づくりを行っていきます。

### ①利用実績

#### (ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
4年度	AM・PM 15/15	259日	4,926人	63.4%	0.8
5年度	AM・PM 15/15	258日	4,694人	60.6%	0.8

※令和5年度は台風により営業を1日休止

#### (イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4年度	903人	603人	131人	0人	0人	1,637人
5年度	973人	497人	104人	52人	0人	1,626人

#### (ウ) 介護度別利用状況（介護予防）

介護度 年度	事業対象者	要支援1	要支援2	合計
4年度	96人	2,448人	745人	3,289人
5年度	128人	2,178人	762人	3,068人

## ②加算算定の状況

### (ア) 通所介護

回数 金額	加算項目 個別機能 訓練加算ⅠⅠ (56)	ADL維持等 加算Ⅱ (60)	科学的介護 推進体制加算 (40)	サービス提供 体制加算Ⅰ (22)	処遇改善 加算Ⅰ (59/1000)	特定処遇 改善加算Ⅰ (12/1000)
回数(回)	1,469	358	358	1,627	51,964	10,582
加算収入額(円)	822,640	21,480	143,200	357,940	519,640	105,820

回数 金額	加算項目 介護職員等ベースアップ等 支援加算 (11/1000)	送迎減算 (-47)
回数(回)	9,677	8
加算収入額(円)	96,770	-3,760

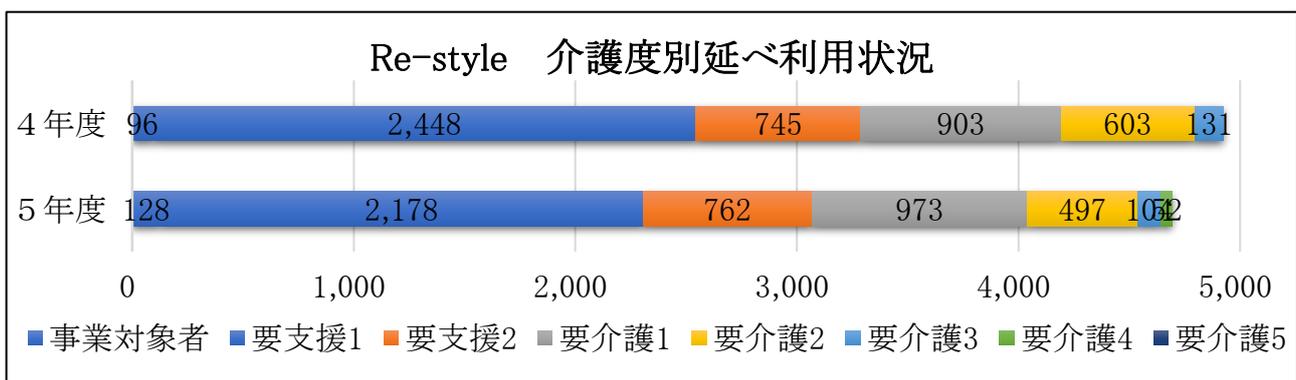
通所介護合計加算収入額	2,063,730円
-------------	------------

### (イ) 予防通所

回数 金額	加算項目 運動器機能 向上加算 (225)	科学的介護 推進体制加算 (40)	サービス提供 体制加算ⅠⅠ (88)	サービス提供 体制加算ⅠⅡ (176)	処遇改善 加算Ⅰ (59/1000)
回数(回)	795	795	602	193	115,642
加算収入額(円)	1,788,750	318,000	529,760	339,680	1,156,420

回数 金額	加算項目 特定処遇改善加算 Ⅰ (12/1000)	介護職員等ベース アップ等支援加算 (11/1000)
回数(回)	23,326	21,543
加算収入額(円)	233,260	215,430

予防通所合計加算収入額	4,581,300円
-------------	------------



## 9. はまなす苑通所介護事業所

昨年度より良いものを提供できるようイベントや外出に力を入れ取り組みました。イベントでは設えから細かい所までこだわり、ご利用者に満足していただくことができました。外出もアンケートを実施し、できるだけ一人一人の願いが叶うよう配慮し行うことができ大好評でした。地域に向けての活動も精力的に行い、はまなすマルシェや文

化祭の出店、子供食堂に加え保育園にも寄付を行うことができました。また、由良地区の各地域のサロンにも参加させていただき地域の方々からも喜ばれ充実した年となりました。普段の活動でも環境づくりや雰囲気づくりを大切に、職員も楽しみながら行うことができました。体操や脳トレなどリハビリメニューも少しずつ取り入れ、事業対象者や要支援者にも対応できるよう準備をすすめることができました。

しかしこういった内容の充実など取り組みをすすめてきましたが、収入や稼働率に反映させることができませんでした。新規利用者も事業計画に近い人数を獲得できましたが、事業対象者や要支援者が少なく複数回利用の利用中止も多くあり目標の稼働率を大幅に下回りました。今年度の要因をしっかりと分析し改善を図るとともに、来年度はゆらリングカフェも行い地域へ向けた取り組みも例年以上に行い新規利用者獲得に努めます。

## ①利用実績

### (ア) 延べ利用者数及び利用率（要介護者及び要支援者）

区分 年度	定員	営業日数	延利用数	利用率	平均介護度
4年度	20人	257日	3,989人	77.6%	2.0
5年度	20人	256日	3,650人	71.4%	2.1

※令和4年度は新型コロナウイルス感染症により営業を2日休止

### (イ) 介護度別利用状況

介護度 年度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4年度	1,215人	978人	1,016人	217人	156人	3,582人
5年度	819人	1,029人	695人	394人	174人	3,111人

### (ウ) 介護度別利用状況（介護予防）

介護度 年度	事業対象者	要支援1	要支援2	合計
4年度	0人	0人	407人	407人
5年度	0人	39人	500人	539人

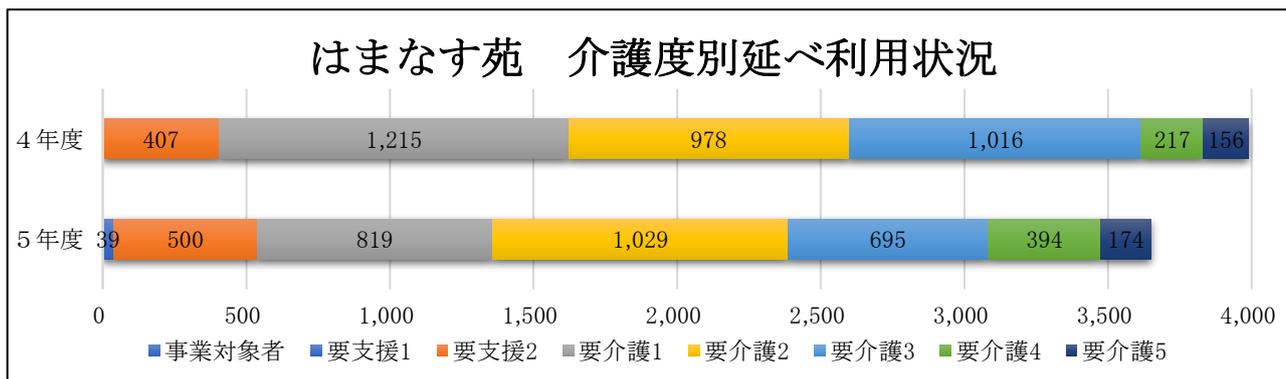
## ②加算算定の状況

### (ア) 通所介護

加算項目 回数 金額	入浴介助 加算 I (40)	認知症 加算 (60)	送迎減算 (-47)	サービス提供体制加算 I (22)	口腔機能 向上加算 I (150)	科学的介護 推進体制加算 (40)	処遇改善 加算 I (59/1000)
回数(回)	2,891	1,378	60	3,106	488	322	
金額(円)	1,156,400	826,600	-28,200	683,320	732,000	128,800	1,709,100
特定処遇 改善加算 I (12/1000)	ベースアップ 等支援加算 (11/1000)	感染症災害 3%加算	合計				
347,600	318,640	129,650	6,083,610				

(イ) 予防通所

加算項目 回数 金額	運動器機能 向上加算 (225)	口腔機能 向上加算 I (150)	サービス 提供体制 加算 I 1 (88)	サービス 提供体制 加算 I 2 (176)	科学的介護 推進体制 加算 (40)	処遇改善 加算 I (59/1000)	特定処遇 改善 加算 I (12/1000)	ベースアッ プ等 支援加算 (11/1000)
回数(回)	74	16	11	63	74			
金額(円)	166,500	24,000	9,680	110,880	29,600	156,160	31,540	29,300
合計								
	557,660							



10. 事務部門

天橋の郷は高浜原子力発電所の UPZ 圏域内に立地するため、原子力災害対策として、放射線防護設備を設置し、災害発生時に入居者と地域住民の安全な避難場所として位置付けることができました。

開所から 19 年目となり、建物・設備の老朽化が進む中、冷蔵庫等の調理器具の購入や高圧ケーブルの交換等、優先順位をつけながら順次更新を行いました。

介護報酬における各加算については、栄養マネジメント強化加算を新たに算定したことで、2,098,000 円の増収に繋がりました。

施設を挙げて取り組んだ CTY 計画により、光熱水費の削減や使用物品の見直しを行ったことで費用を押さえることができ、大きな成果となりました。

感染症予防対策においても、備品を適切に管理・備蓄していたことで、感染症発生時においても迅速に予防対策を行うことができ、感染症が発症しても拡大することなく終息を迎えることができました。

質の高い介護サービスを目指し、e-ラーニングをはじめ施設内外での研修を積極的に受講し、施設内研修等で職員全体に共有することができました。また、ノーリフティングケアの推進を図る中で、全員が研修を受け実践できるようになりました。今年度は、新たに虐待防止検討委員会を発足させ、不適切ケアの防止や接遇強化にも取り組みました。

【配食サービス実績】

年度	介護配食	持ち帰り弁当
4年度	1,191 食	2,977 食
5年度	1,382 食	2,855 食

【おむつ等販売】

年度	項目	販売数
4年度		921 パック
5年度		853 パック

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9月13日	110人	年1回
腰痛健診	9月13日	93人	半年に1回
	2月28日	82人	
深夜業務従事者健診	2月28日	37人	年1回
ストレスチェック	9月13日	96人	年1回

【職員研修参加状況】

①内部研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
職員総会・親睦会総会	49人	コンプライアンスの一環としての個人情報漏えい防止について
感染症予防委員会施設内研修①	34人	食中毒予防とガウンテクニック
排泄ケア・褥瘡予防委員会	29人	スキントラブルの予防とスキンケア・紙おむつの上手な使い方
リスク委員会施設内研修①	41人	高齢者虐待・服薬事故について
感染症予防委員会施設内研修②	32人	ガウンテクニックとゾーニング
事故防止・虐待拘束検討委員会施設内研修	35人	服薬事故0を目指して
リスク委員会施設内研修②	34人	高齢者虐待・服薬事故について(応用編)
実践報告会	41人	

②外部研修

研修・会議名	参加人数	研修の開催方法・研修内容
紙オムツ勉強会	6人	紙オムツの選び方・使い方について
新型コロナ感染症対策相談会	1人	施設からの質問や感染症法上の位置づけ変更に伴い施(Zoom)設等で準備することについて
社会人基礎力向上研修	1人	(Zoom)社会人としての基本の接遇研修
高齢者施設向け新型コロナ5類移行に向けた説明会	3人	(Zoom)感染症法上の位置づけ変更に伴い変化すること
福祉職のためのマナー研修	1人	こころに寄り添うコミュニケーション術
福祉職場におけるケース記録の書き方	1人	事実と判断を区別した書き方・使い方
府老協 新任職員研修会	1人	福祉の本質(心のあり方)を学ぶ
企業内人権啓発推進員研修会、京都府企業内人権問題啓発セミナー及び学卒求人説明会	1人	(Zoom)学卒求人説明会、企業内人権啓発推進員研修会・京都府企業内人権問題啓発セミナー
京都府認知症介護実践者研修	4人	認知症介護実践者研修(講義・課題・自施設実習)
OJTリーダー養成研修	2人	部下の育成方法や指導のスキル習得
宮津市地域ケア会議①	5人	成年後見支援センターの現状、身寄りのない方の死後事務・任意後見制度について
宮津市地域ケア会議②	4人	地域医療のブレイクスルー
宮津市地域ケア会議③	4人	認知症の方の運転免許返納について、認知症世帯の対応について

老人福祉施設看護職・介護職等研修	2人	(Zoom) BPSD への対応と尊厳の保持
聞く力と伝える力	1人	(Zoom) 対人援助の作法
キャリアアップ研修(初任者)	1人	福祉サービスの理念・倫理の基礎を学ぶ
バーセルインデックス研修	4人	北星会(1名講師として参加)
介護施設における安全対策担当者養成研修	1人	介護施設における介護事故予防等の安全対策について
キャラバンメイト養成研修	2人	認知症サポーターに伝えたいこと、認知症サポーター養成講座の運営方法
ユニットリーダー研修 実地研修	2人	ユニットケア・ユニットリーダーについて
中堅職員対象 チーム運営セミナー	1人	職場内でのチーム運営について
栄養士等ネットワーク推進研修会	1人	(Zoom) 減塩の具体的な手法や取組事例について
看取り基礎研修	1人	(オンライン) 在宅・施設・地域における看取りについて
特定給食施設従事者等講習会	1人	(Zoom) 災害時の食の備えと提供時の衛生管理について
喀痰吸引等1号2号～5号研修	2人	喀痰吸引研修の基本研修
看護師Ⅱ職能研修	1人	STOP!!誤嚥性肺炎～“最後まで食べたい”を支援するために～
福祉施設職員 新人職員研修	1人	福祉施設職員としての基本姿勢や介護技術を提供する際の心身の使い方
病院勤務以外の看護師等認知症対応力向上研修	1人	(Zoom) 認知症に関する基本的知識、地域における実践、支援等について
対人援助の基本姿勢・相談面接技術セミナー事例検討	1人	事例検討の価値や知識等の基本について
宮津市女性活躍応援塾	1人	私らしく、いきいきハタラク、生きる、MIYAZUを
安全運転管理者等講習	1人	(オンライン) 安全運転管理者等講習
CAREKARTE Web セミナー	2人	(Zoom) 個別ケア促進による高品質介護を実現した7つの施策
福祉リーダーの極意を学ぶセミナー	2人	(Zoom) どうすれば信頼される福祉リーダーになれるか
認知症介護実践者リーダー研修	3人	認知症介護実践者リーダー研修実習(講義・課題・自施設)
虐待防止研修	2人	施設・事業所における虐待防止(不適切なケア)について
実践能力向上研修〈看護実践〉	1人	(オンライン) 介護施設で暮らす高齢者に必要な知識とケア
モチベーションマネジメント研修	1人	(Zoom) モチベーションマネジメントに関する知識習得と演習
食品衛生責任者 実務講習会	1人	食品衛生責任者講習
新入職員フォローアップ研修	1人	北星会へ知識理解、半年で感じたことの振り返り、目標設定シートの作成、施設の魅力発信
地区別看取りサポート研修(北部)	1人	看取り研修導入レクチャー、地域事例に基づいた支援課程の振り返り、ディスカッション
教育研修会 認知症に関する研修会	5人	(Zoom) 認知症に関する最近の話題～COVID-19との関連も含めて～
介護ロボット等活用ミーティング	3人	(Zoom) 介護ロボット等の導入・利活用について
老人福祉施設看護職・介護職等研修	1人	BPSD への対応と尊厳の保持
宮津市高齢者等虐待防止ネットワーク研修会	3人	職員のメンタルヘルスとアンガーマネジメント
虐待防止リーダー研修会	2人	(Zoom) 虐待防止・対応について
感染予防対策研修会	2人	(Zoom) 新型コロナウイルス感染症における施設内療養対応
福祉避難サポートリーダー養成研修会	2人	福祉避難サポートリーダー養成研修(概論・講演・演習)
医療と介護の連携推進研修会	4人	パーキンソン病患者の日常を連携で支える

京都府介護支援専門員 実務研修	2人	(Zoom) 介護支援専門員実務研修
施設長向け介護施設における看取りケア研修	1人	(Zoom) 介護施設の未来を拓く～看取りまで関われる担い手を育てるヒント～
認知症カフェ連絡会・キャラバンメイト連絡協議会における合同研修会	2人	認知症当事者及び家族による講演、認知症サポーター養成講座における標準教材の改訂に係る説明会
求人施設研修会	1人	看護職に選ばれる魅力的な職場を目指して
施設看取り介護導入研修	1人	(Zoom) 看取り介護プロジェクトの経緯・看取り介護の基礎知識、看取り介護の具体的方法
施設看取り専門研修	1人	(Zoom) 高齢者の身体的・精神的変化に対応した看取りケア、本人・家族の意思確認・家族支援・多職種連携・グリーンケア
認知症介護基礎研修	1人	(eラーニング) 認知症の人の理解と対応の基本について
フォローアップ研修会	1人	介護・福祉職場での状況、介護・福祉職のモチベーションアップ方法等
福祉避難サポートリーダーフォローアップ研修会	2人	福祉避難サポートリーダーの役割について、能登半島地震に係る支援活動について
科学的介護情報システム(LIFE)研修会	1人	LIFEの評価項目に関する基礎知識や活用方法等
研修会「障害者・高齢者虐待防止に向けて施設・事業所に求められる体制整備と身体拘束・行動制限の廃止を考える」	1人	障害者・高齢者虐待防止に向けて施設・事業所に求められる体制整備と身体拘束・行動制限の廃止を考える
福祉サービス苦情解決事業相談研修会	1人	(動画視聴) 対応に苦慮する苦情はなぜ増えるのか、苦情解決における実践報告から学ぶ

#### 【地域貢献事業】

月	事業名	参加者数
4～11月・3月	オレンジカフェ推進事業(いちごカフェ)	78人
6月4日	獅子地区一斉清掃	8人
9月3日	獅子・矢原地区住民避難訓練受入	20人
10月	栗田中学校職業体験学習	延べ2人
11月	栗田小学校3年生総合学習	12人
11月	京都府原子力総合防災訓練	2人
2月	栗田小学校3年生総合学習	12人

#### 【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名	実習内容	受け入れ人数
10月	龍谷大学	介護等体験	1人
10月	佛教大学	介護等体験	1人
11～12月	同志社大学	介護等体験	1人
11月	京都府看護協会	訪問看護師養成講習	1人

#### 【ボランティア活動状況】

\*新型コロナウイルス感染症対策のため、受入れは行わなかった。

【各種会議・委員会開催状況】

会 議 名	開催回数／年
業務運営会議	1 2回
入所判定会議	1 9回
安全衛生委員会	1 2回
感染症予防対策委員会	5回
認知症ケア委員会	1 1回
排泄ケア・褥瘡予防委員会	4回
事故虐待防止・身体拘束廃止委員会	1 2回
看取り委員会	4回
サークル活動運営委員会	7回
施設マニュアル委員会	4回
地域貢献PR委員会	1 2回

# リハ・ヴィラなぎさ苑 事業報告書

## 【年度統括】

令和 5 年度は令和 4 年度に入所部門で複数回、発生したクラスターの経験を踏まえ感染予防対策に重点を置き、サービスを実施しました。その結果、施設内での感染拡大はなく、ご利用者に安心して利用いただく事が出来ましたが、その反面、感染予防対策にて入所時一定期間、個室を使用していただく対策を実施した為、稼働率に大きな影響を与え、入所部門の稼働率は令和 4 年度より低下しました。

在宅部門においても、感染の影響にて利用を中止されるご利用者等が見られましたが各関係機関と連携を図り、通所リハビリは昨年度より増加、居宅介護支援は昨年度並みの利用率を確保することができました。しかし訪問リハビリについては職員の入退職の影響もあり、入所部門と兼務するなどの対応を行いました但し利用率は低下する結果となりました。

職員体制については施設長(医師)を始め介護職員、看護職員、作業療法士、言語聴覚士等 12 名(非常勤含む)を採用しましたが退職者もあり、新規職員への指導を始め、職員個々のスキルアップ、業務内容の見直しや多職種連携を図りスムーズなサービスが提供できるように努めました。

施設設備面においては開設 23 周年を迎え、老朽化にて特殊浴槽と高圧ケーブルの入れ替えを実施し、安心、安全なサービスが提供できる体制を整えました。

重点項目	年度目標	実績
安定した経営	居宅介護支援事業所や医療機関等と連携し安定したご利用者の確保に努めます。	各関係機関と連携を図り、ご利用者の確保に繋がりました。
	在宅復帰超強化型を基本として各専門職の知識、技術、研修に基づく各加算を取得していきます。	在宅復帰超強化型維持の為、在宅復帰率等を業務運営会議で小まめに把握し、共有しました。
	全職員がコスト意識を持ち主体的に運営に参画し、業務効率化を図っていきます。	各職員へのコスト削減、見直しを意識付ける目的で各部署に担当者を設け、担当者を中心に確認、見直しを実施しました。
	法人本部と連携を図り、業務の集約化と効率化を目指します。	クロックオン・スマート HR を導入し、業務の集約化に繋がりました。
	消費電力の節約と二酸化炭素排出量の削減に努めます。	消費電力の節約を各職員へ促しました。またボイラーの運転時間の見直しを行い、節電、環境への配慮を行いました。
安心・安全な介護サービスの提供	在宅復帰施設を基本とし在宅生活を維持して行くための支援を行なっていきます。	在宅復帰を目指したケア、関わりを持ち、在宅担当のケアマネジャーと連携を図り、退所前カンファレンス等を実施し、スムーズな在宅復帰に繋がりました。
	多職種間の連携を図り、情報ネットワークの活用と情報共有に努めます。	電子ケアシステム、共有フォルダ、Google フォームを活用し多職種間で情報共有を行ないました。
	業務継続計画(BCP)を策定し、自然災害や感染症発生時等に対応していきます。	業務継続計画(自然災害・感染症)を策定しました。また自然災害時の対応に関する施設内研修を実施しました。
	個々の状態に対応した安心、安全な食事の提供を行なっていきます。	当施設のご利用者を始め、天橋園(デイサービス、ハウゼ天橋、天橋の家)へ当施設で調理した食事を継続的に提供し、ご利用者個々に合った

		食事の提供ができるよう、職員間で情報を共有すると共に安全・安心かつバランスの取れたメニューを提供しました。
	各種マニュアルの整備、見直しを随時、実施していきます。	担当者を決め、マニュアルの整備、見直しを行いました。今後も引き続き行っていきます。
	施設備品を管理し計画的に修理、更新を行なっていきます。	開設 23 周年を迎え、老朽化にて特殊浴槽と高圧ケーブルの入れ替えを実施し、安心、安全なサービスが提供できる体制を整えました。
人材育成と確保	施設内研修 (OJT)、施設外研修 (Off-JT)、研究会等への参加を支援し職員の専門性向上を目指します。	職員の研修参加を支援し個々のスキルアップ、サービス向上に繋がりました。
	新規採用、入職時には新任職員研修、他部署研修を実施し他部署を理解すると共にスムーズな連携を目指します。	新規採用、異動の職員を中心に新任職員研修、他部署研修を実施し、老健を始め他部署の特性を理解することに繋がりました。
	福祉即戦力介護研修生の実習受入、学生の実習や体験学習の受入を行い、人材確保へ繋がります。	京都府立看護学校、龍谷大学短期大学部、福祉即戦力人材養成科、立命館大学、京都府看護協会京都府ナースセンターからの実習受入を行いました。
	法人本部と協力したリクルート活動を実施し人材獲得に努めます。	法人本部と連携し施設見学の希望があれば、各専門職を中心に対応し応募、採用へ繋げることができました。
	ホームページ、SNS 等を活用した情報発信を行い人材確保に努めます。	毎月お便りを発行すると共にホームページや SNS へ投稿し情報発信を行いました。
地域貢献と連携	認知症カフェ、サポーター養成講座、健康講座などを実施・継続し、職員の専門知識を地域住民に提供します。	毎月、須津なぎさカフェ(認知症カフェ)を開催すると共に7月には吉津小学校児童を対象とした認知症サポーター養成講座となぎさ苑施設紹介を実施しました。
	地域住民が行うサロン活動の送迎等を始め、地域住民との繋がりを大切にします。	せせらぎの会(ふれあいサロン)の開催日に公用車にて職員が送迎を手伝い、繋がりを持ちました。
	地域のニーズを把握し、行政や各関係機関と連携を図り対応していきます。	須津なぎさカフェ(認知症カフェ)やせせらぎの会(ふれあいサロン)送迎時に地域の方の声を聴く機会を設けました。

## 【部門別事業報告】

### 1. 介護老人保健施設

#### ① 長期等利用者の状況

##### (ア) 療養介護状況

区分 年度	入所稼働率 (短期入所含)	在宅復帰率	ベッド 回転率	重度化割合 要介護 4・5	入所前後 訪問指導	退所前後 訪問指導
4年度	92.5%	55.0%	13.7%	31.3%	41.7%	34.0%
5年度	91.8%	61.2%	14.8%	25.0%	39.7%	59.2%

##### (イ) 退所者状況(延人数)

区分 年度	在宅	在宅系施設	介護老人 福祉施設	他の老健	入院	死亡	その他	合計
4年度	82人	7人	38人	4人	26人	12人	8人	177人
5年度	75人	9人	45人	1人	10人	9人	7人	156人

##### (ウ) 年齢・性別 入所者数(延人数)

年度	65歳未満	65~69	70~79	80~89	90~99	100以上	合計
4年度	0人	3人	17人	89人	95人	9人	213人
5年度	0人	4人	18人	74人	81人	14人	191人

## (エ) 介護度別 入所者数・平均介護度(延人数)

年度\介護度別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度
4年度	25人	46人	63人	55人	24人	213人	3.03
5年度	14人	51人	64人	41人	21人	191人	3.02

## (オ) 地区別入所者数(延人数)

年度\地域	宮津市	与謝野町	伊根町	その他	合計
4年度	105人	84人	11人	13人	213人
5年度	86人	83人	11人	11人	191人

## ② 加算算定の状況

加算項目(単位) 年度	在宅復帰療養 加算Ⅱ(46)	夜勤職員配置 加算(24)	口腔衛生管 理Ⅱ(110)	認知症専門ケ ア加算Ⅰ(3)	短期集中個別 リハ(240)	認知症短期集 中リハ加算 (240)
算定延回数(回)	32,460	32,460	1,157	20,370	4,444	837
加算収入額(円)	14,931,600	7,790,400	1,272,700	611,100	10,665,600	2,008,800

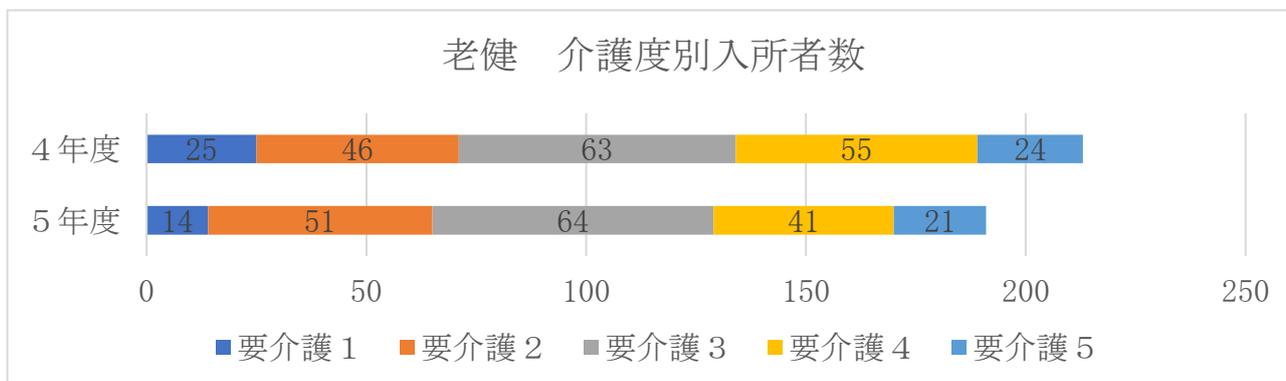
加算項目(単位) 年度	認知症ケア加 算(76)	安全対策体制 加算(20)	療養食加算(6)	経口維持Ⅰ (400)	経口維持Ⅱ (100)	栄養マネジメ ント強化加算 (11)
算定延回数(回)	16,631	158	31,610	179	179	32,460
加算収入額(円)	12,639,560	31,600	1,896,600	716,000	179,000	3,570,600

加算項目(単位) 年度	排せつ支援Ⅰ (10)	排せつ支援Ⅱ (15)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅰ(3)	褥瘡マネジメ ント加算Ⅱ (13)	科学的介護推 進体制加算Ⅰ (40)	リハビリマネジ メント計画(33)
算定延回数(回)	657	547	301	903	1,204	1,204
加算収入額(円)	65,700	82,050	9,030	117,390	481,600	397,320

加算項目(単位) 年度	初期加算(30)	入所前後訪問 指導加算ⅠⅠ (450)	退所時指導 (400)	入退所前連携 加算Ⅰ(600)	退所時情報提 供(500)	ターミナル ⅠⅠ(80)
算定延回数(回)	4,140	60	9	75	81	15
加算収入額(円)	1,242,000	270,000	36,000	450,000	405,000	12,000

加算項目(単位) 年度	ターミナル 21(160)	ターミナル 31(820)	ターミナル 41(1,650)	所定疾患Ⅰ (235)	所定疾患Ⅱ (475)	介護サービス 体制加算Ⅱ (18)
算定延回数(回)	94	17	9	54	191	32,460
加算収入額(円)	150,400	139,400	148,500	126,900	907,250	5,842,800

加算項目(単位) 年度	介護職員処遇 改善加算Ⅰ	介護職員等 特定処遇改善 加算	ベースアップ等 支援加算	加算収入額合計
算定延回数(回)	1,207	1,207	1,207	92,841,230
加算収入額(円)	14,707,810	7,919,560	3,016,960	



## 2. 介護部門

### (一般療養棟)

令和5年度は、コロナ禍から5類への引き下げの中、施設の感染対策に準じできる範囲での活動に重点を置いた一年でした。

ご利用者の生活の質の向上として、特に住環境の整備に力を入れ、身の回りの清潔を保つために各居室担当による清掃、整理整頓を責任持って行うようユニット単位で啓発に努めました。レクリエーションについてもユニット単位で計画、立案し、小規模なものからフロア全体で楽しめるものをご利用者に提供することができました。リスク管理についても常に物品の適所配置に努めて事故予防に努め、居室変更を柔軟に行うことで見守り強化にも力を入れました。オンライン面会については、その順序や対応の仕方について苦情を受けた経験から、マニュアルを作成し各職員への周知を行いました。

今年度の厳しい隔離対策の中、前年度に経験したような大規模な感染症の発症はありませんでしたが、平時より意識しながら業務することの重要さは忘れず、一人ひとりが責任を持った行動をとることができました。職員本人の体調不良による欠勤のほか、職員家族の体調不良による自宅待機者も多くあり、職員不足にて日勤業務に支障をきたす場面がありました。同様、須津なぎさカフェにも担当者を出席させることができませんでした。

人材育成については、フロア全職員で接遇マナー向上に向けての取り組みを行いました。

一人ひとりの職員が自身の言動を意識し責任を持つことができ、また振り返りについてもユニットリーダーがフィードバックすることで、受ける側、伝える側双方で達成感を得る事ができました。来年度も定期的な取り組みを行う事で、意識を途切らせることのないよう努めていきます。

### (認知症専門棟)

令和5年度は、コロナウィルスの分類が2類から5類へと引き下げになりましたが、施設では感染対策に重視した対応を行ってきました。

認知症専門棟内では感染症が発症することなくご利用者に安心・安全な生活を提供することができました。その中で職員や同居家族の感染が多くあり業務縮小することもあり改めて常に通常業務を行える環境を作る大切さを感じました。今後は、職員個々にしっかりと感染対策・体調管理を行い常に同じケアを提供できるように努めていきたいと思っております。

看取りでは、施設での感染対応の中、本人の想いをくみ取り、またご家族の想いにも寄り添い、職員や多職種連携にて一丸となり最期を迎えお見送りすることができました。次年度に向けての課題としてはご家族との時間を作る機会を増やしていきたいと思っております。

人材育成については、ユニット内でコミュニケーションの機会を持ち、メンバーひとり一人の課題の明確化に努めましたが早期解決までには至りませんでした。今後の課題としてユニット内だけではなく、主任・副主任をはじめユニットリーダーで共通の方針を持ち、同じ指導方法で成長の促しを行っていきます。職員個々の想いを理解し成功に導く事でモチベーションアップを図りたいと考えます。

### 3. 看護部門

令和5年度は新型コロナウイルスの分類が5類に移行する大きな変化のある年となりました。周囲の状況を注視しながら対策緩和に取り組み、施設内への持ち込み防止に努めました。9月よりワクチンの追加接種を行い、ご利用者と職員の接種を計画通り実施しました。

また職員やその家族の体調異変の情報より精査を通じた出勤制限の管理、新規入所者の個別対応について期間の設定を行い、施設内での感染症の集団感染を防ぐことができました。また、感染症BCPの策定を行い、施設サービスが安定的・継続的に提供できる体制となりました。

皮膚排せつケア委員会として、LIFEへのデータ提出を継続し、ケアの質の向上に取り組みました。令和5年度の施設内での褥瘡発生件数は11件(前年度13件)と減少しました。

看取りについては早期にご家族との面会を設定し、ご本人の価値観に添った意思決定が行えるようACPの支援に努めました。感染対策で面会制限がある中でも、柔軟に対応し、ご家族が面会できる時間に配慮しました。

人材育成においてはキャリアパスモデルとして京都府看護協会のクリニカルラダーを取り入れ運用を開始しました。ラダーレベルの導入により、個々の課題と目標が明確となり、役職、指導者、各種委員と個々のレベルに応じたキャリア形成の整備に繋がりました。

Off-JTについては自身のラダーレベルに準じた京都府看護協会の実践能力研修を受講し延べ18人の受講を支援し、内3名が実習指導者講習会、看取り基礎研修、災害支援ナース養成研修を修了し、専門性の高い技能の習得に繋がりました。

社会活動として京都府立看護学校老年看護学実習における実習指導、介護職員喀痰吸引研修への講師派遣、能登半島地震における災害支援ナースの災害派遣を行いました。

今年度は2名の看護職員の新規採用に繋がり、看護部門の体制強化を図る事ができました。

### 4. 支援相談室

平成30年6月から算定を開始した「超強化型加算」の算定を令和5年度も継続することができました。支援相談室が中心となり算定要件である「在宅復帰率」「回転率」「入退所前後訪問数」に加えて「入所稼働率」をこまめに把握し、毎月の業務運営会議などを通して各部署主任を中心に情報共有を行いました。

また、新型コロナウイルス感染症は令和5年5月8日に「5類感染症」に移行されましたが、重症化リスクの高い高齢者施設でもあるため、長期・短期の入所時には個室での様子観察期間を6日間設け感染予防対策を実施しました。これにより、多床室希望の方にも入所時個室を準備する必要性があり、1つの個室を順番に入所いただくため稼働率に大きく影響が出ました。ショートステイのご利用にも同じ条件の対策を実施していた為、利用控えやリピーターに繋がらないのが現状でした。

前年度に引き続き、面会制限、行事の自粛など様々な対策、制限を強いられましたが、ICTを活用し、施設へ来苑、または自宅からできるオンライン面会システムの継続、なぎさ苑だよりの発行や、施設玄関にはご利用中の様子を来苑されたご家族に見ていただけるよう電子モニターを設置し、ご家族に少しでもご利用者の様子をお伝えできるよう努めました。

ご利用者には、相談室主催の「きんとくカフェ」を月に 1 回開催しおやつの時間に淹れたてのコーヒーで日常に彩を添え喜んでいただきました。

その他、可能な範囲で社会福祉学科の学生の実習受け入れ、地域貢献活動として吉津公民館にて「須津なぎさカフェ」、吉津小学校 3 年生を対象とした「認知症サポーター養成講座」を開催しました。また須津地区で開催される「ふれあいサロン」へ参加する方の送迎のお手伝いも継続し、地域住民の方と顔見知りの関係を築くことができ、須津なぎさカフェへの参加にも繋がりました。

令和 6 年度は、入所時の感染予防対策も少し緩和されるため、稼働率アップを意識しスムーズに入所が行えるように努めます。

## 5. 機能訓練室(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)

前年度に引き続き、超強化型維持の為、ご利用者全員に週 3 回以上の個別リハビリ介入を行いました。短期集中リハビリテーション加算の算定に関しては、セラピストの退職や休職での人員減少、また前年度と比較し加算対象者数自体が減少傾向であった影響により、実施数は減少しています。また認知症短期集中リハビリテーション加算の算定に関しては、上記理由に加え、施設長の交代により 7 月まで算定不可であった状況により、大幅に減少しています。

経口維持加算については、言語聴覚士の退職により、言語聴覚士非常勤 1 名での対応となり、減少傾向にありましたが、1 月からは言語聴覚士正職員 1 名増員し、加算対象者の増加に努めました。今後は慢性的な人員不足の状況下でも、できる限りご利用者の満足度の低下に繋がらないよう、多職種での連携を図りながらリハビリの提供を行っていきます。

また理学療法士・作業療法士・言語聴覚士それぞれの専門性を発揮できるような職場環境の構築を目指します。今後ご利用者の在宅復帰を支援できるように努めていきます。

## 6. 給食部門

ご利用者の状態に合わせた食事形態、療養食(糖尿病食、塩分制限)、看取り期のご利用者に寄り添った食事、栄養提供に取り組みました。嚥下困難者に対応した食事形態(やわらか食、ソフト食、ミキサー食)の安定した提供と定期的に栄養マネジメント委員会や食事観察会議に参加して摂取状況を把握、フロアのケアカンファレンスで栄養面の提案をしてきました。また、ご利用者に合わせた個別対応、看取りなど、多職種と連携し体調によつての食事の提供にも協力しました。

令和 5 年度は、前年度同様に食の充実を図るため、食形態充実やわか食の対応、天橋園(デイサービス、ハウゼ天橋、天橋の家)へ食事提供の対応や HACCP の取り組みにあわせ管理栄養士や調理員の連携により、作業面の改善を図る事ができました。

感染対応にも多職種連携で取り組み、感染拡大防止や作業の軽減に協力する事にも努めました。今年度は、約 7 時間に及ぶ計画停電があり、事前に準備、確認を行なっていた

為、食事の手配や備蓄などローリングストックなどの使用、ディスポ容器にて対応し、大きな影響はありませんでした。

部署内感染や自宅待機による職員の減少により少人数で適常提供する事となり、今後、感染症等で人員不足になった場合の食事提供方法、メニューなど、BCPを参考に臨機応変に対応できる仕組みが必要と考えます。

### ①提供実績

#### (ア) 延食数

区分 年度	特養	短期入所	デイケア	天橋園通所	ハウゼ天橋	GH天橋の家
4年度	31,960	3,278	5,341	5,792	2,619	11,241
5年度	32,454	2,539	5,594	4,581	2,416	11,145

#### (イ) 栄養基準（1日あたり）

区分 項目	エネルギー (kcal)	タンパク質 (g)	カルシウム (mg)	脂質 (g)	鉄分 (mg)	ビタミン ( $\mu$ gRE)	ビタミンB (mg)	ビタミンB (mg)	ビタミン (mg)	食物繊維 (g)	食塩相当量 (g)
基準	1480	60	600	39	7.5	460	0.8	1.0	90	15	7.5
4年度	1482	60.7	529	40.5	6.7	598	0.72	0.96	88	12.1	7.4
5年度	1482	60.7	521	41.2	6.5	591	0.7	0.94	87	11.4	7.3

#### (ウ) 食品群別摂取量（1人1日当たり食糧構成）

（単位：g）

区分 群類	穀類	いも及び でん粉類	砂糖 及び甘味 料	菓子類	油脂類	種実類	豆類	魚介類	肉類	卵類	乳類	淡色野菜類	緑黄色野菜類	果実類	藻類	嗜好飲料類	調味料及び香料	調理加工品類
目標	210	60	10	40	8	3	50	60	40	35	200	200	150	60	3	-	-	-
5年度	204.7	51.6	14.9	30.7	7.2	2.2	42.6	61.5	50.9	27.5	202	169	128	60.5	1.2	9.5	56	15.5

### 7. 医務室（診察室、薬局、医師、歯科衛生士、薬剤師、看護師）

医師の指導の下、看護師、歯科衛生士、薬剤師が中心となって、医薬品や検査キット、医療器材等の整備を通して、診察室と薬局の管理と整備に取り組みました。

入所時リスク説明書、病状説明書、看取り同意書＜人生の最終段階における医療・介護にかかわる同意書＞などを準備、活用することで、ご家族への説明と同意(IC)を多職種協働で行うように対応し、ご利用者のファイルのトップに入れることで、急変時や看取りケアの徹底に活用してきました。

コロナウイルスの感染拡大に対応するため、発熱などの症状のある方には抗原検査、PCR検査を使用し、感染予防対策を行いました。

インフルエンザ対策としては、入所、通所のご利用者へインフルエンザワクチン接種を実施するとともに、職員には無料でワクチン接種するばかりでなく、家族がインフルエンザに罹患した場合にも潜伏期間、職員に自宅待機を命ずるなど対策を強化してきました。

歯科衛生士は、入所ご利用者の口腔衛生のチェックを行い、口腔衛生加算を取得するとともに、入所ご利用者のみならず通所ご利用者にも対象を広げ、加算取得を行ないました。介護、看護スタッフへの定期的な指導を行い、口腔衛生管理に取り組み、加算を取得しました。

## 8. 短期入所

### ①短期入所 療養介護状況

#### (ア) 介護度別 ・平均介護度(延人数)

年度 \ 介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均介護度
4年度	24人	74人	46人	41人	25人	210人	2.9
5年度	15人	20人	29人	61人	48人	173人	3.6

#### (イ) 要支援 入所状況(延人数)

年度 \ 介護度	要支援1	要支援2	合計
4年度	0人	0人	0人
5年度	0人	0人	0人

#### (ウ) 地区別 入所状況(延人数)

年度 \ 介護度	宮津市	与謝野町	伊根町	その他
4年度	30人	15人	2人	0人
5年度	24人	13人	0人	0人

#### (エ) 新規契約者(延人数)

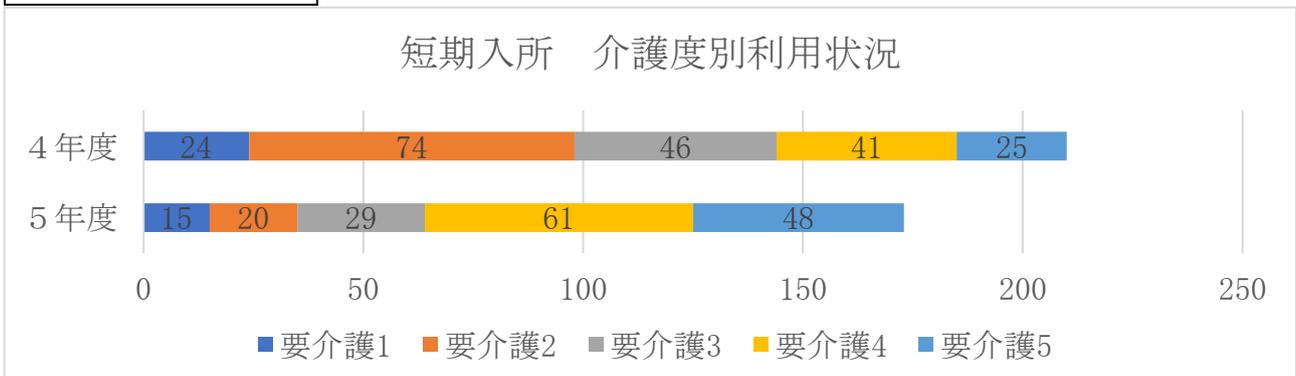
年度 \ 介護度	新規入所者
4年度	36人
5年度	10人

### ②加算算定の状況

加算項目 (単位) 年度	送迎加算(184)	個別リハビリ (240)	夜勤職員配置 (24)	認知症専門ケ ア加算Ⅰ(3)	認知症ケア加 算Ⅰ(76)	療養食加算(8)
算定延回数(回)	376	439	1,124	615	472	710
加算収入額(円)	691,840	1,053,600	269,760	18,450	358,720	56,800

加算項目 (単位) 年度	重度療養管理 加算Ⅰ(120)	在宅復帰療養 加算Ⅱ(46)	介護サービス体 制加算Ⅱ(18)	介護職員処遇 改善加算Ⅰ	介護職員等特定 処遇改善加算	ベースアップ 等支援加算
算定延回数(回)	131	1,124	1,124	173	173	173
加算収入額(円)	157,200	517,040	202,320	576,760	310,630	118,450

加算収入額合計
4,331,570



## 9. 通所リハビリ

令和5年度も継続して感染症予防対策を全職員で徹底し、ご利用者へも注意喚起を促し、蔓延予防に努め、事業所内で感染者を出すことなくサービスを提供できました。また、大雪や台風等の気象状況の悪化時や警報発令中も、利用者の生活を支える為にも時短営業で対応しました。

通所リハビリとして、リハビリの継続が必要とされる退院・退所後の方を優先的に受け入れるよう他の関係機関とも連携し、ご利用者やご家族が安心して在宅生活が継続できるように努めましたが、短期集中リハビリ等の加算の増加につながりませんでした。

リハビリ・看護職員・歯科衛生士等の専門職の配置により、多職種で共に関わる事で、引き続きご利用者の満足度も向上し、安定した加算やサービスの提供ができました。また、前年より要介護5の方が増加し、認知症の方や男性利用者が増えています。

### ①利用実績

#### (ア) 平均利用者数・利用率(要支援含む)

年度\区分	利用定員/日	営業日数	延利用者数	平均利用者数/日	利用率
4年度	27人	249日	5,436人	21.8人	80.85%
5年度	27人	257日	5,698人	22.2人	82.11%

※令和4年度コロナ感染症により10日営業を休止する

#### (イ) 介護度別利用状況・平均要介護度(介護給付事業)

年度\介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	平均要介護度
4年度	1,358人	1,183人	1,449人	322人	322人	4,634人	2.37
5年度	1,491人	1,357人	1,397人	337人	354人	4,936人	2.33

### ②加算算定の状況

加算項目(単位) 年度	入浴介助加算 I (40)	入浴介助加算 II (60)	口腔機能向上加算 II (160)	リハマネ提供加算 1(12)	リハマネ提供加算 2(16)	リハマネ提供加算 3(20)
算定延回数(回)	4,228	423	1,508	23	63	4
加算収入額(円)	1,691,200	253,800	2,412,800	2,760	10,080	800

加算項目(単位) 年度	リハマネ提供加算 4(24)	リハマネ提供加算 4(28)	認知症短期集中リハ(240)	科学的介護推進体制加算(40)	介護サービス体制加算 I (22)
算定延回数(回)	4,515	3	178	895	4,530
加算収入額(円)	1,083,600	840	427,200	358,000	996,600

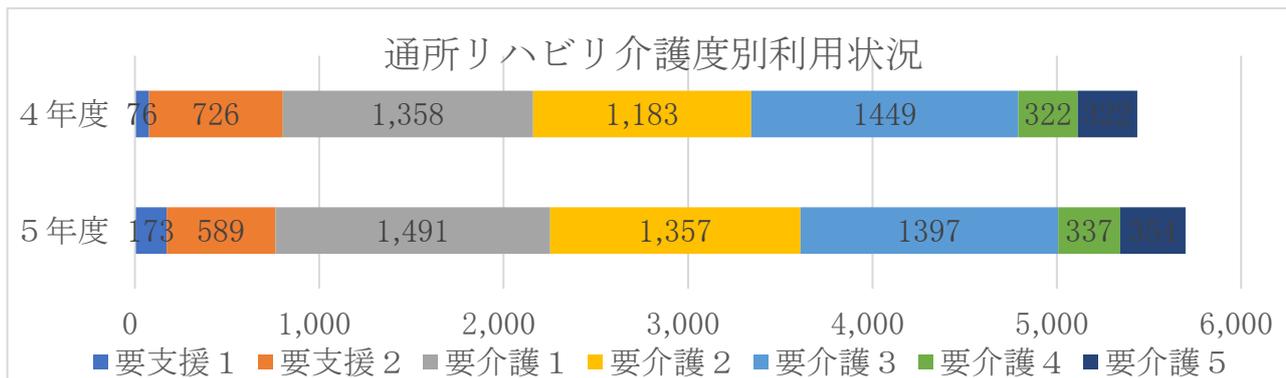
加算項目(単位) 年度	介護職員処遇改善加算 I	介護職員等特定処遇改善加算	ベースアップ等支援加算	加算収入額合計
算定延回数(回)	892	892	892	11,179,610
加算収入額(円)	2,406,150	1,024,090	511,690	

#### (ウ) 介護度別利用状況(介護予防事業)

年度\介護度	要支援1	要支援2	介護予防計
4年度	76人	726人	802人
5年度	173人	589人	762人

加算項目 (単位) 年度	運動機能向上 (225)	複数サービス I 2 (480)	体制加算 I 1 (88)	体制加算 I 2 (176)	リハ科学的介 護推進体制加 算 (40)
算定延回数(回)	13	119	33	99	132
加算収入額(円)	29,250	571,200	29,040	174,240	52,800

加算項目 (単位) 年度	介護職員処遇 改善加算 I	介護職員等 特定処遇改善 加算	ベースアップ等 支援加算	加算収入額合計
算定延回数(回)	132	132	132	1,275,210
加算収入額(円)	255,390	108,520	54,770	



## 10. 訪問リハビリ

令和5年度は入所兼務にて理学療法士1名・作業療法士2名・言語聴覚士1名の4名体制(常勤換算1.7~2.1名)となっています。入退職によるセラピストの人員減少や感染予防対策のため、実施総数は減少しています。今後も感染症対策に留意しながら、ご利用者のニーズに沿った専門性の高いリハビリテーションが提供できるよう努めます。

### ①利用実績・加算算定の状況

加算項目 (単位) 年度	訪問リハピ リ (307)	予防訪問リハ ピリ (307)	サービス提供 体制加算 I (6)	リハ移行支援 加算 (17)	加算収入額合計
算定延回数(回)	3,822	547	4,369	1,294	13,894,950
加算収入額(円)	11,733,540	1,679,290	262,140	219,980	

## 11. 居宅介護支援事業所

令和5年度も6人体制を維持し、宮津市(栗田地区から日置地区まで)や与謝野町岩滝地区を中心に積極的に新規受け入れを行い件数維持に努めました。ご利用者の心身の状況や生活状況を勘案し、ご利用者やご家族の意向を尊重した上で、住み慣れた地域で自立した生活を送ることができるよう、ご利用者の立場に立った居宅サービス計画書を作成し支援を行いました。

医療連携については、主治医や関係機関と安心ネットを利用することで、連携を密にし、ご利用者が安心して在宅生活を送ることができるように支援しました。

対応困難事例も増える中、事業所内で事例報告を行い、担当者が一人に対応するのではなく、必要時には地域包括支援センターと連携、協働し対応に努めました。様々な事情を抱えているご利用者に対し、適切な支援が行えるように介護支援専門員研究会や地域ケア会議での意見交換や研修に積極的に参加し、他職種と交流する機会を持ち、また、法人内での定例会議や事例検討会を開催しケアマネジャーとしての資質向上に努めました。

ターミナルケアマネジメント加算は、令和5年度について6件と必要要件5件を満たしましたが、退院退所加算を算定する要件を満たす機会は増えず医療介護連携加算を算定することはできません。引き続き特定事業所加算Ⅱの算定に加えて、医療介護連携加算再開に向けて努力を継続していきます。

また、ケアプランデータ連携システムの運用が開始となり他事業所との実績や提供表のやり取りをデータ連携で行うことで、入力作業の簡略化が図られました。チャットワークの使用も併せ、今後さらにデータ化することでコストの削減に心がけます。

## ①利用実績

### 相談件数

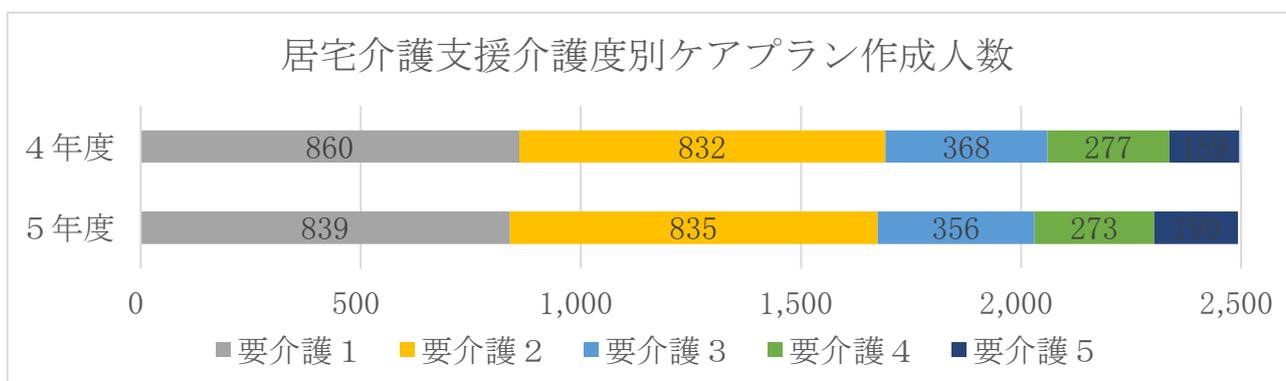
年度	内容	介護保険 その他福祉サービス	権利擁護 (成年後見)	高齢者虐待
	4年度	実数	302件	16件
	延数	28,052件	85件	46件
5年度	実数	290件	15件	6件
	延数	25,817件	135件	15件

### ケアプラン作成管理件数

年度	延べ人数	実件数
4年度	2,496人	302件
5年度	2,493人	290件

### 介護度別プラン作成延べ人数

年度	区分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4年度		860人	832人	368人	277人	159人	2,496人
5年度		839人	835人	356人	273人	190人	2,493人



## 1.2. 事務部門

令和5年度は、令和4年度のクラスターの経験から、再発防止のためご利用者の受入れ時等スクリーニング検査の徹底、職員の家庭内で体調不良者がある場合の管理を徹底した

ことで、施設内での感染症の発生はありませんでした。しかし、慎重な受入れにより稼働率に大きく影響がありました。

【おむつ等販売】

年度 \ 項目	販売数
4年度	0 パック
5年度	19 パック

【職員健康診断等の実施状況】

健診等内容	実施日	受診者数	備考
一般健診	9月13日	104人	年1回
腰痛健診	9月13日	80人	半年に1回
	2月19日	70人	
深夜業務従事者健診	2月19日	44人	年1回
ストレスチェック	9月5日	94人	年1回

【職員研修参加状況】

①内部研修

研修・会議名	参加人数	研修内容
職員研修委員会	11名	プライバシーの保護の取り組みに関する研修
職員全体会議	81名	令和4年度の振り返りと令和5年度の目標
安全衛生委員会	26名	腰痛予防(コアスタビリティ)
安全衛生委員会	10名	メンタルタフネスセミナー～セルフケアとラインケア
リスクマネジメント委員会	7名	事例検討会
感染症対策委員会	22名	HIVとエイズの正しい知識～私の経験～
身体拘束虐待防止委員会	14名	事例検討会
皮膚排泄ケア委員会	20名	スキンケアについて
安全衛生委員会	13名	リラクゼーションとエクササイズ(アニマルフロー)①
看護部	20名	施設看取り
職員研修委員会	11名	階層別研修主任対象①(リーダーシップに必要な要素)
安全衛生委員会	7名	リラクゼーションとエクササイズ(アニマルフロー)②
職員研修委員会	35名	自然災害時の対応について
職員研修委員会	11名	階層別研修主任対象②(リーダーシップとマネジメントの違い)
身体拘束虐待防止委員会	30名	身体拘束・虐待防止の基礎知識と事例検討
リスクマネジメント委員会	35名	苦情解決の心がまえ
職員研修委員会	9名	階層別研修主任対象③(フォロワーシップの理解)
職員研修委員会	41名	活動報告会(2階・3階ぶどうユニット・看護部)

②外部研修

研修・会議名	参加人数	研修の開催方法・研修内容
社会福祉士実習指導者講習会	2人	実習指導概論実習・マネジメント論・実習プログラミング
認知症介護基礎研修	2人	認知症の人を理解するために必要な基礎的知識

京都府認知症介護実践者研修	21人	認知症ケアの理念と支援方法
京都府認知症介護実践リーダー研修	6人	チームケアを構築するリーダーの役割
京都府介護支援専門員実務経験者更新研修課程Ⅱ	4人	(WEB)事例検討
キャラバンメイト養成研修	4人	認知症サポーターに伝えたい事・養成講座の運営方法
災害支援ナース養成研修	2人	災害各論・感染症各論
全老健管理者(職)研修	1人	(WEB)介護報酬改定・稼働率向上と維持・カスタマーハラスメント
医療と介護の連携推進研修会	1人	パーキンソン病の病態と支援
宮津市地域ケア会議	4人	地域医療ブレイクスルー・事例検討
認知症短期集中リハビリテーション研修	1人	(WEB)認知症施策の方向性・認知症の理解とケア
リスクマネージャー養成講座	1人	(WEB)リスクマネジメントについて
看護実習指導者講習会(特定分野)	11人	(WEB)実習指導の実際
災害支援ナースとして派遣(京都府看護協会)	4人	石川県金沢市へ災害支援ナースとして派遣
福祉即戦力フォローアップ研修	4人	自分たちの業務を振り返る
宮津市高齢者等虐待防止ネットワーク研修会	6人	職員のメンタルヘルスとアンガーマネジメント
福祉サービス苦情解決事業セミナー	1人	苦情対応の心がまえ
災害に備えたBCP作成研修	1人	リスク管理・優先業務の選定
安全運転講習会	1人	道路交通法改定について
宮津市介護支援専門員研究会	6人	京都式ケアプラン点検について
京都府看護協会実践能力向上研修	11人	(WEB)慢性心不全患者の緩和ケア (WEB)感染症の基礎知識と看護 (WEB)フレイルの視点から高齢者の生活を支えよう (WEB)フィジカルアセスメントと臨床推論 (WEB)検査データ解釈の基礎 (WEB)高齢者のスキントラブルの予防と現場で役立つ対処法 (WEB)予測不能な時代を生き抜くレジリエンス (WEB)避難所での看護活動の備え (WEB)介護施設で暮らす高齢者に必要な知識とケア
京都府看護協会委員会企画研修	1人	これからのタスクシフト・タスクシェア
看取り基礎研修	3人	(WEB)看取りの課題・カンファレンスについて
感染症予防対策研修会	2人	(WEB)高齢者施設等での感染対応と施設内療養
高齢者の転倒リスクアセスメント	1人	(WEB)多職種で取り組む転倒予防について
認知症看護研修	1人	(WEB)認知症の原因疾患について
ゲートキーパー養成研修	1人	ゲートキーパーの役割
第29回京都府老人保健施設大会	1人	府民公開講座・研究発表
京都府看護協会地区別看取りサポート研修	1人	看取りについて
居宅介護支援他法人との事例検討会	6人	事例検討・情報交換
栄養部会研修会	1人	(WEB)栄養管理の為のフィジカルアセスメント
普通救命講習会	68人	普通救命講習会Ⅰ

### 【地域事業・総合事業】

月	事業名	参加者数
4月・12月	はしだて一斉清掃	5人
毎月 (5月・8月1月以外)	せせらぎの会サロン送迎	9人

【介護実習等受入状況】

月	学校・事業所名	実習内容	受入人数
4月～10月	京都府立看護学校	看護学生施設実習	21人
7月・8月・9月	龍谷大学短期大学部	ソーシャルワーク実習	3人
9月	福祉即戦力人材養成科	施設実習	2人
8月・9月	立命館大学	ソーシャルワーク実習	3人
9月	京都府看護協会京都府ナースセンター	訪問看護eラーニング実習	1人

【各種会議・委員会開催状況】

会議名	開催回数／年
業務運営会議	12回
入所検討会議	51回
ユニット会議	96回
リーダー会議	24回
部署別会議（各部署）	12回
感染症予防対策委員会（臨時会議含む）	13回
身体拘束虐待防止委員会	12回
リスクマネジメント委員会	12回
職員研修委員会	12回
苦情対応委員会	3回
安全衛生委員会	12回
サービス向上委員会	12回
栄養マネジメント委員会	12回
認知症ケア委員会	12回
皮膚排せつケア委員会	12回
敬老会委員会	2回
北星会施設長会議	24回

## 施設・事業所別 職員数一覧

令和6年3月31日現在

事業名 北星会 法人本部

		事務局長	事務局次長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	のびのび	その他		合計
実人数	常勤職員	1	1	6										8
	非常勤職員										6	1		7
常勤換算による人数		1.0	1.0	6.0							1.2	0.1		9.3

## 施設・事業所別 職員数一覧

令和6年3月31日現在

### 天橋園拠点

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	介護補助				合計
実人数	常勤職員	1		2	7	21	2								33
	非常勤職員					22	2			3	3				30
常勤換算による人数		1.0		2.0	7.0	28.0	3.1			1.5	1.9				44.5

### 事業所名 天橋園通所介護事業所

(利用定員 25名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	その他	介護補助						合計
実人数	常勤職員	1		1		5	1								8
	非常勤職員					1	1	2	2						6
常勤換算による人数		0.3		1.0		5.8	1.8	1.2	1.1						11.2

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

### 事業所名 ハウゼ天橋通所介護事業所 認知症対応型通所介護

(利用定員 12名) 介護予防含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	その他							合計
実人数	常勤職員	1		1		2	1								5
	非常勤職員					3	1	1							5
常勤換算による人数		0.2		1.0		3.4	1.3	0.3							6.2

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

事業所名 天橋訪問介護事業所

介護予防・総合事業も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護師	調理員							合計
実人数	常勤職員	1				4									5
	非常勤職員					15									15
常勤換算による人数		0.2				8.4									8.6

※介護予防・総合事業との兼務も含める。

事業所名 グループホーム天橋の家

(利用定員 18名)

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護師	調理員	介護補助						合計
実人数	常勤職員	1			1	10									12
	非常勤職員					3		1							4
常勤換算による人数		0.3			1.0	10.4		0.8							12.5

事業所名 天橋園居宅介護支援事業所

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護師	調理員							合計
実人数	常勤職員				6										6
	非常勤職員														0
常勤換算による人数					6.0										6.0

※1名は管理者と兼務

## 施設・事業所別 職員数一覧

令和 6 年 3 月 31 日現在

### 与謝の園拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	嘱託医	運転手	介護補助	合計
実人数	常勤職員	1	3	3	5	49	7	2	4					74
	非常勤職員					12	2		5	3	1	1	1	25
常勤換算による人数		1.0	3.0	3.0	5.0	52.4	7.2	2.0	7.0	1.8	0.1	0.4	0.5	83.4

### 施設名 特別養護老人ホーム 与謝の園

(利用定員 長期 80名・短期 10名)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	その他	嘱託医	介護補助	合計
実人数	常勤職員	1	3	2	1	37	5	2	4				55
	非常勤職員					7	1		4	3	1	1	17
常勤換算による人数		0.5	3.0	2.0	1.0	39.8	5.8	2.0	6.5	1.8	0.1	0.5	63.0

### 事業所名 与謝の園通所介護事業所

(利用定員 24名) 介護予防・総合事業も含む・日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員	運転手	合計
実人数	常勤職員	1		1		6	1			9
	非常勤職員					3	1	1	1	6
常勤換算による人数		0.2		1.0		7.6	1.3	0.5	0.4	11.0

事業所名 与謝の園訪問介護事業所 介護予防・総合事業も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員						合計
実人数	常勤職員	1				4								5
	非常勤職員					2								2
常勤換算による人数		0.2				4.7								4.9

※介護予防・総合事業との兼務は含める。

事業所名 与謝の園訪問入浴介護事業所 介護予防も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員						合計
実人数	常勤職員	1				2	1							4
	非常勤職員					1								1
常勤換算による人数		0.1				0.3	0.1							0.5

※介護予防との兼務は含める。

事業所名 与謝の園居宅介護支援事業所

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員						合計
実人数	常勤職員				4									4
	非常勤職員													0
常勤換算による人数					4.0									4.0

※1名は管理者と兼務

# 施設・事業所別 職員数一覧

令和6年3月31日現在

## 天橋の郷・Re-Style・はまなす苑拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	言語聴覚士	管理栄養士	調理員	介護補助	その他	運転手	嘱託医	合計
実人数	常勤職員	1	3	5	1	60	6	1	2	8					88
	非常勤職員					12	4			2	5	1	2	1	27
常勤換算による人数		1.0	3.0	5.0	1.0	66.2	8.6	1.0	2.0	9.3	1.9	0.8	0.7	0.1	100.6

## 施設名 特別養護老人ホーム 天橋の郷

(利用定員 長期 70名・短期 20名)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	管理栄養士	調理員	介護補助	その他	運転手	嘱託医	合計
実人数	常勤職員	1	3	2	1	47	3	2	8					67
	非常勤職員					9	3		2	4	1	1	1	21
常勤換算による人数		0.9	3.0	2.0	1.0	52.1	4.8	2.0	9.3	1.1	0.8	0.4	0.1	77.5

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

## 事業所名 天橋の郷通所介護事業所

(利用定員 35名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	調理員	介護補助	言語聴覚士	合計
実人数	常勤職員	1		1		7	1			1	11
	非常勤職員					1	1				2
常勤換算による人数		0.1		1.0		7.8	1.8			1.0	11.7

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

**事業所名 Re-Style 通所介護事業所**

(利用定員 15 名/午前、15 名/午後) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	運転手							合計
実人数	常勤職員			1		2	1								4
	非常勤職員					1		1							2
常勤換算による人数				1.0		2.8	1.0	0.3							5.1

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

**事業所名 はまなす苑通所介護事業所**

(利用定員 20 名) 介護予防・総合事業も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	介護補助							合計
実人数	常勤職員			1		3	1								5
	非常勤職員					1		1							2
常勤換算による人数				1.0		3.5	1.0	0.8							6.3

※介護予防・総合事業との兼務を含む。

※生活相談員 1 名は管理者と兼務

# 施設・事業所別 職員数一覧

令和6年3月31日現在

## なぎさ苑拠点

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	宿直員	清掃員・運転手	薬剤師	合計
実人数	常勤職員	1	3	3	6	43	13	3	3	1	1	2	7				86
	非常勤職員					7	2		1	1	1		4	3	2	1	22
常勤換算による人数		1.0	3.0	3.0	6.0	45.7	14.3	3.0	3.6	1.4	1.1	2.0	9.0	1.2	1.0	0.4	95.7

## 施設名 介護老人保健施設リハ・ヴィラなぎさ苑

(利用定員 長期 100名・短期 空床利用型)

		施設長	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	宿直員	清掃員	薬剤師	合計
実人数	常勤職員	1	3	3		37	13	3	3	1	1	2	7				74
	非常勤職員					6	2		1	1	1		4	3	1	1	20
常勤換算による人数		0.8	3.0	3.0		39.3	13.0	2.5	2.2	1.0	1.0	1.8	9.0	1.2	0.6	0.4	78.8

※施設長は医師。※相談員と介護支援専門員は兼務。

## 事業所名 なぎさ苑通所リハビリ事業所

(利用定員 27名) 介護予防も含む・土曜日と日曜日は休業

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護員	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員	運転手			合計
実人数	常勤職員	1				6		3	3	1	1	2					17
	非常勤職員					1	2		1					1			5
常勤換算による人数		0.1				6.4	1.3	0.2	0.6	0.2	0.1	0.2		0.4			9.5

※介護予防との兼務を含む。

事業所名 **なぎさ苑 訪問リハビリ** 介護予防も含む

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	歯科衛生士	管理栄養士	調理員				合計
実人数	常勤職員	1						3	3								7
	非常勤職員								1	1							2
常勤換算による人数		0.1						0.3	0.8	0.2							1.4

※介護予防との兼務を含む。

事業所名 **なぎさ苑居宅介護支援事業所**

		管理者	事務員	相談員	介護支援専門員	介護員	看護師	調理員									合計
実人数	常勤職員				6												6
	非常勤職員																0
常勤換算による人数					6.0												6.0

※1名は管理者と兼務

## 用語解説

### ※インフォーマルサービス

インフォーマルサービスは、家族や地域社会、ボランティア、NPO、事業者などが提供する介護保険サービス以外のものを指します。介護保険内で行われるフォーマルサービスでは、日常生活上の問題や課題を解決することを目的としており、必要以上にサービスを利用できない制度となっています。インフォーマルサービスは、フォーマルサービスでは対応できない部分をカバーでき、細やかなニーズに応えられるのが特徴です。

### ※オレンジカフェ

認知症の方やそのご家族、地域住民、介護職員など誰もが集える場所です。気軽に悩み相談や世間話などができるコミュニケーションの場として全国各地で運営されています。

### ※共生型サービス

共生型サービスとは、2018年度（平成30年度）の関係法令の改正によって、介護保険と障害福祉のサービスを同一の事業所で一体的に提供することができるよう、新たに創設されたサービスです。共生型サービスは介護保険、障害福祉の事業所にとって地域への貢献につながるサービスの一つとなっています。

### ※クリニカルラダー

クリニカルラダーとは看護師の能力やキャリアを開発する指標のこととなります。クリニカルラダーのラダー(Ladder)とは「はしご」を意味していますので「臨床のはしご」と言われています。

### ※ケアプランデータ連携システム

厚生労働省の取り組みとして、居宅介護支援事業所と介護サービス事業所間で、ケアプラン（提供票・計画書）やサービス利用票（予定・実績）などをオンラインでやりとりすることのできる情報連携基盤です。

### ※サーベイランス

施設内感染の発生を防止するために、関連するデータを適時に職員へフィードバックして日常の対策に役立てる活動のことです。データは行政機関への報告のためではなく、施設内の職員が日常の感染管理活動に活用するために収集します。

### ※サルコペニア

加齢による筋肉量の減少および筋力の低下のことを指します。サルコペニアになると、歩く、立ち上がるなどの日常生活の基本的な動作に影響が生じ、介護が必要になったり、転倒しやすくなったりします。また、各種疾患の重症化や生存期間にもサルコペニアが影響するとされます。筋肉が減り、からだの機能が低下した状態を指し、握力が低下しているか（男性 26 kg未満、女性 18 kg未満）、または歩く速度が低下していて（0.8m/秒以下）、検査で筋肉量が基準より減少していることが認められると、サルコペニアと診断されます。

## ※社会福祉連携推進法人制度

社会福祉連携推進法人は、社会福祉法人等が社員となり、福祉サービス事業者間の連携・協働を図るための取組等を行う新たな法人制度となります。社会福祉連携推進法人の活用により、福祉・介護人材の確保や、法人の経営基盤の強化、地域共生の取組の推進などが可能となります。

## ※就労継続支援

障害のある方を就労面で支援するサービスに就労継続支援があります。就労継続支援は、障害のある方に働く場を提供しつつ、必要な知識やスキルを身につけていけるよう支援することを目的としたサービスとなります。

## ※スローフード

ファストフードに対して唱えられた考え方で、その土地の伝統的な食文化や食材を見直す運動、または、その食品自体を指しています。

## ※生産性向上の委員会

テクノロジーの導入や介護助手の活用、役割分担の見直しなどをうまく機能させる方策を検討する委員会を設置し、定期的開催していくことを求められています。令和6年度から3年間の経過措置を設けられ、その終了後に義務化となる予定です。

## ※認知症キャラバンメイト

キャラバンメイトは「認知症サポーター養成講座」を企画・開催し、講師を務めます。講師開催をきっかけに、住民から相談を受けたり関係機関との連携を図ったりすることを通し、地域のリーダー役となる役割が期待されています。

## ※パーソン・センタード・ケア

パーソン・センタード・ケアとは、認知症のご高齢者を一人の人として尊重し、「その人の視点や立場に立って理解しながらケアを行う」という認知症ケアにおける考え方のひとつです。

## ※パワーリハビリテーション

パワーリハビリテーションは、マシントレーニングを軽負荷で行い、全身各部の使っていない筋を動かすことにより効果が得られます。よって筋力強化を目的としたトレーニングではありません。

## ※バーサルインデックス（BI）

ADL維持加算を算定するために、利用者の日常生活動作（ADL）を主観でなく数値で評価する方法で、全10項目より構成されています。

## ※フレイル

フレイルは、海外の老年医学の分野で使用されている英語の「Frailty（フレイルティ）」が語源となっています。「Frailty」を日本語に訳すと「虚弱」や「老衰」、「脆弱」などを意味します。

フレイルとは、加齢に伴う予備能力の低下のため、ストレスに対する回復力が低下した状態を指します。サルコペニアよりも広い範囲を含む概念で、身体的な問題のほか、認知機能の衰えなどの精

神・心理的問題、独居や経済的困窮などの社会的問題などから成り、要介護状態の前段階と位置づけられています。フレイルの人はサルコペニアを合併することも多く、サルコペニアがフレイルの引き金にもなりかねません。

多くの方は、フレイルを経て要介護状態へ進むと考えられていますが、高齢者においては特にフレイルが発症しやすいことがわかっています。高齢者が増えている現代社会において、フレイルに早く気づき、正しく介入（治療や予防）することが大切といわれています。

## ※プリセプター

先輩であるベテラン職員がプリセプターとなり、見習いの新人職員（プリセプティー）をマンツーマンで指導する新人研修制度をプリセプター制度といいます。

## ※放課後児童クラブ

保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後等に小学校の余剰教室や児童館等を利用して適切な遊び及び生活の場を与えて、その健全な育成を図るものです。

## ※ミールラウンド

ミールラウンドとは、お食事の状態を観察し、実際のお食事の摂取状況や食べる姿勢、ひと口量、お食事の形態、ムセの有無などを見てまわります。咀嚼能力、口腔機能、嚥下機能、食事姿勢などをチェックして、どこに問題があるかなどを評価していきます。

問題が見つかり、すぐに改善することができることと、多職種で意見交換をおこない専門的な立場から適切なお食事を決めていく場合があります。

## ※ユマニチュード

ユマニチュードはフランス発祥のケア技法で、特に認知症の方に効果的だと注目されています。ユマニチュードは基本的な技術である「4つの柱」と、ケアの順番を示す「5つのステップ」で構成される技法のことを指しています。

4つの柱：「見る」「話す」「触れる」「立つ」

5つのステップ：「出会いの準備」「ケアの準備」「知覚の連結」「感情の固定」「再会の約束」

## ※レスパイトケア

レスパイトケアとは、介護を行っている人を一時的に解放し、休みをとってもらおう支援を指します。介護サービスが高齢者を預かることで、ご家族の負担を減らすということです。

## ※ACP（アドバンス・ケア・プランニング/人生会議）

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）とは「人生会議」ともいい、もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて前もって考え、家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合い、共有する取組のことを言います。

## ※ADL（日常生活動作）

日常生活動作(ADL)は、高齢者・障害者が、日常生活上の動作をどの程度行えるのかを示す指標です。すなわち日常生活動作(ADL)が高いほど、自立した生活が可能です。反対に日常生活動作(ADL)が低い方は、日常

生活全般にわたって手厚い介護が必要です。

### ※BCP対策（事業継続計画）

感染症や自然災害が発生した場合であっても、介護サービスが安定的・継続的に提供されることが重要であることから、介護施設・事業所における業務継続計画（BCP）の作成することを義務化されています。

### ※DX（デジタルトランスフォーメーション）

「デジタル変革」とも訳されます。デジタル技術を使って、人手のかかっていたサービスを自動化したり作業を効率化したりするのが「デジタル化」だとすると、DXはデジタル技術やデータを駆使して作業の一部にとどまらず社会や暮らし全体がより便利になるよう大胆に変革していく取り組みを指します。

### ※e-ラーニングシステム「サクラボ」

eラーニングとは、インターネットを活用した学習方法のことです。サーバー（学習管理システム）に保存した動画などの教材を配信し、インターネットに接続可能なパソコンやタブレット、スマートフォンなどモバイル端末を利用して受講します。令和4年度より北星会にでも導入を行いました。

### ※HACCP（ハサップ）

令和3年6月1日から、原則として、すべての食品等事業者の皆様へHACCPに沿った衛生管理に取り組んでいくことになりました。食品等事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入等の危害要因（ハザード）を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法です。

### ※IADL（手段的日常生活動作）

IADLは手段的日常生活動作と呼ばれており、自分自身で自立した生活を送る上で欠かせない能力です。IADLはADLよりも複雑な動作も含んでおり、電話応対や買い物などの判断力が求められる動作まで包括しています。IADLが維持できなくなると、やがてADLも維持できなくなっていく、という流れです。

### ※LIFE（ライフ）

LIFE（科学的介護情報システム）とは、介護サービスやケアの質の向上を目的として、2021年4月から厚労省が新たなデータベースを構築しており、このデータベースは科学的介護システム「LIFE」と呼ばれます。

### ※OJT

OJTとは「On the Job Training」の略語です。新人や業務未経験者に必要なスキルや知識を、上司や先輩などのトレーナー（OJT担当者）が実務を通じて指導していく教育方法です。

### ※OFF-JT

OFF-JTは「Off The Job Training」の略称で、職場外研修と訳されます。職場外研修とは、現場から離れて行われる研修やセミナーのことを指し、社内の人材開発担当の部署や外部講師が作成した内容の教育を受け、業務に必要な知識やスキルを習得することを目的とした教育のことです。

## ※PDCAサイクル

PDCAサイクルのPDCAとは、「Plan(計画)」「Do(実行)」「Check(評価)」「Action(改善)」の四つの言葉の頭文字を取ったものです。

## ※QOL

QOLとは「Quality of Life (クオリティ・オブ・ライフ)」の略称で、日本語では「生活の質」などと訳され「生きがい」や「満足度」という意味があります。特に医療や介護など患者・ご利用者の望む生活を支える上で重要な考え方で、QOL評価法(SF-36、WHO QOL-26など)も広まっています。

## ※Zoom

Zoom(ズーム)は、パソコンやスマートフォンで利用できるビジネス向けのオンライン会議(リモート会議)ツールです。